

岡崎市

地域福祉計画策定のための

市民アンケート調査

【調査結果報告書】

令和3年3月

岡 崎 市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査方法及び回収結果	1
3 報告書の見方	2
II. 調査結果の総括	3
1 回答者について.....	3
2 地域生活に関することについて	4
3 福祉への関心、意識について	7
4 地域福祉に関することについて	8
5 災害時の支援について	10
6 社会福祉協議会について	10
7 近年の福祉課題について	11
8 地域福祉全般について	12
III. 調査結果	13
1 回答者について.....	13
2 地域生活に関することについて	24
3 福祉への関心、意識について	49
4 地域福祉に関することについて	59
5 災害時の支援について	78
6 社会福祉協議会について	82
7 近年の福祉課題について	85
8 地域福祉全般について	94
IV. 自由意見	100

I. 調査の概要

1 調査の目的

「第4次岡崎市地域福祉計画」策定の基礎資料とするため、市内在住の18歳以上の一般市民3,000人を対象に地域福祉に関する市民アンケート調査を実施しました。

地域福祉に対する意識や地域活動への参加意向、支援を必要とする人に対する施策等、市民視点から本市の地域福祉の状況や施策のニーズを把握することを目的としました。

2 調査方法及び回収結果

調査方法及び回収結果は下記のとおりです。

区分	市民
調査地域	岡崎市内全域
調査対象	市内在住の18歳以上の一般市民
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和2年9月9日～令和2年9月25日
配布数（A）	3,000件
回収件数（B）	1,475件
回収率（B／A）	49.2%

3 報告書の見方

- 本報告書では、設問ごとに全体の集計結果を記載しています。
- 図表中の「令和2年度調査」はこのたび実施した調査を、「平成27年度調査」は「第3次岡崎市地域福祉計画」策定時に実施した調査をそれぞれ指しており、適宜比較を行っています。一部、「平成27年度調査」実施時と設問や選択肢が異なるものがあります。
- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答がない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- クロス集計表の表側（左端の分類層）は「不明・無回答」を除いているため、各層の実数と集計対象の総数が一致しないことがあります。
- 本文中の分析文やグラフ・表中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部、必要に応じて省略しています。
- 表中の網掛けは、「不明・無回答」を除き、最も割合の高い項目と二番目に割合の高い項目で表しています。なお、回答者総数（N）が10未満の場合は順位づけを省略し、読取文の対象外としています。

II. 調査結果の総括

1 回答者について

1. 回答者について

ポイント

- 回答者の分布は、年齢では40歳代、50歳代、75歳以上、圏域では本庁圏域がそれぞれ多くなっているものの、幅広い年齢、居住地からの回答があった。
- 福祉との関わりがある人は約6人に1人である。

回答者の年齢分布について、40歳代、50歳代、75歳以上が多くなっていますが、10代から75歳以上まで幅広く回答がありました。また、居住している日常生活圏域では、本庁圏域が多くなっていますが、いずれの日常生活圏域においても一定の回答がありました。

福祉との関わりについて、仕事やボランティア活動、福祉サービスを利用している人等、日頃から福祉との関わりがある人は全体の約6人に1人となっています。

2 地域生活に関することについて

1. 近所づきあいについて

ポイント

- 若い年代で近所づきあいが希薄になっている。
- 年代ごとに望む近所づきあいの程度が異なっていることがうかがえる。
- 額田圏域で近所づきあいが密であり、満足度も高い。

近所づきあいの程度について、年齢が上がるにつれて日頃から助け合っている人の割合が高くなる傾向がみられます。一方、40歳未満では、「ほとんどつきあいがいい」と回答した人の割合が2割前後と他の年代と比較して高くなっており、若い年代で近所づきあいが希薄であることがうかがえます。

近所づきあいの満足度について、いずれの年代においても約75%以上の人が『満足している』と回答しています。特に、20歳未満では『満足している』が9割以上となっており、密な近所づきあいを希望していないことがうかがえます。

圏域別の状況をみると、額田圏域においては、近所づきあいの程度について、「日頃から助け合っている」が35.3%と他の圏域と比較して高くなっています。また、近所づきあいの満足度について、『満足していない』が10.3%と他の圏域と比較して低くなっています。近所づきあいが密であることが、近所づきあいの満足度の高さにつながっていることがうかがえます。

2. 近所での助け合いについて

ポイント

- 困りごとは減少している一方、相談する意向があるものの相談していない人が一定数みられる。
- 年代別では、20 歳代や 30 歳代、圏域別では、六ツ美圏域で近所の助け合いが少ない。

日常生活における困りごとについて、平成 27 年度調査と比較すると、いずれの困りごととも減少しています。困りごとの相談先について、「家族・親族」は約 8 割、「友人・知人」は約 4 割の回答があったものの、「民生委員児童委員」「町内会役員」「行政（市役所など）」「学校や保育園、幼稚園」「学区福祉委員会」等の地域組織や公的機関を挙げる回答はいずれも 1 割以下となっています。また、「相談していない」が 7.0%となっており、平成 27 年度調査と比較すると、ほぼ横ばいとなっています。相談していない理由としては、「信頼できる人・相談できる人がいない」が約 3 割と最も高くなっており、平成 27 年度調査と比較すると 10 ポイント以上増加しています。また、「なんとなく相談しづらい」「どこに（誰に）相談したらよいのかわからない」という回答もいずれも 2 割以上みられ、平成 27 年度調査と比較すると 10 ポイント以上増加しています。困りごとを相談したいという意向はあるものの、相談できる人がいないことや相談先がわからないこと、相談しづらいことが理由で相談できていない人が一定数みられます。

近所でのお手伝いの有無について、お手伝いをしたことがある人が 19.3%となっており、平成 27 年度調査と比較すると、6.1 ポイント減少していますが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が反映されている可能性があります。年代別では、20 歳代や 30 歳代で、圏域別では、六ツ美圏域でお手伝いをしたことがある人の割合が 13.2%となっており、近所での助け合いが少ない状況であることがうかがえます。

3. 地域活動について

ポイント

- 地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人は約半数。
- 年代別では、40 歳未満、圏域別では、本庁圏域や岡崎圏域、矢作圏域で地域内の行事や町内会活動に参加・協力している人が少ない。
- 地域活動に参加・協力していない理由として、興味・関心がないことや 60 歳未満では多忙であることが多く挙げられている。

地域内の行事や町内会活動への参加・協力の状況について、『参加・協力している』が5割となっています。性別では、女性と比較して、男性で『参加・協力している』が5.5ポイント高くなっています。年代別では、40歳未満で、圏域別では、本庁圏域や岡崎圏域、矢作圏域で『参加・協力している』が5割未満と他の年代、圏域と比較して低くなっています。

地域活動に参加・協力していない理由としては、「興味・関心がない」が約3割と最も高くなっており、平成27年度調査と比較すると13.3ポイント増加しています。年代別の状況を見ると、60歳未満で「忙しくて時間がない」が3割前後みられます。

3 福祉への関心、意識について

1. 福祉への関心、意識について

ポイント

- 50 歳未満で福祉に関心がない人が多い。
- 周囲からの支援が必要な家庭があると感じている人が約4割みられる。
- コミュニケーションによる支援であればできると回答している人が多い。

福祉への関心の有無について、『関心がある』が52.5%となっています。年代別の状況を見ると、20 歳未満、30 歳代、40 歳代で『関心がある』が他の年代と比較して低くなっています。圏域別の状況を見ると、本庁圏域、矢作圏域、額田圏域で『関心がある』が6割前後と他の年代と比較して高くなっています。

周囲の人の手助けや協力・支援が必要だと思われる家庭について、「特にない」が54.4%となっており、周囲からの支援が必要な家庭があると感じている人が約4割あることがうかがえます。そのような家庭に対する支援について、「支援したいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が30.9%、「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が19.3%、「支援したいが何をすればよいかわからない」が13.6%となっており、6割以上の人が支援する意向があることがうかがえます。

ちょっとしたお手伝いについて、「安否確認の声かけ」が約4割、「話し相手」が約3割となっており、コミュニケーションによる支援であればできると回答している人が多くなっています。

4 地域福祉に関することについて

1. 地域福祉施策について

ポイント

- 岡崎市地域福祉計画、C S W（コミュニティソーシャルワーカー）の認知度が低い。
- 移動手段の確保、地域福祉を支える人材の育成、権利擁護の推進と見守り体制の充実、バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくりが優先して充実が求められている。
- 地域の助け合いや福祉活動を推進するため、相談機能の充実や情報発信が求められている。

岡崎市地域福祉計画の認知度について、『知っている』は 7.0%に留まっています。また、C S W（コミュニティソーシャルワーカー）の認知度について、『知っている』は 8.8%となっています。圏域別の状況をみると、額田圏域で『知っている』が 16.2%と他の圏域と比較して高くなっています。

岡崎市の地域福祉に関する取組のうち、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目は、「移動手段の確保」「地域福祉を支える人材の育成」「権利擁護の推進と見守り体制の充実」「バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくり」が挙げられています。特に、「移動手段の確保」は平成 27 年度調査と比較すると、地域福祉に関する取組の中で唯一満足度が下がっています。

地域の助け合いや福祉活動を進めるために必要なことについて、「保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る」が 38.7%、「福祉に関する情報や活動内容などをもっと P R する」が 35.9%となっており、相談機能の充実や情報発信が求められています。

2. 福祉に関する情報について

ポイント

- 情報の入手先について、全世代では「市政だよりおかざき」が最も高いが、40歳未満でインターネットが高くなっている。
- 自分にとって必要な福祉サービスに関する情報を入手できていない人が過半数を占めている。
- 年代ごとに福祉サービスに関する情報のニーズが異なっている。

情報の入手先について、「市の広報紙「市政だよりおかざき」が74.3%、「町内会の回覧板」が38.6%となっています。年代別の状況をみると、40歳未満で「インターネット」がいずれも3割以上と他の年代と比較して高くなっています。

自分にとって必要な福祉サービスに関する情報の入手状況について、『できている』が13.6%に留まっており、『できていない』が過半数を占めています。年代別の状況をみると、年齢が上がるにつれて情報を入手できている人の割合が高くなる傾向がみられます。

福祉に関する情報のニーズについて、「各種福祉サービスの種類、内容」が60.0%、「各種福祉サービスの利用に係る費用」が42.0%、「各種福祉サービスの利用手続き」が38.8%となっており、福祉サービスの利用時に必要となる情報のニーズが高くなっています。年代別の状況をみると、30歳未満で「福祉ボランティアに関する情報」、50歳未満で「保育や子育てに関する情報」、40歳以上で「各種福祉サービスの相談窓口」「介護保険に関する情報」がそれぞれ他の年代と比較して高くなっており、年代ごとに福祉サービスに関する情報のニーズが異なっていることがうかがえます。

5 災害時の支援について

1. 災害時の支援について

ポイント

- 災害時避難行動要支援者支援制度の認知度が低い。
- 日頃からの近所づきあいにより、災害時に支援することができる関係づくりを進める必要があると考えている人が多い。

災害時避難行動要支援者支援制度の認知度について、「知っている」は17.4%に留まっています。年代別の状況をみると、50歳未満で「知っている」が1割前後と他の年代と比較して低くなっています。

避難行動要支援者について、「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が6割近くとなっており、日頃からの近所づきあいにより、災害時に支援することができる関係づくりを進める必要があると考える人が多いことがうかがえます。

6 社会福祉協議会について

1. 社会福祉協議会について

ポイント

- 60歳未満で社会福祉協議会の認知度が低い。
- 社会福祉協議会には、居宅サービスの提供や福祉に関する相談窓口の機能強化、地域福祉活動を推進するための支援が求められている。

岡崎市社会福祉協議会の認知度について、「知っている」は16.5%に留まっています。年代別の状況をみると、60歳未満で「知っている」が約15%以下と他の年代と比較して低くなっています。

社会福祉協議会に期待することについて、「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が45.8%、「福祉に関する総合相談窓口」が32.7%、「住民が共に支えあう仕組みづくりの支援」が30.8%となっており、居宅サービスの提供や福祉に関する相談窓口の機能強化、地域福祉活動を推進するための支援が求められています。

7 近年の福祉課題について

1. ひきこもりの方や生活困窮者に対する支援について

ポイント

- ひきこもりの方や生活困窮者に対する支援として、相談支援や就労支援が求められている。
- 生活困窮者自立支援制度の認知度が5%以下である。

ひきこもりの方を支援するための重要な施策について、「相談（面談や電話等を含む）」が44.3%、「友達のような話し相手」が35.0%、「就労支援」が34.1%となっています。また、生活困窮者を支援するための重要な施策については、「自立に向けた相談支援」が57.8%、「就労に向けた訓練・支援」が53.4%となっています。ひきこもりの方や生活困窮者に対し、相談支援や就労に向けた支援が必要と考える人が多くなっています。

生活困窮者自立支援制度の認知度について、「どのような制度か知っている」は4.6%に留まっています。

2. 支援を必要とする人の権利擁護について

ポイント

- 若い年代や後期高齢者で成年後見制度の認知度が低い。
- 成年後見支援センターの認知度が低い。

成年後見制度の認知度について、「どのような制度か知っている」は20.5%となっています。年代別の状況をみると、30歳未満や40歳代、75歳以上で「どのような制度か知っている」は15%前後となっており、他の年代と比較して低くなっています。

成年後見支援センターの認知度について、「知らない」が73.4%となっています。

8 地域福祉全般について

1. 地域福祉全般について

ポイント

- 若い年代を中心に学区福祉委員会の認知度が低い。
- 日頃からの住民同士のつきあいにより、住民同士が助け合い、支え合える地域づくりを進める必要があると考えている人が多い。
- 市には、住民同士が交流する機会の提供や情報提供・発信の充実、支援を必要とする人への訪問、福祉に関する相談窓口の機能強化が求められている。
- 8割弱の人が今の生活に満足している。

学区福祉委員会の認知度について、『知っている』は13.4%となっています。年代別の状況を見ると、年齢が上がるにつれて『知っている』が高くなる傾向がみられます。また、圏域別の状況を見ると、額田圏域で『知っている』が30.9%と他の圏域と比較して高くなっています。

地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために地域として取り組む必要があることについて、「隣近所の住民同士の普段からのつきあい」が約5割となっています。日頃からの住民同士のつきあいにより、住民同士が助け合い、支え合える地域づくりを進める必要があると考える人が多いことがうかがえます。また、市として支援を行う必要があることについて、「地域の人々が交流する機会を設ける」「情報提供・情報発信を充実させる」「孤立している障がい者・介護を要する高齢者を時々訪問して、声をかける」「福祉に関する総合相談窓口を設ける」がいずれも3割前後となっています。住民同士が交流する機会の提供や情報提供・発信の充実、支援を必要とする人への訪問、福祉に関する相談窓口の機能強化が求められています。

今の生活への満足度について、『満足している』が8割弱となっています。年代別では、20歳未満で、圏域別では、六ツ美圏域で『満足している』が他の年代、圏域と比較して高くなっています。

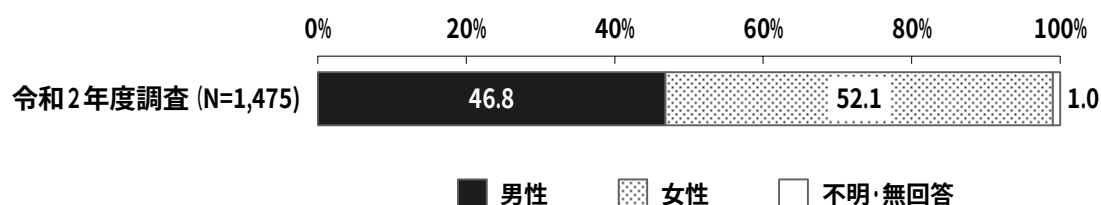
Ⅲ. 調査結果

1 回答者について

問1 あなたの性別を教えてください。（どちらかの番号に○）

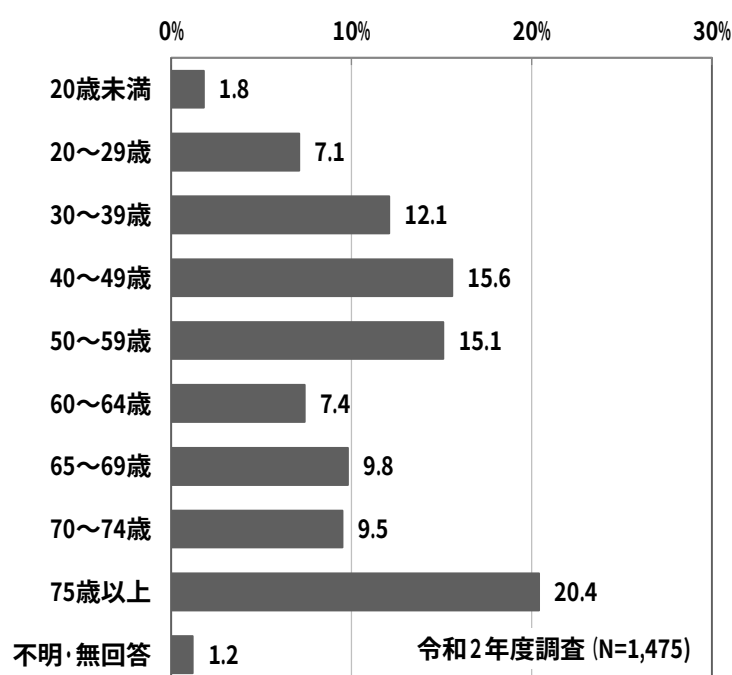
※自認する性別をお答えください。

令和2年度調査では、全体で「男性」が46.8%、「女性」が52.1%となっています。



問2 あなたの年齢を教えてください。（令和2年9月1日現在の満年齢）
（1つの番号に○）

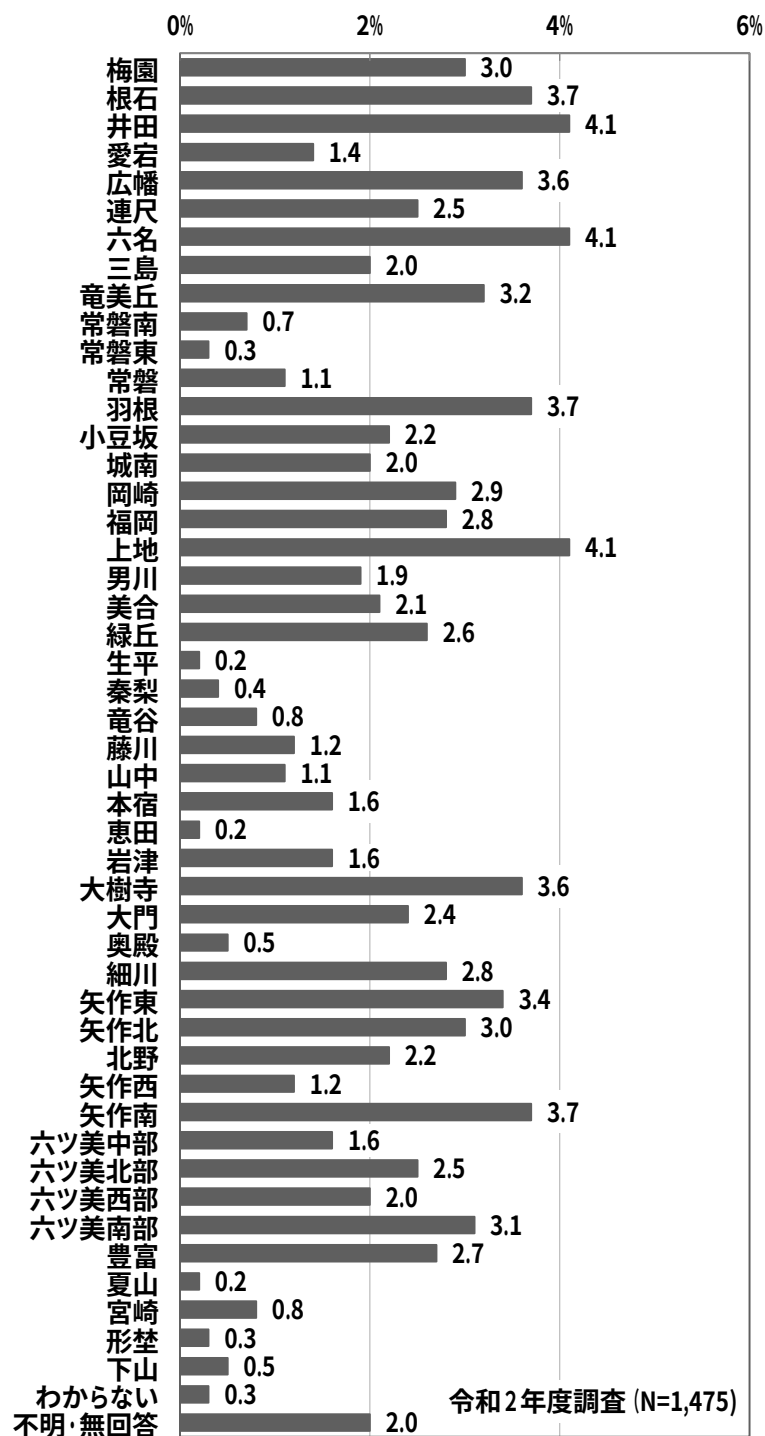
令和2年度調査では、全体で「75歳以上」が20.4%と最も高く、次いで「40～49歳」が15.6%、「50～59歳」が15.1%となっています。



問3 あなたのお住まいの小学校区はどちらですか。(1つの番号に○)

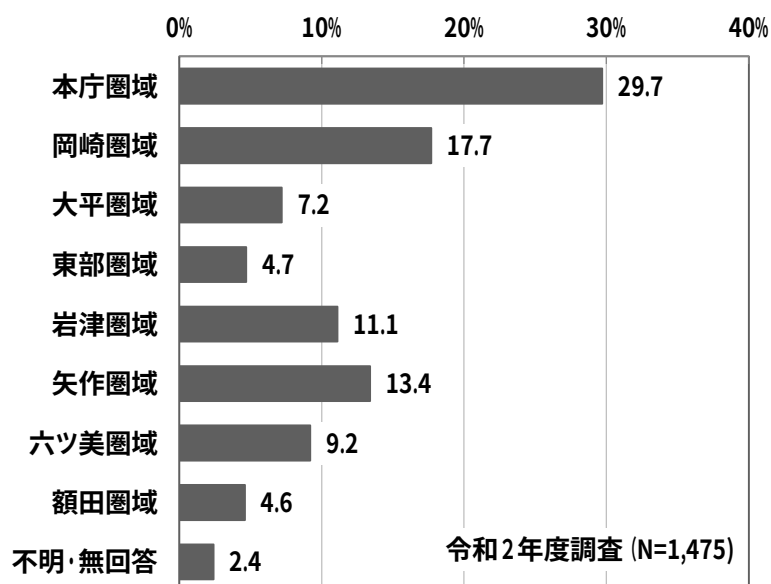
小学校区がわからない方は、お住まいの町名をお書きください。

令和2年度調査では、全体で「井田」「六名」「上地」がそれぞれ4.1%と最も高く、次いで「根石」「羽根」「矢作南」がそれぞれ3.7%、「広幡」「大樹寺」がそれぞれ3.6%となっています。



■お住まいの日常生活圏域※の状況

お住まいの日常生活圏域の状況について、令和2年度調査では、全体で「本庁圏域」が29.7%と最も高く、次いで「岡崎圏域」が17.7%、「矢作圏域」が13.4%となっています。

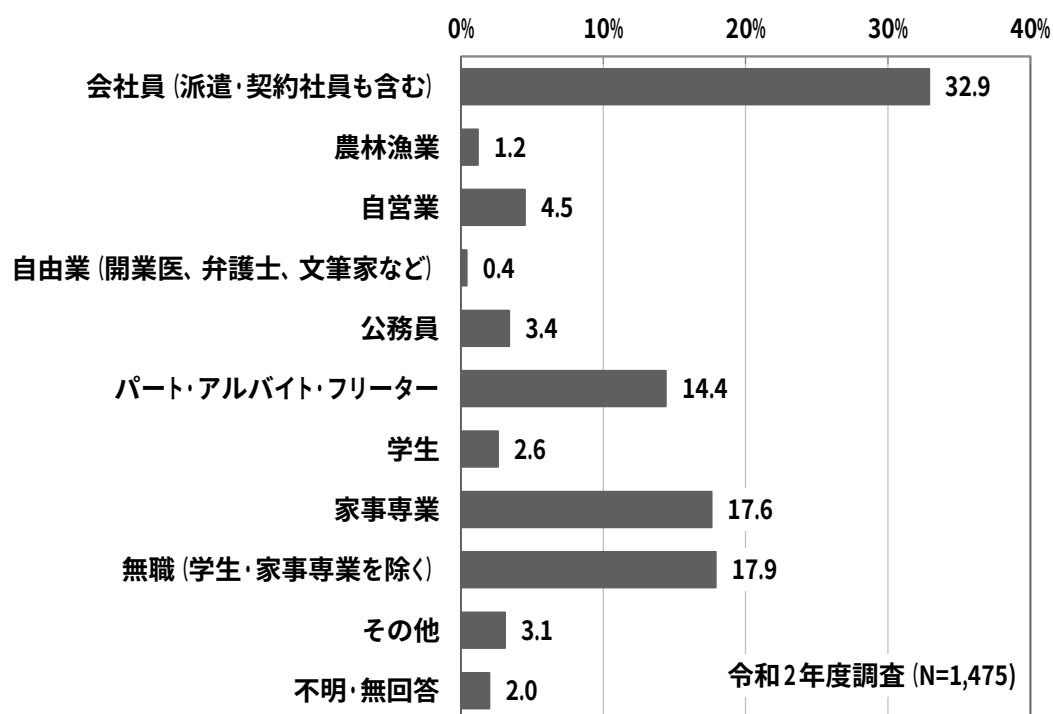


※岡崎市では、地域においてあらゆる支援を包括的、継続的に提供することができるよう、8つの日常生活圏域を設定しています。各日常生活圏域に該当する小学校区は以下のとおりです。

日常生活圏域	小学校区
本庁圏域	梅園、根石、井田、愛宕、広幡、連尺、六名、三島、竜美丘、常磐南、常磐東、常磐
岡崎圏域	羽根、小豆坂、城南、岡崎、福岡、上地
大平圏域	男川、美合、緑丘、生平、秦梨
東部圏域	竜谷、藤川、山中、本宿
岩津圏域	恵田、岩津、大樹寺、大門、奥殿、細川
矢作圏域	矢作東、矢作北、北野、矢作西、矢作南
六ツ美圏域	六ツ美中部、六ツ美北部、六ツ美西部、六ツ美南部
額田圏域	豊富、夏山、宮崎、形埜、下山

問4 あなたの主な職業について伺います。(1つの番号に○)

令和2年度調査では、全体で「会社員（派遣・契約社員も含む）」が32.9%と最も高く、次いで「無職（学生・家事専業を除く）」が17.9%、「家事専業」が17.6%となっています。

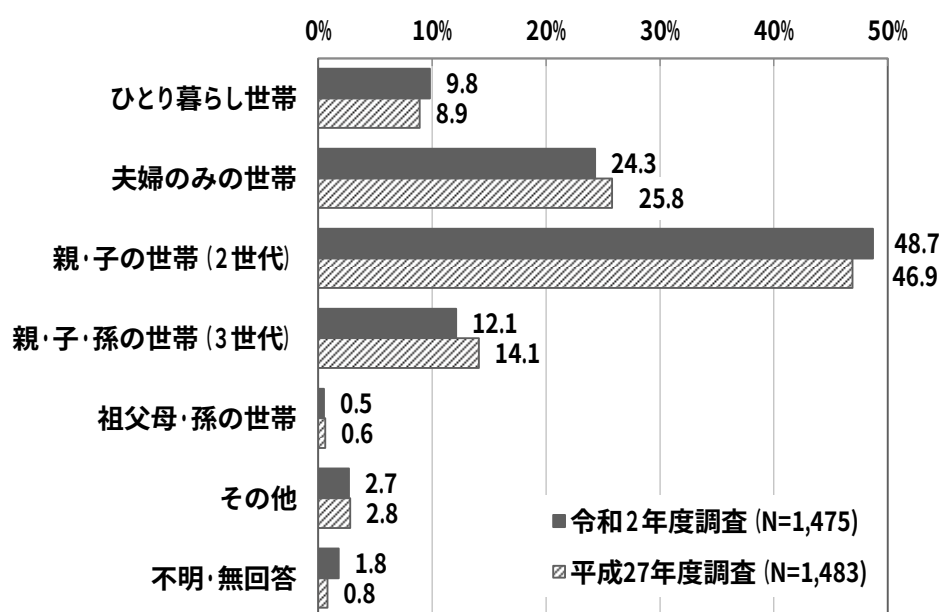


問5 あなたの世帯の家族構成を教えてください。(1つの番号に○)

令和2年度調査では、全体で「親・子・孫の世帯(2世代)」が48.7%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が24.3%、「親・子・孫の世帯(3世代)」が12.1%となっています。

圏域別では、いずれの圏域でも「親・子の世帯(2世代)」が最も高く、岡崎、岩津及び六ツ美の各圏域では5割を超えています。なお、本庁、矢作及び額田の各圏域では、「ひとり暮らし世帯」が1割を超えて高くなっています。

経年で比較すると、「親・子・孫の世帯(3世代)」が令和2年度調査に12.1%と、平成27年度調査と比べて2.0ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

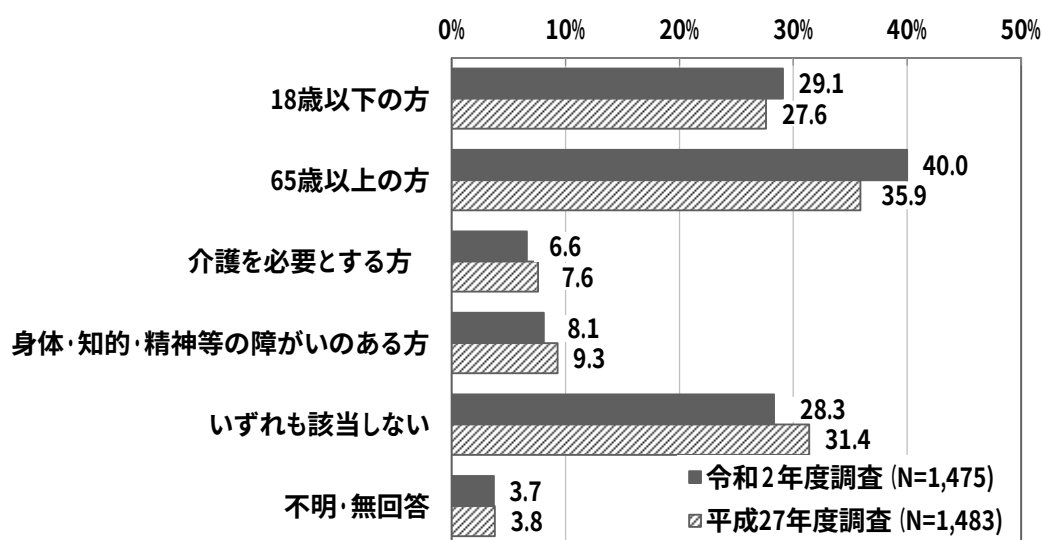
区分		ひとり暮らし世帯	夫婦のみの世帯	親・子の世帯 (2世代)	親・子・孫の世帯 (3世代)	祖父母・孫の世帯	その他	不明・無回答
圏域別	本庁圏域 (N=438)	11.9	25.1	46.6	12.3	0.5	3.0	0.7
	岡崎圏域 (N=261)	8.0	25.7	52.5	10.7	1.1	1.5	0.4
	大平圏域 (N=106)	9.4	24.5	47.2	17.0	0.0	1.9	0.0
	東部圏域 (N=69)	8.7	29.0	42.0	13.0	1.4	4.3	1.4
	岩津圏域 (N=164)	7.3	20.7	57.3	11.0	0.0	2.4	1.2
	矢作圏域 (N=198)	10.1	20.7	49.5	13.6	1.0	5.1	0.0
	六ツ美圏域 (N=136)	6.6	27.9	55.1	9.6	0.0	0.0	0.7
	額田圏域 (N=68)	11.8	23.5	39.7	17.6	0.0	4.4	2.9

問6 あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。

(令和2年9月1日現在で記入してください)(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「65歳以上の方」が40.0%と最も高く、次いで「18歳以下の方」が29.1%、「いずれも該当しない」が28.3%となっています。

経年で比較すると、「65歳以上の方」が令和2年度調査に40.0%と、平成27年度調査と比べて4.1ポイント高くなっています。

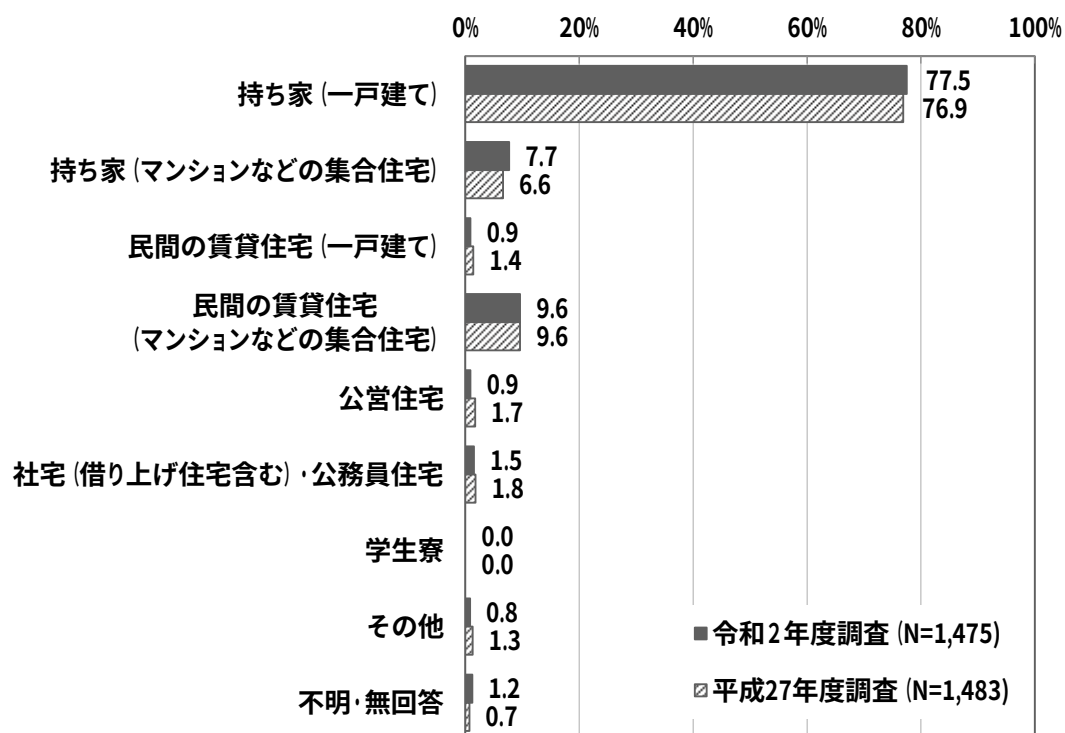


※選択肢について、令和2年度調査は「18歳以下の方」「身体・知的・精神等の障がいのある方」「いずれも該当しない」となっていますが、平成27年度調査は「高校生以下の子ども」「障がいのある方」「いずれもない」です。

問7 あなたのお住まいの形態は次のどれですか。(1つの番号に○)

令和2年度調査では、全体で「持ち家（一戸建て）」が77.5%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅（マンションなどの集合住宅）」が9.6%、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が7.7%となっています。

経年で比較すると、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」が令和2年度調査に7.7%と、平成27年度調査と比べて1.1ポイント高くなっています。

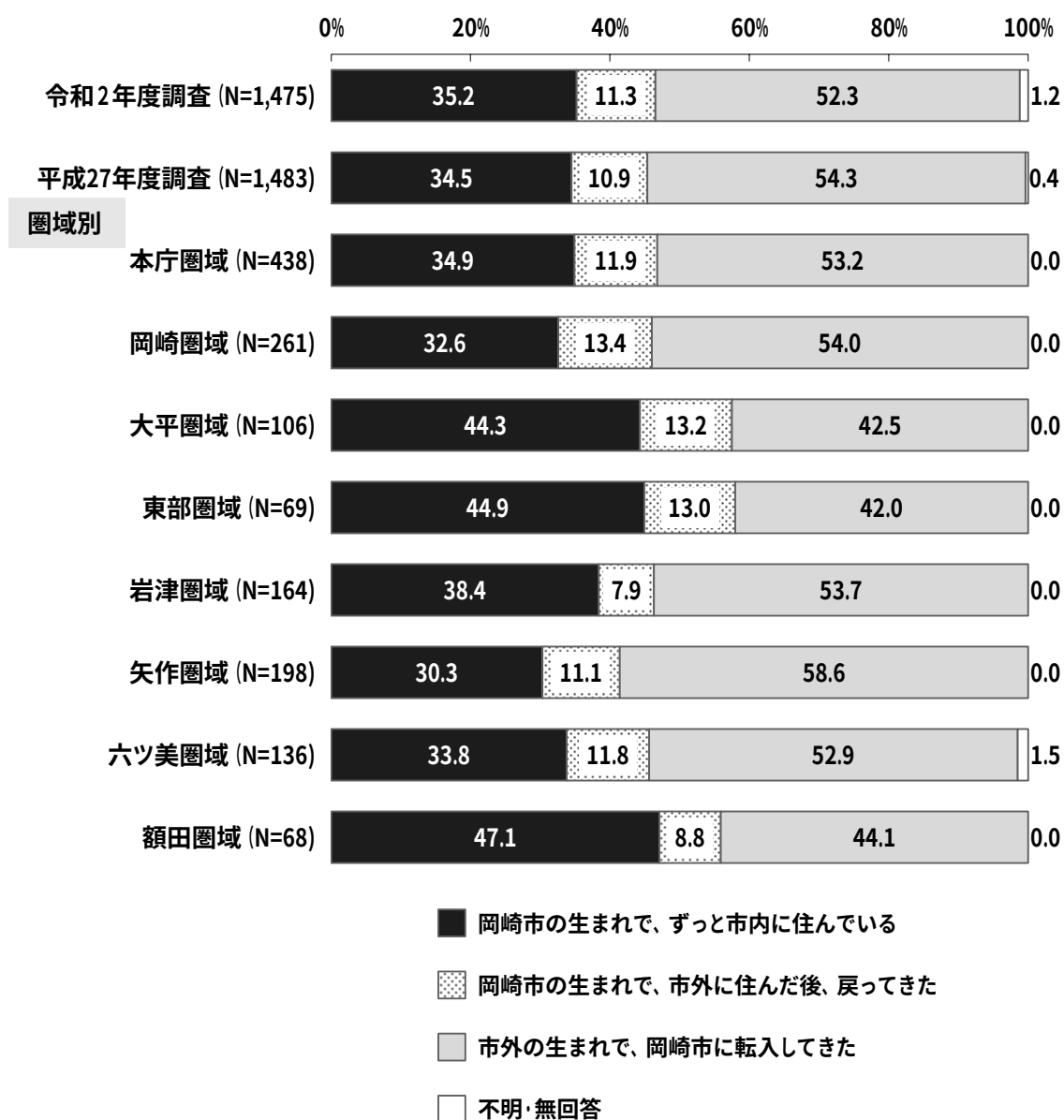


問8 あなたの居住歴は次のどれですか。（1つの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「岡崎市の生まれで、ずっと市内に住んでいる」が35.2%、「岡崎市の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた」が11.3%、「市外の生まれで、岡崎市に転入してきた」が52.3%となっています。

圏域別では、大平、東部及び額田の各圏域で「岡崎市の生まれで、ずっと市内に住んでいる」が4割を超えて高くなっています。

経年で比較すると、大差はみられません。



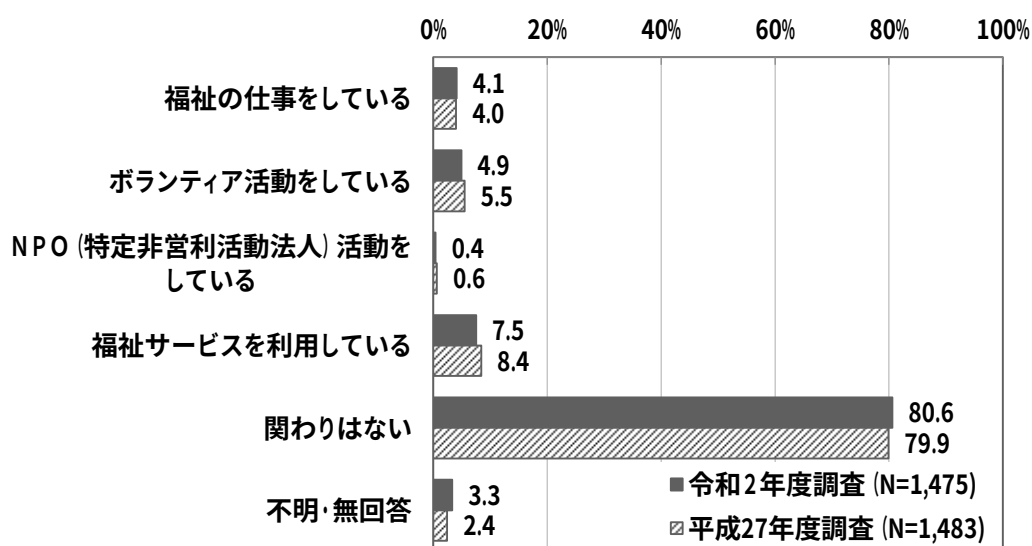
問9 あなたと福祉との関わりは次のどれですか。(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「関わりはない」が80.6%と最も高く、次いで「福祉サービスを利用している」が7.5%、「ボランティア活動をしている」が4.9%となっています。

年齢区分別では、70～74歳で「ボランティア活動をしている」が12.1%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、いずれの年代でも「関わりはない」が7割を超えています。

圏域別では、東部及び額田の各圏域で「福祉サービスを利用している」が1割を超えています。

経年で比較すると、大差はみられません。



■クロス集計集

(単位：％)

区分		福祉の仕事をしている	ボランティア活動をしている	NPO(特定非営利活動法人)活動をしている	福祉サービスを利用している	関わりはない	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	0.0	3.8	0.0	0.0	96.2	0.0
	20～29歳 (N=105)	4.8	3.8	1.0	2.9	87.6	0.0
	30～39歳 (N=179)	8.9	1.7	0.0	3.4	86.0	1.1
	40～49歳 (N=230)	4.8	3.0	0.9	5.2	87.0	0.4
	50～59歳 (N=222)	3.6	5.4	1.4	6.3	83.3	1.4
	60～64歳 (N=109)	3.7	4.6	0.0	7.3	85.3	0.0
	65～69歳 (N=145)	4.8	7.6	0.0	6.2	81.4	0.7
	70～74歳 (N=140)	4.3	12.1	0.0	8.6	72.9	2.9
	75歳以上 (N=301)	1.3	4.0	0.0	15.6	72.1	7.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	2.7	3.7	0.5	8.4	83.3	1.8
	岡崎圏域 (N=261)	4.2	4.2	0.4	6.9	82.8	2.7
	大平圏域 (N=106)	5.7	6.6	0.0	4.7	81.1	2.8
	東部圏域 (N=69)	7.2	5.8	0.0	14.5	69.6	2.9
	岩津圏域 (N=164)	3.0	4.9	0.0	6.7	84.1	2.4
	矢作圏域 (N=198)	5.1	7.6	0.0	6.6	80.3	1.5
	六ツ美圏域 (N=136)	5.1	3.7	0.7	5.1	85.3	0.7
	額田圏域 (N=68)	7.4	8.8	2.9	11.8	67.6	2.9

2 地域生活に関することについて

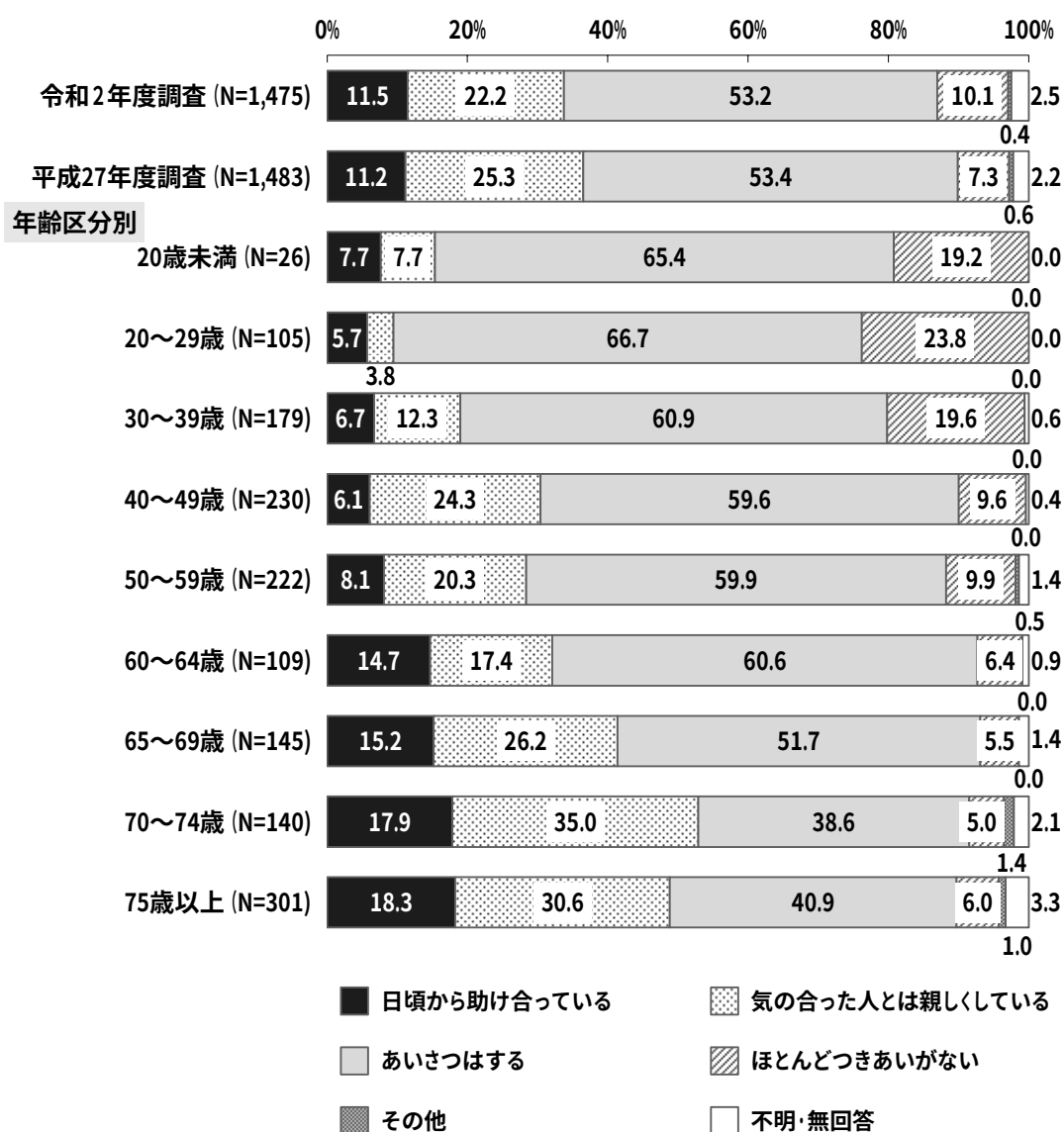
問 10 近隣の人とは、どの程度つきあいをしていますか。(1つの番号に○)

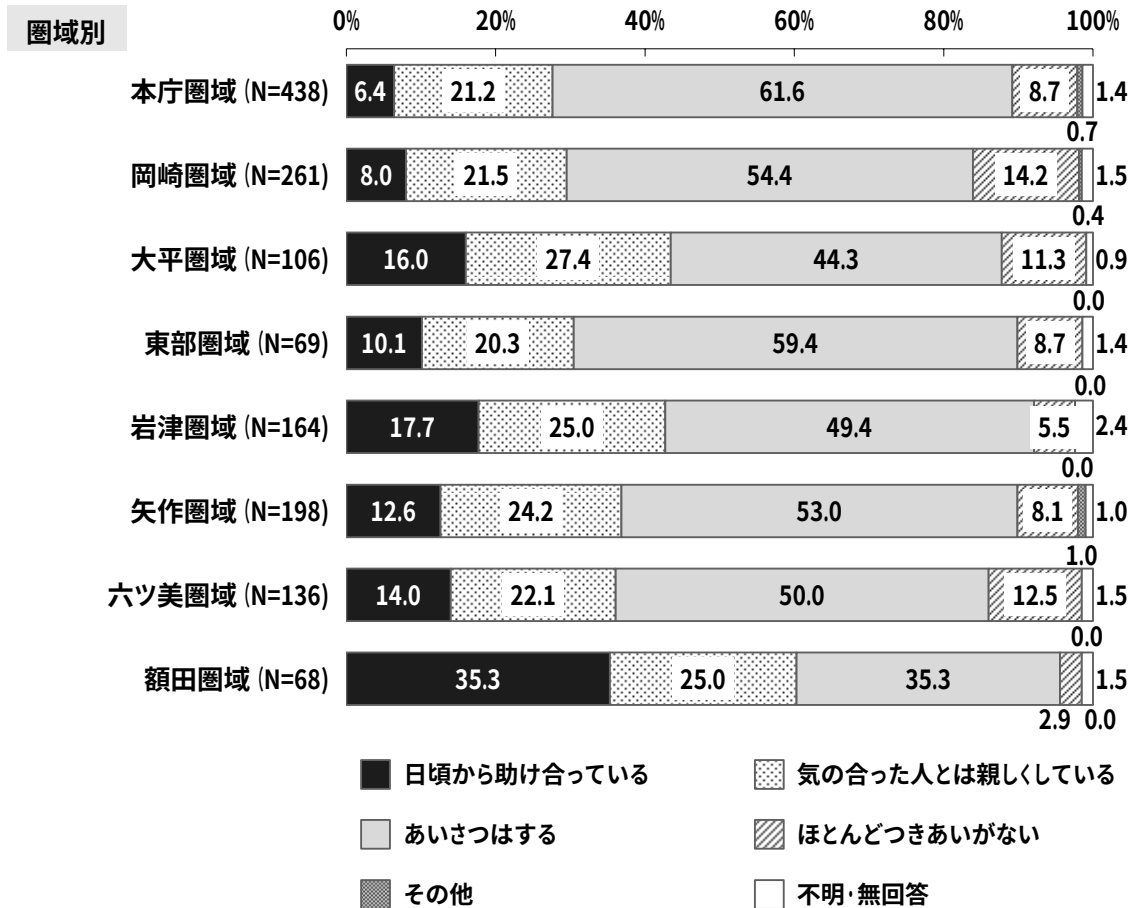
令和2年度調査では、全体で「あいさつはする」が53.2%と最も高く、次いで「気の合った人とは親しくしている」が22.2%、「日頃から助け合っている」が11.5%となっています。

年齢区分別では、20歳未満、20～29歳及び30～39歳で「ほとんどつきあいがいい」が他の年代と比べて高くなっています。なお、70～74歳及び75歳以上で「気の合った人とは親しくしている」が3割を超えています。

圏域別では、額田圏域で「日頃から助け合っている」が35.3%と、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「気の合った人とは親しくしている」が令和2年度調査に22.2%と、平成27年度調査と比べて3.1ポイント低くなっています。一方、「ほとんどつきあいがいい」が令和2年度調査に10.1%と、平成27年度調査と比べて2.8ポイント高くなっています。





問 11 近隣の人とのつきあいに満足していますか。(1つの番号に○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『満足している』 …「満足している」と「まあまあ満足している」の合算
『満足していない』 …「あまり満足していない」と「満足していない」の合算

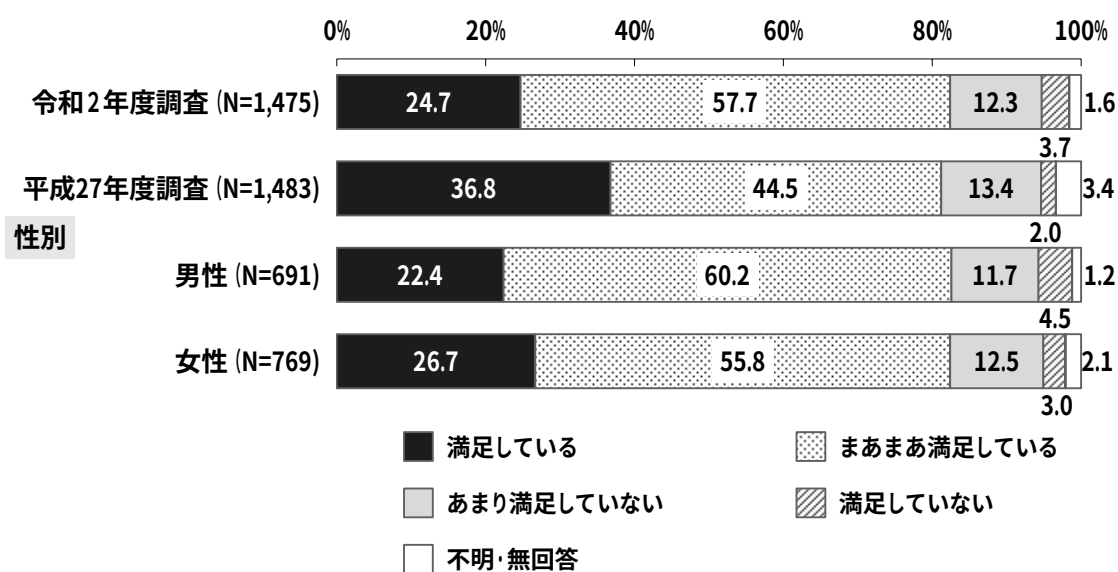
令和2年度調査では、全体で『満足している』が82.4%、『満足していない』が16.0%となっています。

性別では、男性で『満足していない』が16.2%と、女性と比べて0.7ポイント高くなっています。

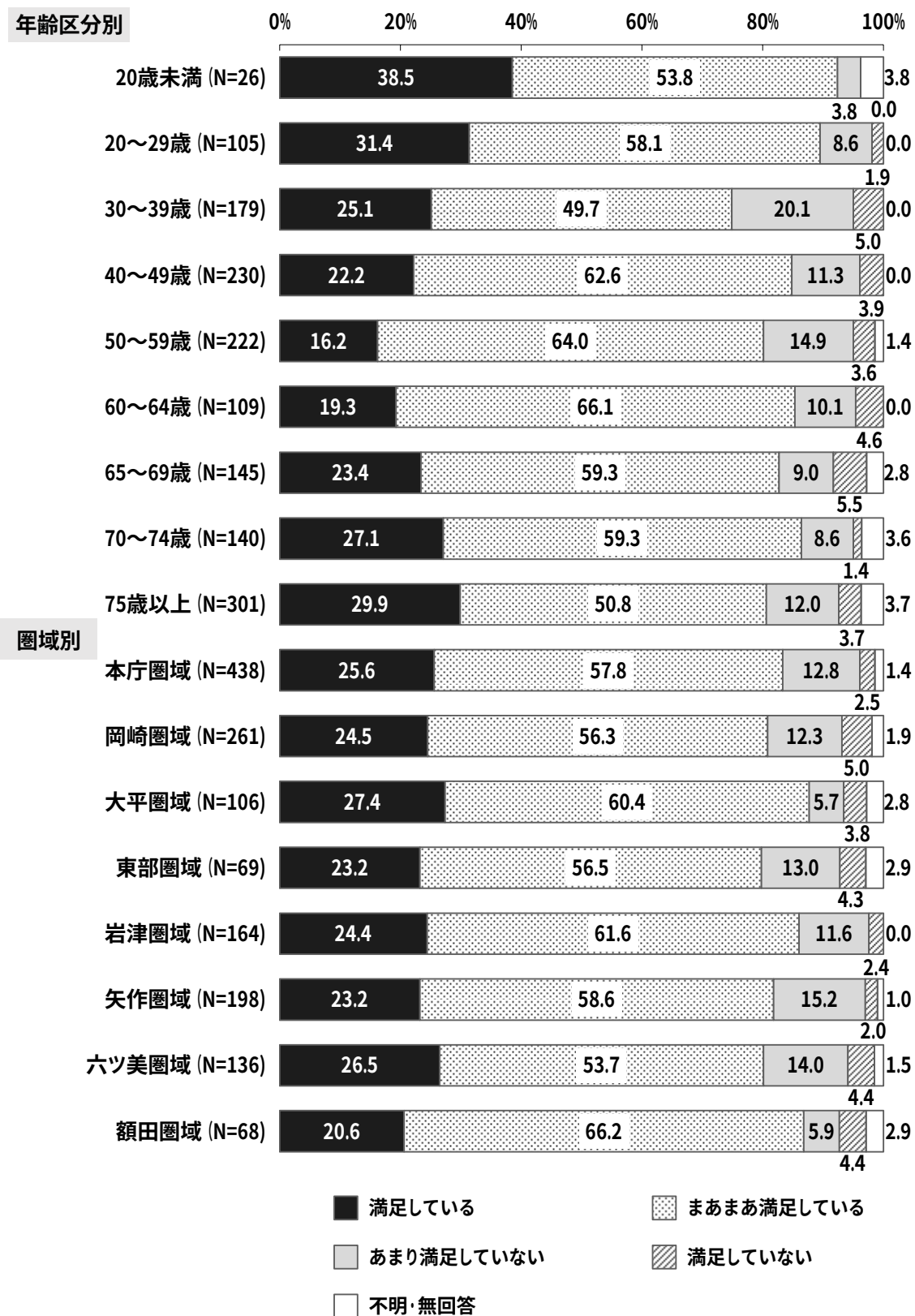
年齢区分別では、30～39歳で『満足していない』が25.1%と、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、大平及び額田の各圏域で『満足していない』が1割前後と、他の圏域と比べて低くなっています。

経年で比較すると、『満足している』が令和2年度調査に82.4%と、平成27年度調査と比べて1.1ポイント高くなっています。



※選択肢について、令和2年度調査は「満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「満足していない」となっていますが、平成27年度調査は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」です。

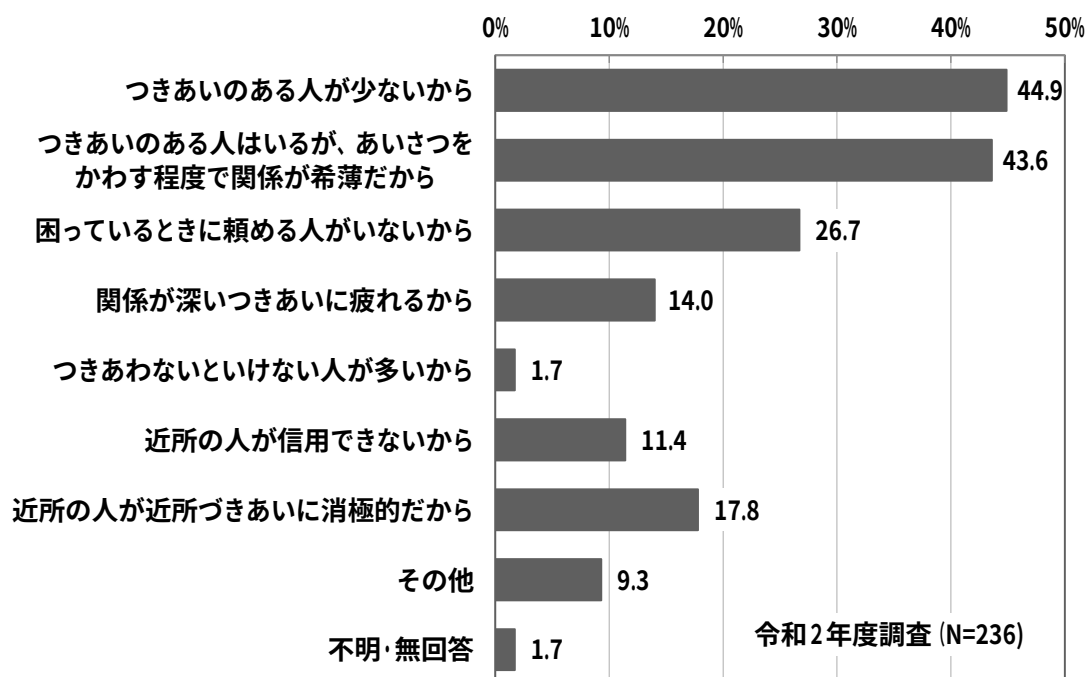


※選択肢について、令和2年度調査は「満足している」「まあまあ満足している」「あまり満足していない」「満足していない」となっていますが、平成27年度調査は「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」です。

＜問 11 で、「3.あまり満足していない」または「4.満足していない」と回答した方に伺います＞

問 11－1 満足していない理由は何ですか。（あてはまるすべての番号に○）

令和2年度調査では、全体で「つきあいのある人が少ないから」が44.9%と最も高く、次いで「つきあいのある人はいるが、あいさつをかわす程度で関係が希薄だから」が43.6%、「困っているときに頼める人がいないから」が26.7%となっています。



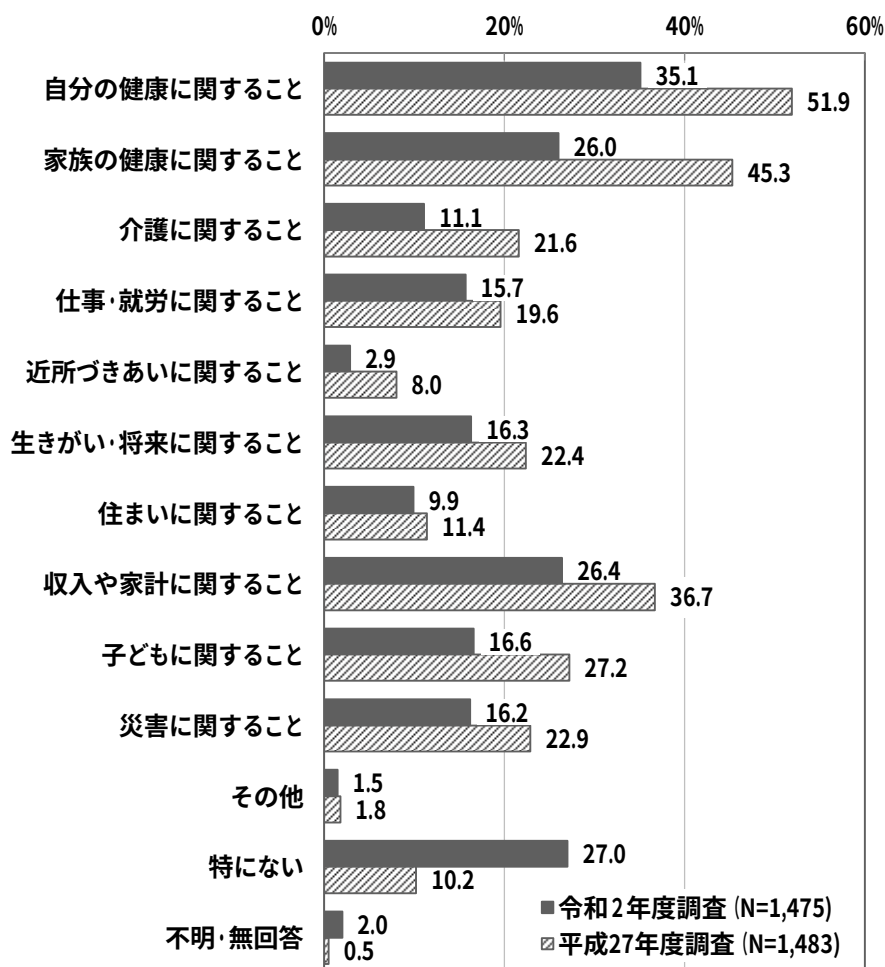
問 12 あなたは現在、日常生活において、主にどのような困りごとを抱えていますか。
(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「自分の健康に関すること」が35.1%と最も高く、次いで「特
にない」が27.0%、「収入や家計に関すること」が26.4%となっています。

年齢区分別では、20～29歳で「仕事・就労に関すること」が39.0%と、他の年代と比べて高
くなっています。なお、50歳以上で「自分の健康に関すること」が3割を超えて高くなってい
ます。

圏域別では、額田圏域で「自分の健康に関すること」が47.1%と、他の圏域と比べて高くな
っています。なお、東部及び額田の各圏域で、「家族の健康に関すること」が3割を超えて高く
なっています。

経年で比較すると、「家族の健康に関すること」が令和2年度調査に26.0%と、平成27年度
調査と比べて19.3ポイント、「自分の健康に関すること」が令和2年度調査に35.1%と、平成
27年度調査と比べて16.8ポイント、「子どもに関すること」が令和2年度調査に16.6%と、平
成27年度調査と比べて10.6ポイント、「介護に関すること」が令和2年度調査に11.1%と、
平成27年度調査と比べて10.5ポイント、「収入や家計に関すること」が令和2年度調査に
26.4%と、平成27年度調査と比べて10.3ポイント低くなっています。一方、「特にな
い」が令和2年度調査に27.0%と、平成27年度調査と比べて16.8ポイント高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	介護に関すること	仕事・就労に関すること	近所づきあいに関すること	生きがい・将来に関すること	住まいに関すること	収入や家計に関すること	子どもに関すること	災害に関すること	その他	特にない	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	11.5	7.7	3.8	15.4	0.0	23.1	3.8	7.7	0.0	7.7	3.8	42.3	0.0
	20～29歳 (N=105)	28.6	21.0	2.9	39.0	1.0	35.2	11.4	37.1	10.5	8.6	1.9	25.7	0.0
	30～39歳 (N=179)	20.1	20.1	2.2	26.8	3.9	18.4	12.8	38.5	35.2	16.2	1.7	25.1	0.6
	40～49歳 (N=230)	25.2	24.8	13.0	25.2	3.5	22.2	12.6	39.6	29.1	18.3	0.9	25.2	0.9
	50～59歳 (N=222)	38.7	29.3	14.0	21.6	5.0	21.2	9.0	32.0	20.7	20.3	1.8	18.9	0.9
	60～64歳 (N=109)	43.1	31.2	10.1	14.7	2.8	15.6	11.0	26.6	20.2	21.1	0.9	23.9	0.0
	65～69歳 (N=145)	38.6	32.4	7.6	4.8	2.1	10.3	10.3	22.1	9.7	15.2	1.4	26.9	4.1
	70～74歳 (N=140)	42.9	31.4	10.0	0.7	2.9	10.7	7.1	10.7	5.7	17.9	1.4	35.0	2.1
	75歳以上 (N=301)	45.8	24.6	17.9	2.0	2.0	6.0	7.0	12.0	4.0	13.3	1.7	31.6	5.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	34.9	24.9	11.2	14.6	1.8	15.5	11.0	27.9	15.5	14.4	0.9	26.7	1.1
	岡崎圏域 (N=261)	37.2	27.2	9.6	15.3	3.4	17.6	11.1	26.4	17.2	17.2	2.3	26.4	1.1
	大平圏域 (N=106)	34.9	25.5	11.3	17.9	1.9	24.5	8.5	32.1	17.9	8.5	0.9	28.3	3.8
	東部圏域 (N=69)	31.9	31.9	11.6	14.5	2.9	15.9	7.2	18.8	20.3	15.9	1.4	26.1	4.3
	岩津圏域 (N=164)	34.8	24.4	12.2	14.6	4.3	17.1	7.3	25.0	12.2	15.9	1.2	32.3	3.0
	矢作圏域 (N=198)	36.4	25.8	10.6	14.6	3.0	10.6	11.6	25.8	19.7	18.7	1.0	22.7	2.0
	六ツ美圏域 (N=136)	27.9	25.0	8.8	17.6	3.7	18.4	6.6	24.3	20.6	20.6	2.2	31.6	0.7
	額田圏域 (N=68)	47.1	30.9	17.6	20.6	4.4	13.2	7.4	23.5	10.3	19.1	2.9	20.6	5.9

問 13 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。

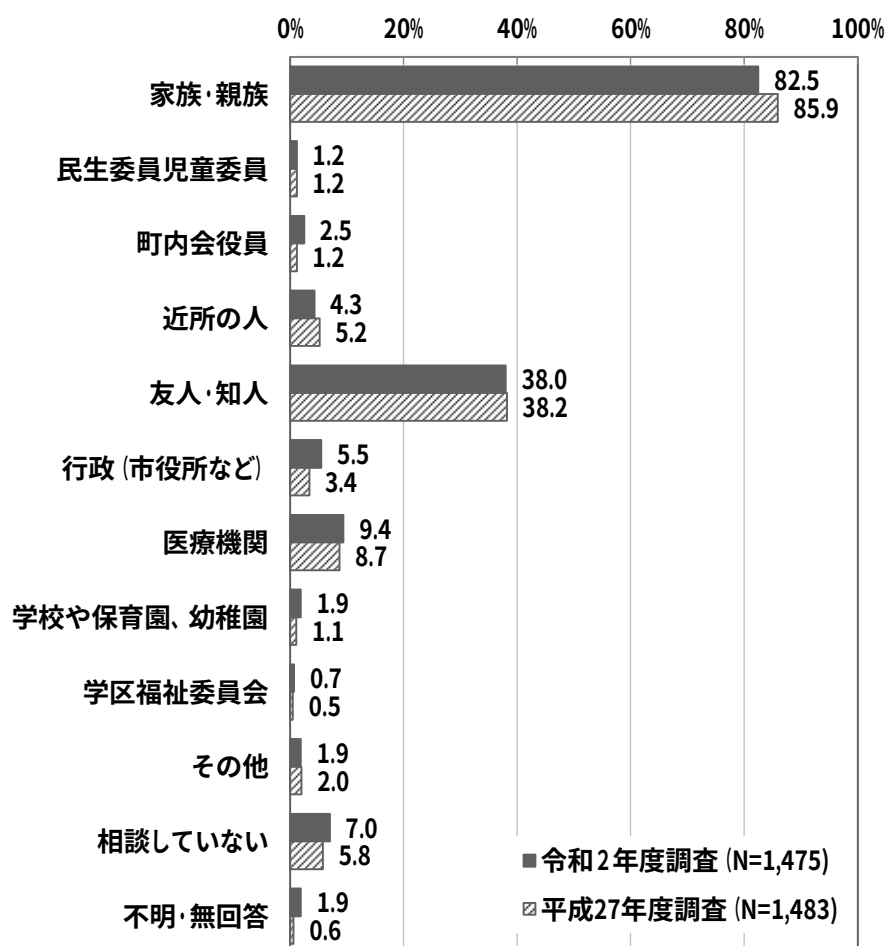
(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「家族・親族」が82.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が38.0%、「医療機関」が9.4%となっています。

年齢区分別では、いずれの年代でも「家族・親戚」が最も高く、次いで「友人・知人」となっています。なお、20歳未満及び20～29歳では「友人・知人」が6割を超えて高くなっています。

圏域別では、いずれの圏域でも「家族・親戚」が最も高く、次いで「友人・知人」となっています。なお、本庁及び六ツ美の各圏域で「医療機関」が、額田圏域で「近所の人」「医療機関」「相談していない」がそれぞれ1割以上となっています。

経年で比較すると、「家族・親戚」が令和2年度調査に82.5%と、平成27年度調査と比べて3.4ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

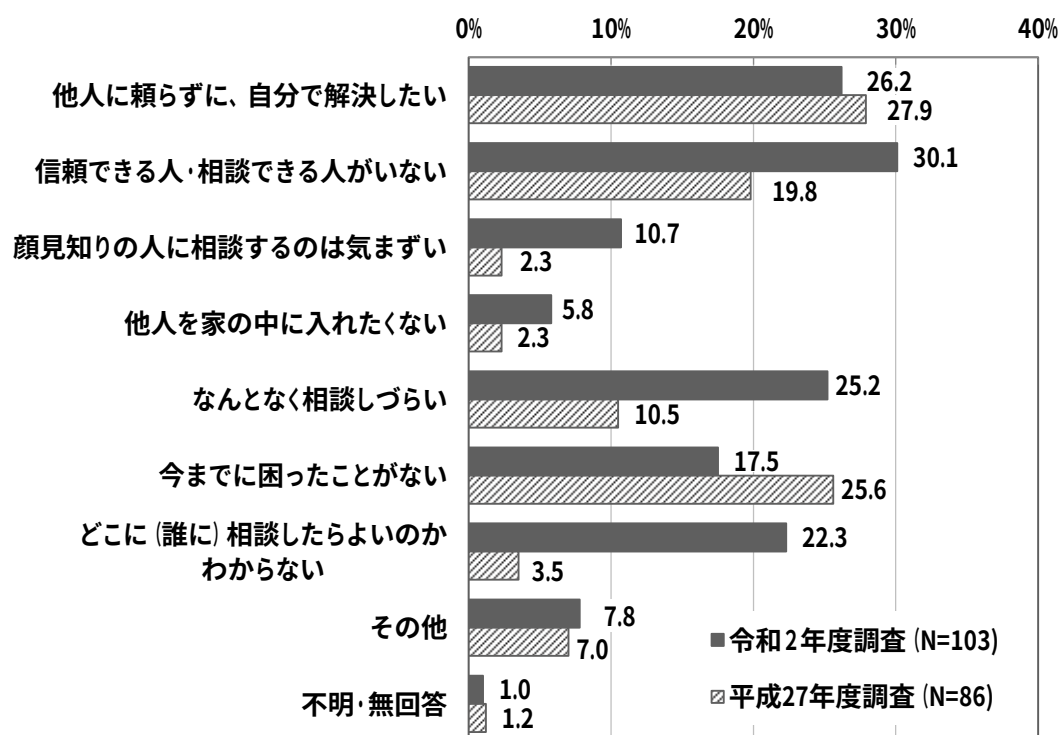
区分		家族・親族	民生委員児童委員	町内会役員	近所の人	友人・知人	行政（市役所など）	医療機関	学校や保育園、幼稚園	学区福祉委員会	その他	相談していない	不明・無回答
年齢区分別	20 歳未満 (N=26)	76.9	0.0	0.0	0.0	65.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0
	20～29 歳 (N=105)	85.7	0.0	0.0	0.0	68.6	3.8	6.7	1.0	0.0	2.9	3.8	0.0
	30～39 歳 (N=179)	86.0	0.6	0.6	2.8	52.0	5.0	6.7	6.1	0.0	1.7	6.1	0.0
	40～49 歳 (N=230)	85.2	0.9	0.9	3.0	40.4	6.1	9.1	5.2	0.4	1.3	10.4	0.4
	50～59 歳 (N=222)	83.3	0.5	1.8	3.2	41.9	4.1	8.6	1.4	0.5	2.7	9.5	0.9
	60～64 歳 (N=109)	79.8	0.0	4.6	5.5	39.4	2.8	10.1	0.0	0.0	0.9	9.2	0.0
	65～69 歳 (N=145)	80.0	0.0	2.8	9.0	33.8	11.0	11.0	0.7	0.7	2.8	5.5	2.8
	70～74 歳 (N=140)	80.7	2.9	4.3	5.7	30.7	6.4	11.4	0.0	0.0	0.7	5.0	4.3
	75 歳以上 (N=301)	79.4	3.3	5.0	5.6	16.6	5.6	11.6	0.0	2.3	2.3	5.6	4.7
圏域別	本庁圏域 (N=438)	82.9	0.7	2.3	3.2	37.0	5.3	10.0	2.3	0.7	2.5	6.8	0.7
	岡崎圏域 (N=261)	84.7	1.1	2.3	3.8	36.4	4.6	9.2	2.7	0.4	1.1	5.7	2.3
	大平圏域 (N=106)	75.5	2.8	1.9	5.7	39.6	6.6	6.6	1.9	0.9	0.9	9.4	4.7
	東部圏域 (N=69)	85.5	0.0	0.0	2.9	40.6	7.2	8.7	0.0	1.4	0.0	2.9	4.3
	岩津圏域 (N=164)	81.7	2.4	3.0	3.7	34.8	7.3	7.9	0.6	0.6	1.2	7.9	1.8
	矢作圏域 (N=198)	82.3	0.5	2.5	6.6	42.4	5.6	9.1	1.0	0.0	2.0	8.6	1.5
	六ツ美圏域 (N=136)	85.3	1.5	2.9	2.9	41.2	4.4	11.8	3.7	1.5	2.9	4.4	0.7
	額田圏域 (N=68)	79.4	1.5	4.4	10.3	35.3	2.9	10.3	1.5	0.0	1.5	10.3	4.4

＜問 13 で、「11.相談していない」と回答した方に伺います＞

問 13－1 なぜ、相談していないのですか。（あてはまるすべての番号に○）

令和 2 年度調査では、全体で「信頼できる人・相談できる人がいない」が 30.1%と最も高く、次いで「他人に頼らずに、自分で解決したい」が 26.2%、「なんとなく相談しづらい」が 25.2%となっています。

経年で比較すると、「どこに（誰に）相談したらよいのかわからない」が令和 2 年度調査に 22.3%と、平成 27 年度調査と比べて 18.8 ポイント、「なんとなく相談しづらい」が令和 2 年度調査に 25.2%と、平成 27 年度調査と比べて 14.7 ポイント、「信頼できる人・相談できる人がいない」が令和 2 年度調査に 30.1%と、平成 27 年度調査と比べて 10.3 ポイント高くなっています。



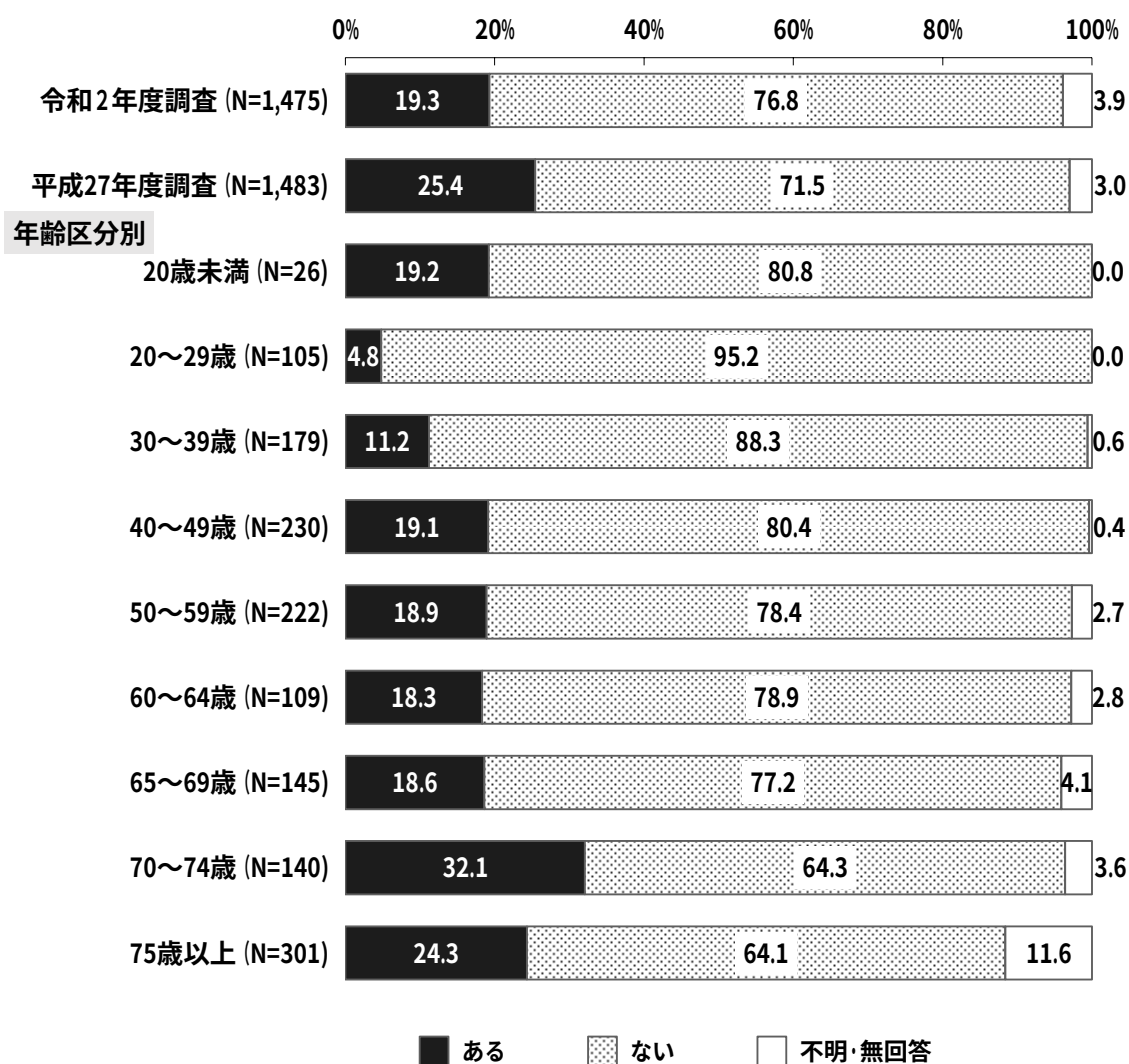
問 14 あなたは、近所の人からちょっとしたことを頼まれ、何かお手伝いをしたことがありますか。（1つの番号に○）

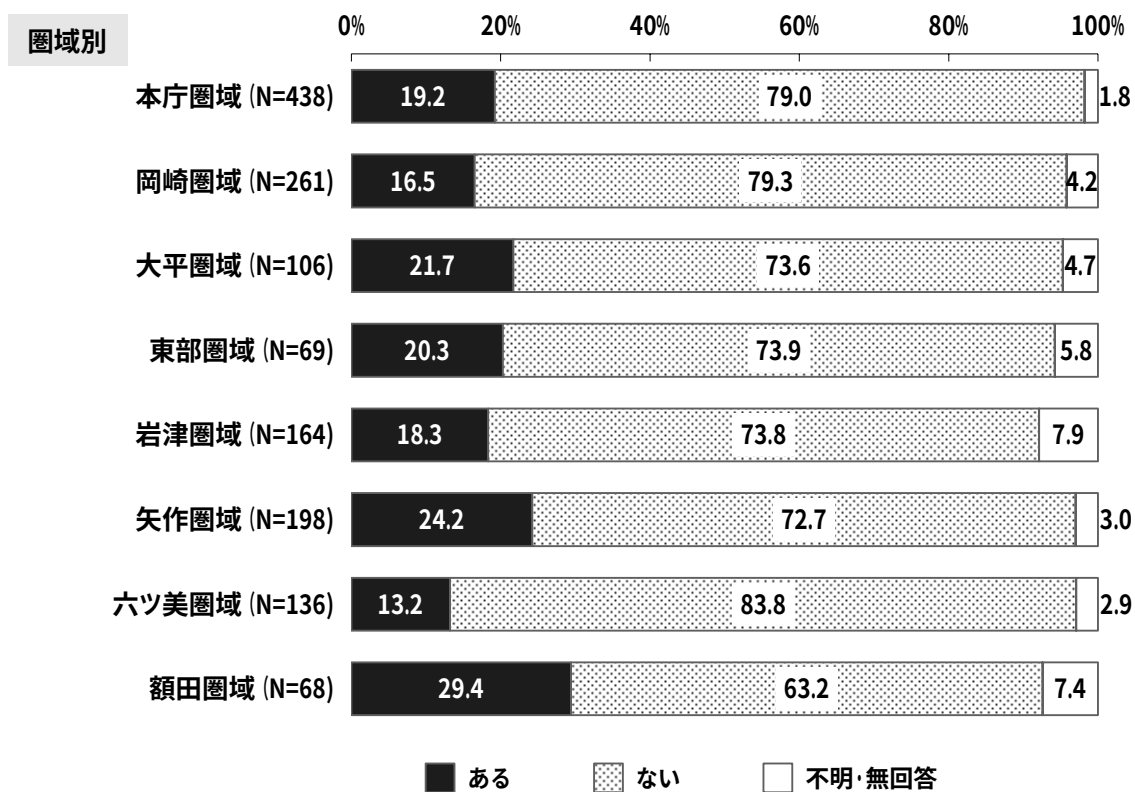
令和2年度調査では、全体で「ある」が19.3%、「ない」が76.8%となっています。

年齢区分別では、20～29歳で「ある」が4.8%と、他の年代と比べて低くなっています。なお、いずれの年代でも「ない」が6割を超えています。

圏域別では、額田圏域で「ある」が29.4%と、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「ある」が令和2年度調査に19.3%と、平成27年度調査と比べて6.1ポイント低くなっています。



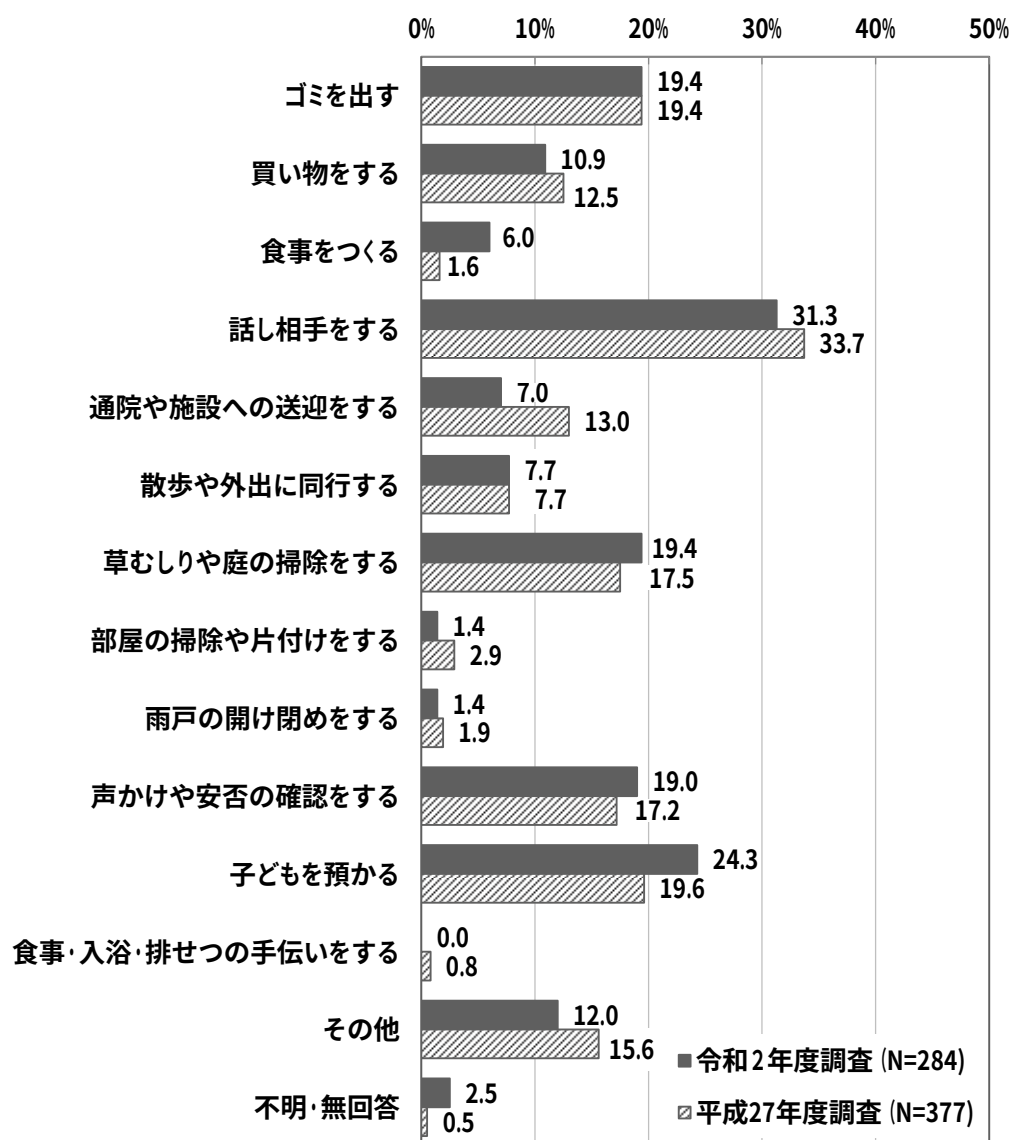


<問 14 で、「1. ある」と回答した方に伺います>

問 14-1 それは、どんなお手伝いですか。(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「話し相手をする」が31.3%と最も高く、次いで「子どもを預かる」が24.3%、「ゴミを出す」「草むしりや庭の掃除をする」が19.4%となっています。

経年で比較すると、「通院や施設への送迎をする」が令和2年度調査に7.0%と、平成27年度調査と比べて6.0ポイント低くなっています。



問 15 あなたは現在、地域内の行事や町内会活動に参加・協力していますか。
(1つの番号に○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『参加・協力している』 …「よくしている」と「ある程度している」の合算
『参加・協力していない』 …「あまりしていない」と「まったくしていない」の合算

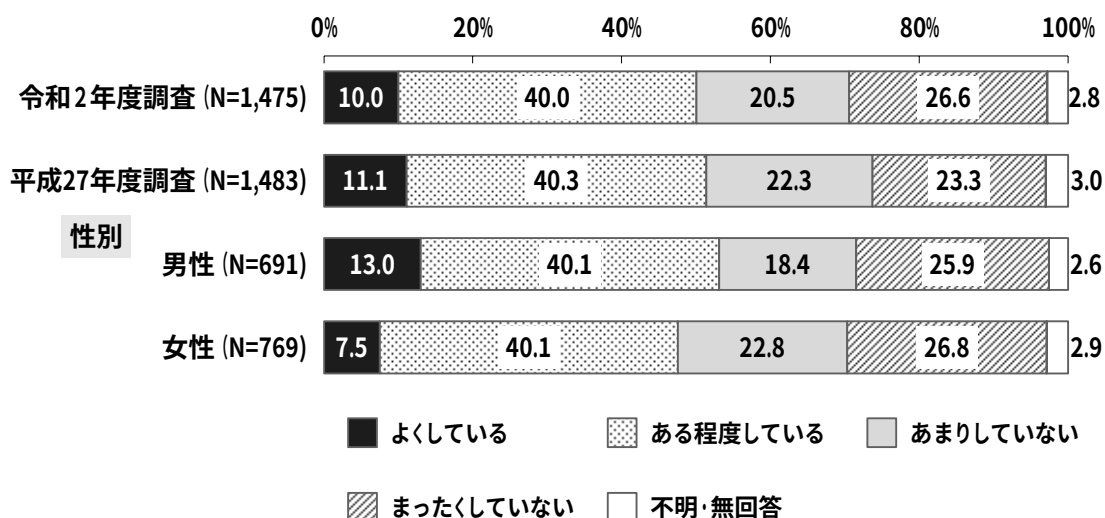
令和2年度調査では、全体で『参加・協力している』が50.0%、『参加・協力していない』が47.1%となっています。

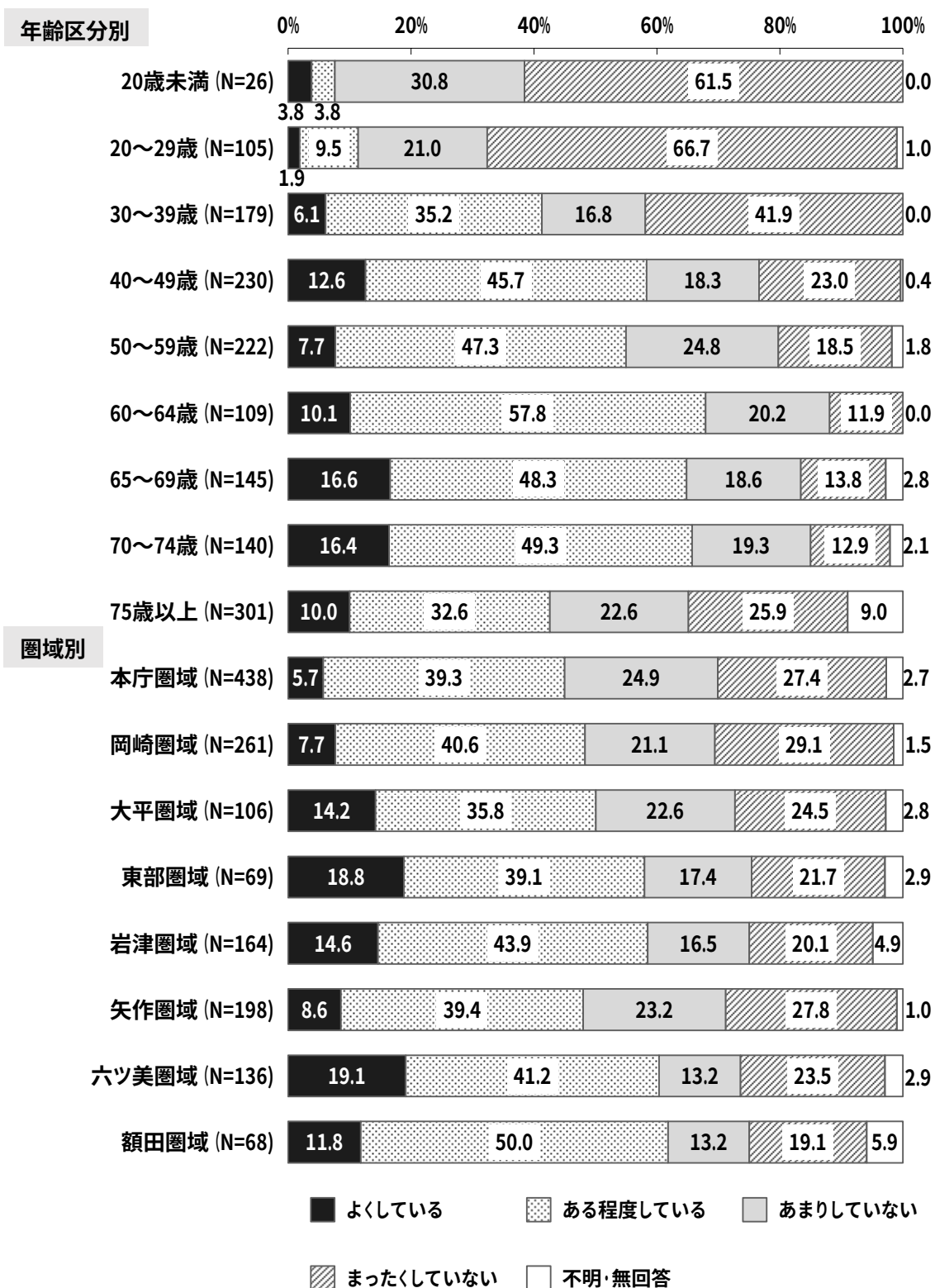
性別では、男性で『参加・協力している』が53.1%と、女性と比べて5.5ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20歳未満及び20～29歳で『参加・協力している』が約1割と、他の年代と比べて低くなっています。

圏域別では、額田圏域で『参加・協力していない』が32.3%と、他の圏域と比べて低くなっています。

経年で比較すると、『参加・協力していない』が令和2年度調査に47.1%と、平成27年度調査と比べて1.5ポイント高くなっています。





＜問 15－ 1 ～ 3 は、問 15 で「 1 .よくしている」「 2 .ある程度している」と回答した方に伺います＞

問 15－ 1 あなたが、地域で参加している活動はどれですか。

(あてはまるすべての番号に○)

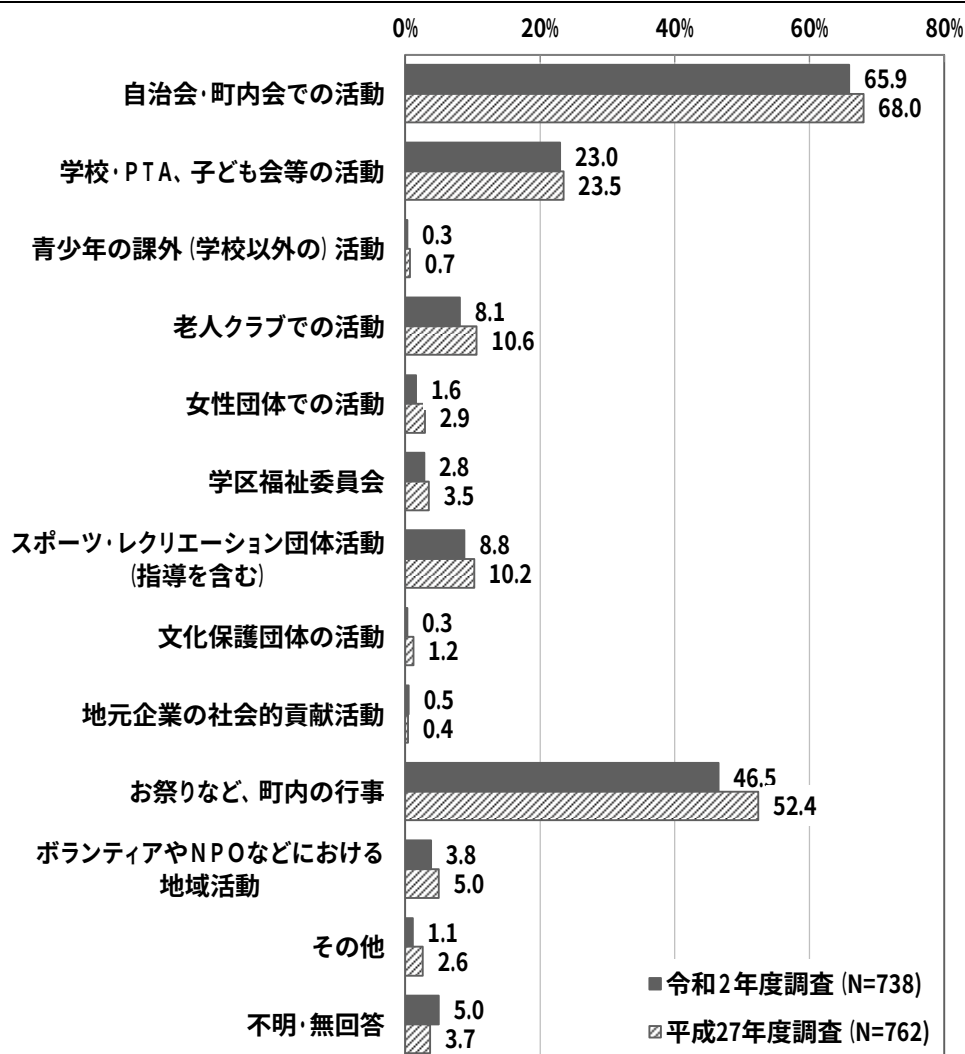
令和 2 年度調査では、全体で「自治会・町内会での活動」が 65.9%と最も高く、次いで「お祭りなど、町内の行事」が 46.5%、「学校・PTA、子ども会等の活動」が 23.0%となっています。

性別では、男性で「自治会・町内会での活動」が 72.5%と、女性と比べて 12.7 ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30～39 歳及び 40～49 歳で「学校・PTA、子ども会等の活動」が他の年代と比べて高く、6 割を超えています。

圏域別では、額田圏域で「学区福祉委員会」が 14.3%と、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「お祭りなど、町内の行事」が令和 2 年度調査に 46.5%と、平成 27 年度調査と比べて 5.9 ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		自治会・町内会での活動	学校・PTA、子ども会等の活動	青少年の課外（学校以外の）活動	老人クラブでの活動	女性団体での活動	学区福祉委員会	スポーツ・レクリエーション団体活動（指導を含む）	文化保護団体の活動	地元企業の社会的貢献活動	お祭りなど、町内の行事	ボランティアやNPOなどにおける地域活動	その他	不明・無回答
性別	男性（N=367）	72.5	20.4	0.3	7.9	0.0	2.5	9.0	0.3	1.1	48.8	4.1	1.1	4.4
	女性（N=366）	59.8	26.0	0.3	8.2	3.3	3.3	8.2	0.3	0.0	44.0	3.6	1.1	5.7
年齢区分別	20歳未満（N=26）	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳（N=12）	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	30～39歳（N=74）	58.1	63.5	1.4	0.0	1.4	1.4	5.4	0.0	0.0	45.9	1.4	0.0	4.1
	40～49歳（N=134）	64.2	61.2	0.0	0.0	0.0	1.5	9.0	0.0	0.7	49.3	1.5	1.5	3.0
	50～59歳（N=122）	71.3	18.0	0.8	0.0	0.8	1.6	10.7	0.8	1.6	49.2	3.3	1.6	6.6
	60～64歳（N=74）	71.6	10.8	0.0	1.4	1.4	6.8	9.5	0.0	0.0	45.9	5.4	0.0	5.4
	65～69歳（N=94）	77.7	1.1	0.0	7.4	3.2	2.1	7.4	0.0	0.0	47.9	5.3	1.1	3.2
	70～74歳（N=92）	64.1	3.3	0.0	12.0	2.2	7.6	7.6	1.1	0.0	48.9	7.6	0.0	4.3
	75歳以上（N=128）	61.7	4.7	0.0	30.5	3.1	1.6	9.4	0.0	0.8	39.8	3.9	2.3	6.3
圏域別	本庁圏域（N=197）	69.5	23.9	0.5	5.1	0.5	0.0	11.7	0.0	0.5	50.8	2.5	0.5	4.6
	岡崎圏域（N=126）	69.8	23.0	0.0	8.7	1.6	4.8	7.1	0.0	0.0	34.9	1.6	0.0	2.4
	大平圏域（N=53）	69.8	28.3	0.0	7.5	1.9	3.8	5.7	0.0	0.0	49.1	7.5	0.0	3.8
	東部圏域（N=40）	57.5	17.5	0.0	12.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	55.0	7.5	5.0	5.0
	岩津圏域（N=96）	65.6	21.9	0.0	7.3	4.2	3.1	8.3	0.0	1.0	50.0	2.1	1.0	6.3
	矢作圏域（N=95）	57.9	23.2	1.1	8.4	0.0	1.1	5.3	1.1	1.1	41.1	4.2	4.2	8.4
	六ツ美圏域（N=82）	64.6	28.0	0.0	11.0	2.4	3.7	14.6	0.0	1.2	42.7	6.1	0.0	4.9
	額田圏域（N=42）	66.7	14.3	0.0	11.9	4.8	14.3	4.8	2.4	0.0	59.5	7.1	0.0	4.8

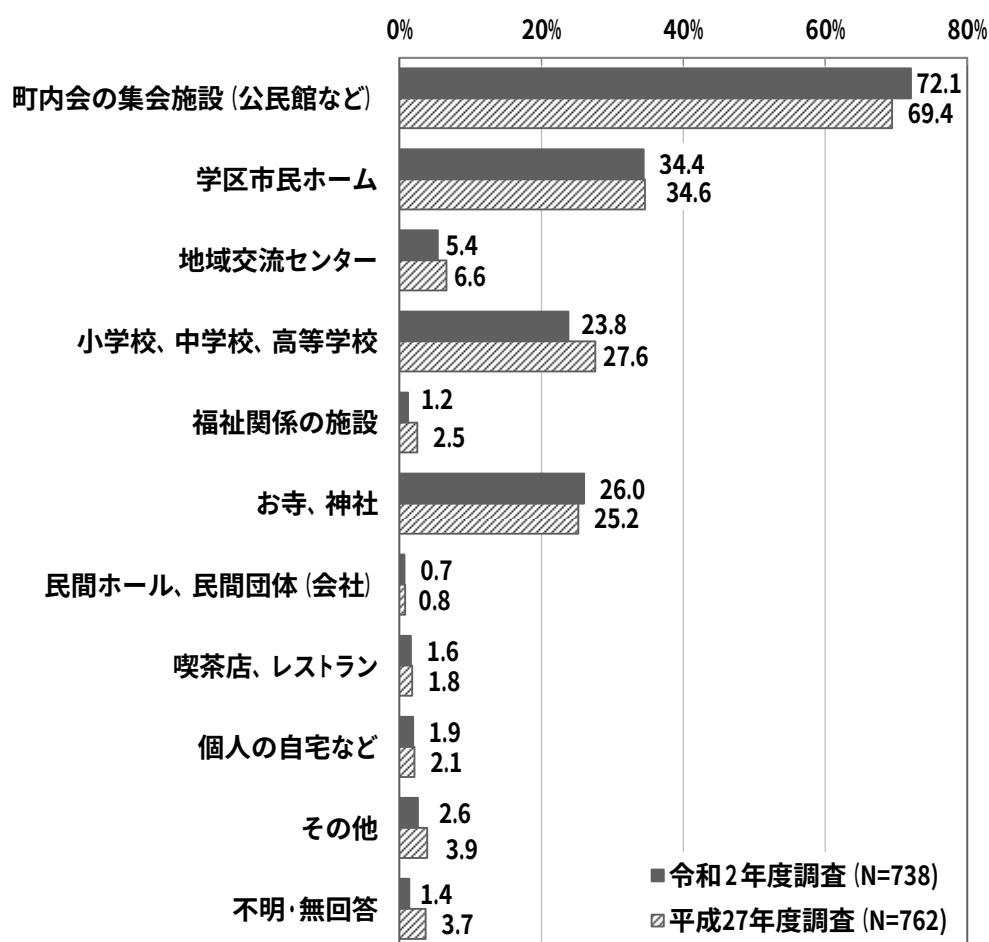
問 15－ 2 あなたの地区（地域）で地域活動を行う場として利用されている施設（場所）は、どこですか。（あてはまるすべての番号に○）

令和２年度調査では、全体で「町内会の集会施設（公民館など）」が 72.1%と最も高く、次いで「学区市民ホーム」が 34.4%、「お寺、神社」が 26.0%となっています。

年齢区分別では、30～39 歳及び 40～49 歳で「小学校、中学校、高等学校」が他の年代と比べて高く、４割を超えています。

圏域別では、いずれの圏域でも「町内会の集会施設（公民館など）」が最も高くなっています。なお、東部、矢作及び額田の各圏域では「お寺、神社」が３割を超えて高くなっています。

経年で比較すると、「小学校、中学校、高等学校」が令和２年度調査に 23.8%と、平成 27 年度調査と比べて 3.8 ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		町内会の集会施設 (公民館など)	学区市民ホーム	地域交流センター	高等学校 小学校、中学校、 高等学校	福祉関係の施設	お寺、神社	民間団体(会社)	民間ホール、 民間ホール	喫茶店、レストラン	個人の自宅など	その他	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (N=12)	50.0	33.3	0.0	25.0	0.0	41.7	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0
	30～39歳 (N=74)	68.9	27.0	6.8	43.2	0.0	25.7	1.4	0.0	0.0	2.7	4.1	1.4
	40～49歳 (N=134)	73.9	32.8	4.5	41.8	0.7	26.9	0.7	0.7	0.7	1.5	0.7	1.5
	50～59歳 (N=122)	75.4	41.0	4.1	32.8	0.0	27.9	0.0	3.3	1.6	0.8	0.8	0.0
	60～64歳 (N=74)	75.7	27.0	4.1	18.9	0.0	28.4	0.0	1.4	1.4	4.1	4.1	0.0
	65～69歳 (N=94)	79.8	35.1	7.4	9.6	2.1	19.1	1.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
	70～74歳 (N=92)	71.7	39.1	2.2	12.0	2.2	25.0	0.0	3.3	1.1	5.4	5.4	2.2
	75歳以上 (N=128)	64.8	35.2	9.4	7.0	3.1	25.0	1.6	0.8	2.3	2.3	2.3	2.3
圏域別	本庁圏域 (N=197)	65.0	35.5	3.0	22.8	0.5	24.4	1.0	1.5	2.5	3.6	3.6	1.5
	岡崎圏域 (N=126)	61.1	40.5	7.9	26.2	1.6	19.0	2.4	2.4	1.6	3.2	3.2	0.8
	大平圏域 (N=53)	71.7	37.7	5.7	24.5	1.9	22.6	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	3.8
	東部圏域 (N=40)	70.0	40.0	2.5	22.5	2.5	45.0	0.0	2.5	0.0	2.5	2.5	2.5
	岩津圏域 (N=96)	75.0	38.5	5.2	16.7	1.0	22.9	0.0	2.1	2.1	2.1	2.1	3.1
	矢作圏域 (N=95)	88.4	28.4	6.3	30.5	2.1	30.5	0.0	0.0	1.1	4.2	4.2	0.0
	六ツ美圏域 (N=82)	84.1	28.0	7.3	24.4	1.2	26.8	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	額田圏域 (N=42)	78.6	21.4	7.1	23.8	0.0	33.3	0.0	2.4	7.1	2.4	2.4	0.0

問 15－ 3 地域の活動に対して、満足していますか。（1つの番号に○）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

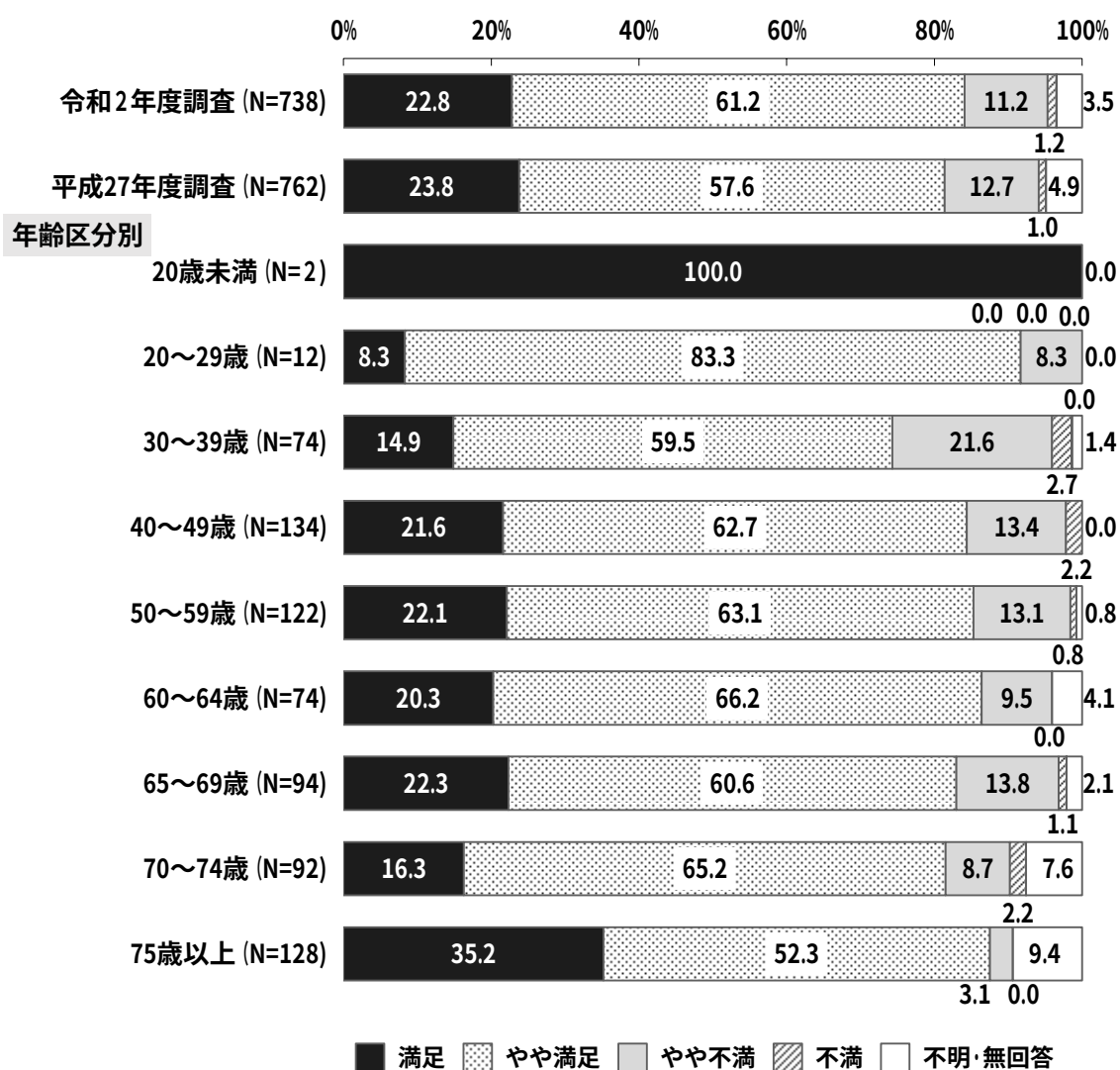
『満足』 …『満足』と『やや満足』の合算
『不満』 …『やや不満』と『不満』の合算

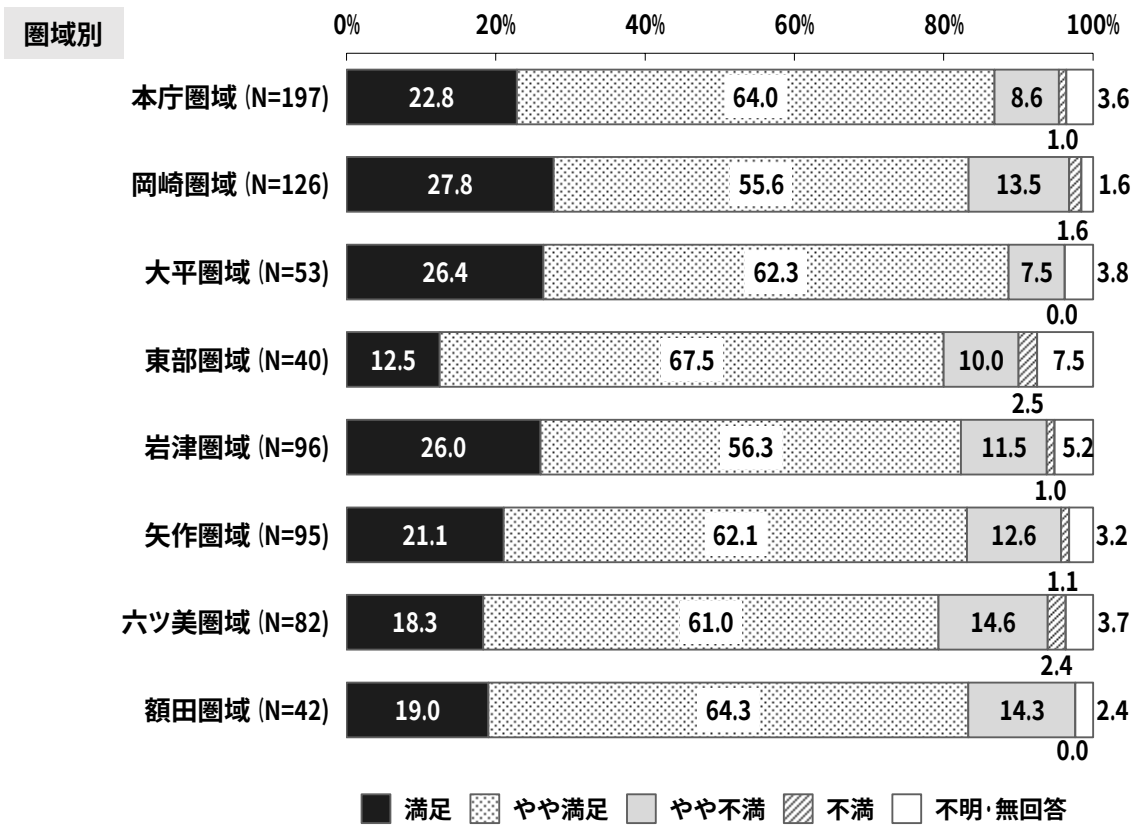
令和2年度調査では、全体で『満足』が84.0%、『不満』が12.4%となっています。

年齢区分別では、30～39歳で『不満』が24.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、いずれの圏域でも『満足』が約8割となっています。

経年で比較すると、『満足』が令和2年度調査に84.0%と、平成27年度調査と比べて2.6ポイント高くなっています。





＜問 15 で「3. あまりしていない」「4. まったくしていない」と回答した方に伺います＞

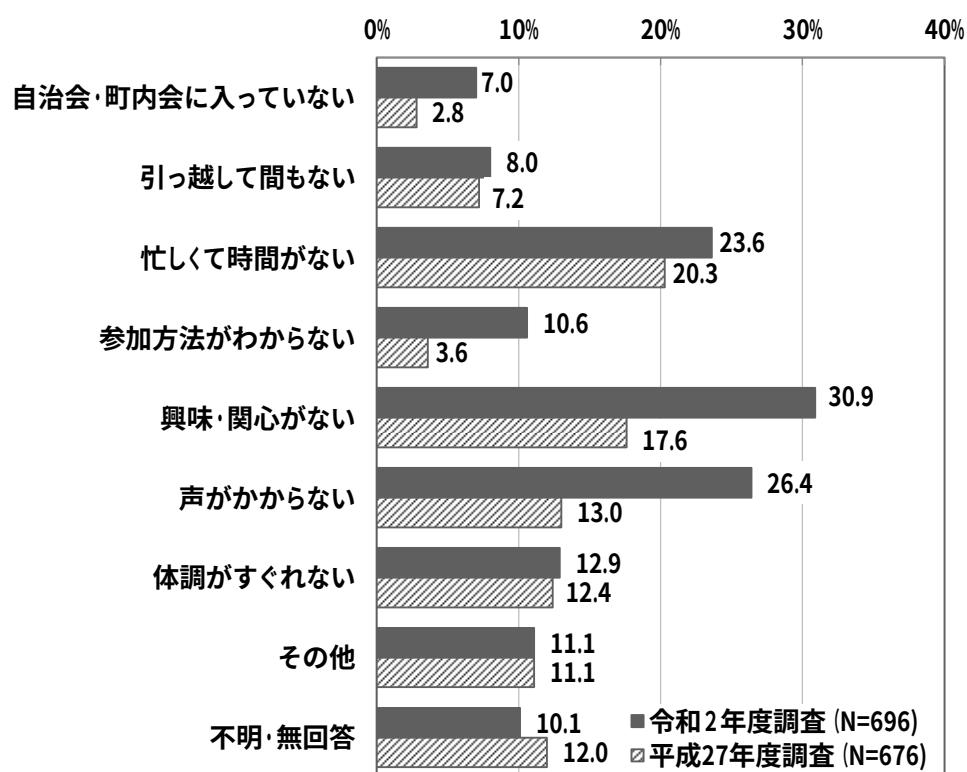
問 15－4 参加していない理由をお聞かせください。(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「興味・関心がない」が30.9%と最も高く、次いで「声がかからない」が26.4%、「忙しくて時間がない」が23.6%となっています。

年齢区分別では、20～29歳で「声がかからない」が40.2%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、20歳未満、20～29歳、30～39歳及び40～49歳で「忙しくて時間がない」が3割を超えています。

圏域別では、大平圏域で「興味・関心がない」が50.0%と、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「声がかからない」が令和2年度調査に26.4%と、平成27年度調査と比べて13.4ポイント、「興味・関心がない」が令和2年度調査に30.9%と、平成27年度調査と比べて13.3ポイント高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		自治会・町内会に入っていない	引っ越して間もない	忙しくて時間がない	参加方法がわからない	興味・関心がない	声がかからない	体調がすぐれない	その他	不明・無回答
年齢区分別	20 歳未満 (N=24)	8.3	0.0	37.5	16.7	41.7	25.0	0.0	4.2	4.2
	20～29 歳 (N=92)	14.1	12.0	32.6	15.2	37.0	40.2	0.0	8.7	3.3
	30～39 歳 (N=105)	9.5	20.0	32.4	13.3	37.1	25.7	1.0	12.4	5.7
	40～49 歳 (N=95)	5.3	7.4	30.5	11.6	35.8	29.5	6.3	14.7	4.2
	50～59 歳 (N=96)	5.2	3.1	28.1	13.5	35.4	26.0	5.2	7.3	14.6
	60～64 歳 (N=35)	5.7	5.7	17.1	11.4	34.3	34.3	8.6	14.3	5.7
	65～69 歳 (N=47)	2.1	6.4	21.3	2.1	25.5	19.1	23.4	14.9	6.4
	70～74 歳 (N=45)	6.7	0.0	17.8	8.9	28.9	24.4	17.8	8.9	13.3
	75 歳以上 (N=146)	4.8	4.8	4.8	4.8	18.5	16.4	38.4	11.6	19.9
圏域別	本庁圏域 (N=229)	5.7	6.6	20.5	8.7	30.6	28.4	12.7	11.4	9.6
	岡崎圏域 (N=131)	7.6	9.2	28.2	13.7	31.3	27.5	12.2	10.7	12.2
	大平圏域 (N=50)	8.0	12.0	22.0	6.0	50.0	20.0	12.0	12.0	8.0
	東部圏域 (N=27)	11.1	3.7	29.6	7.4	14.8	14.8	22.2	14.8	11.1
	岩津圏域 (N=60)	6.7	3.3	26.7	11.7	21.7	28.3	11.7	5.0	15.0
	矢作圏域 (N=101)	5.0	5.0	17.8	9.9	36.6	22.8	13.9	9.9	6.9
	六ツ美圏域 (N=50)	8.0	8.0	30.0	18.0	30.0	28.0	10.0	16.0	14.0
	額田圏域 (N=22)	0.0	13.6	13.6	9.1	22.7	13.6	22.7	22.7	4.5

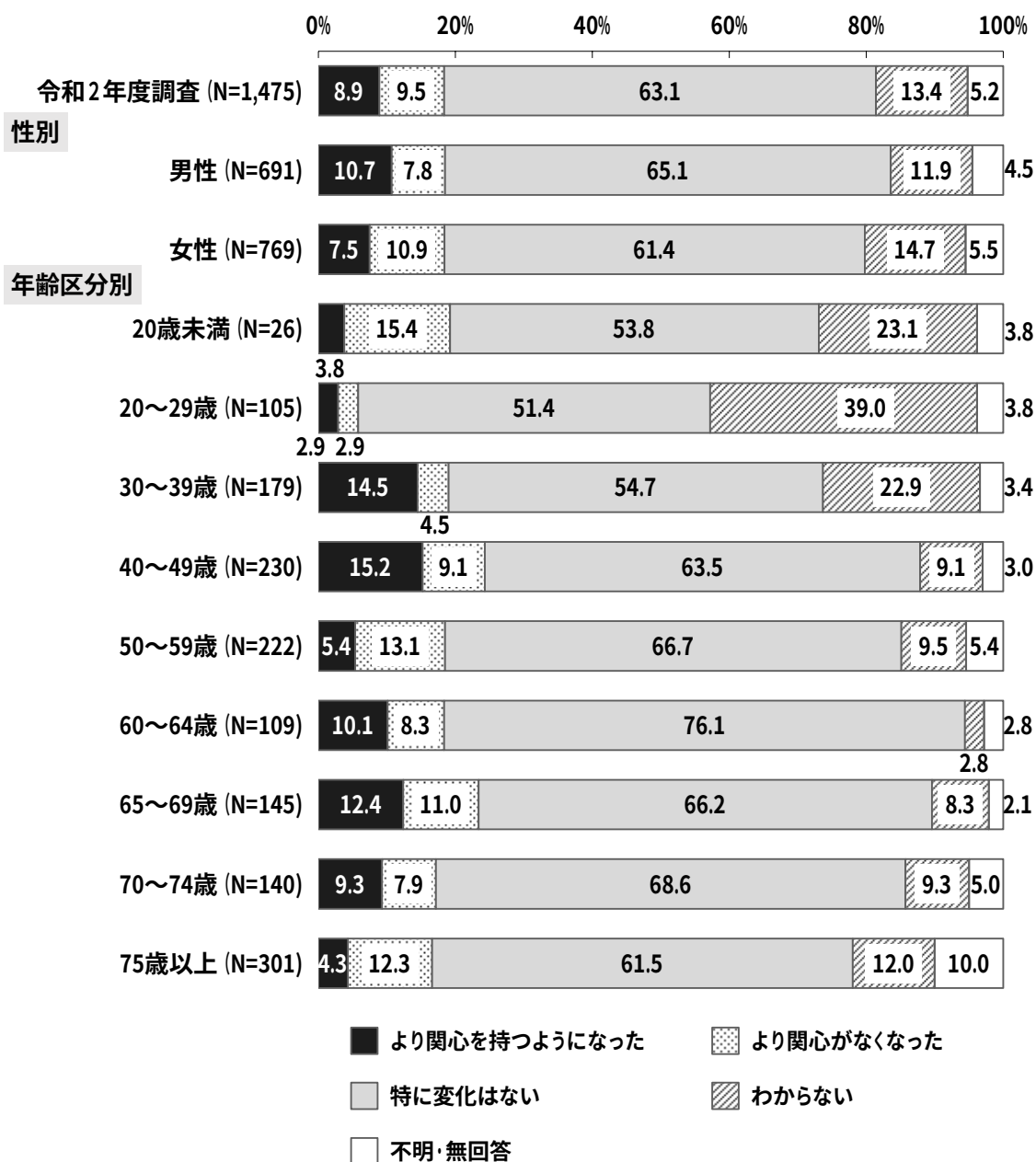
問 16 あなたの地域の行事や地域活動についての関心は、以前と比べて（約5年前と比べて）どのように変化したと感じますか。（1つの番号に○）

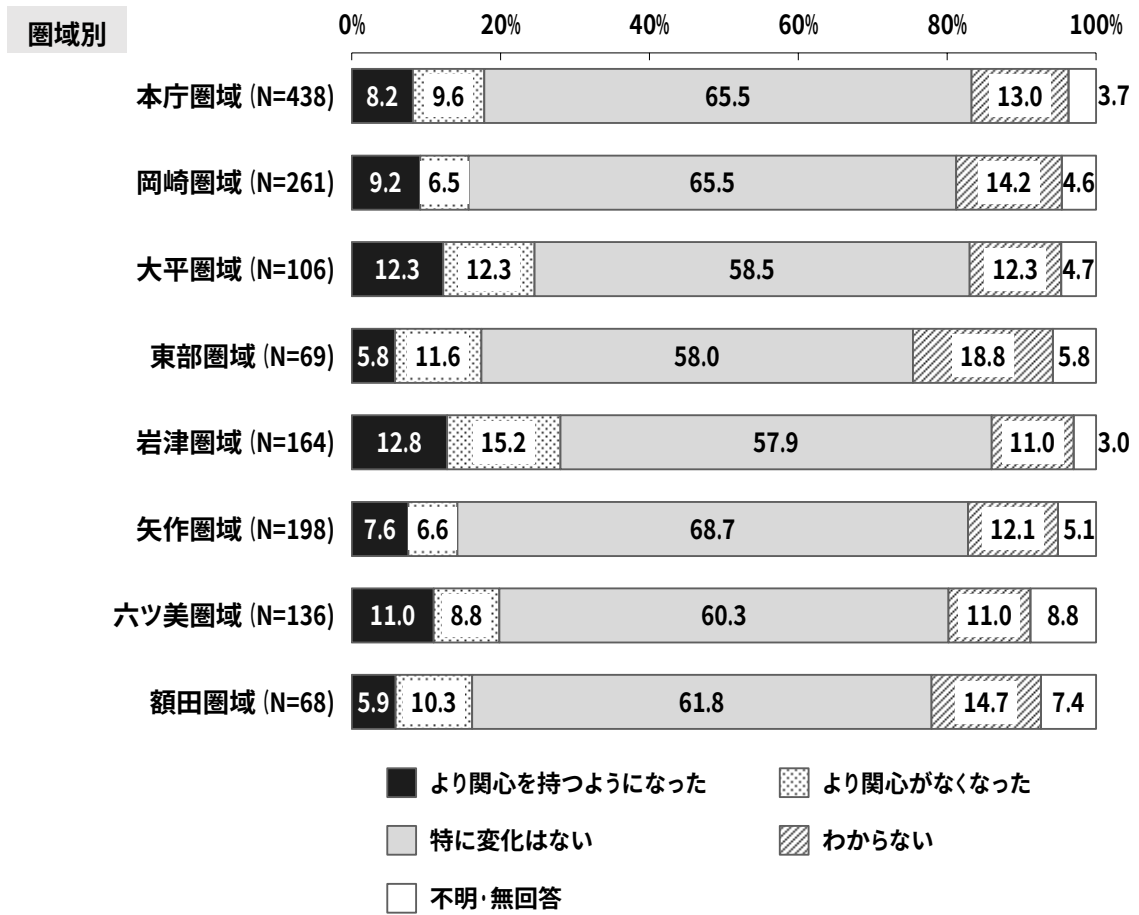
令和2年度調査では、「より関心を持つようになった」が8.9%、「より関心がなくなった」が9.5%、「特に変化はない」が63.1%となっています。

性別では、男性で「より関心を持つようになった」が、女性で「より関心がなくなった」が、それぞれ1割を超えています。

年齢区分別では、30～39歳、40～49歳、60～64歳及び65～69歳で「より関心を持つようになった」がそれぞれ1割を超えています。

圏域別では、大平、岩津及び六ツ美の各圏域で「より関心を持つようになった」がそれぞれ1割を超えています。





3 福祉への関心、意識について

問 17 あなたは、「福祉」に関心がありますか。（1つの番号に○）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

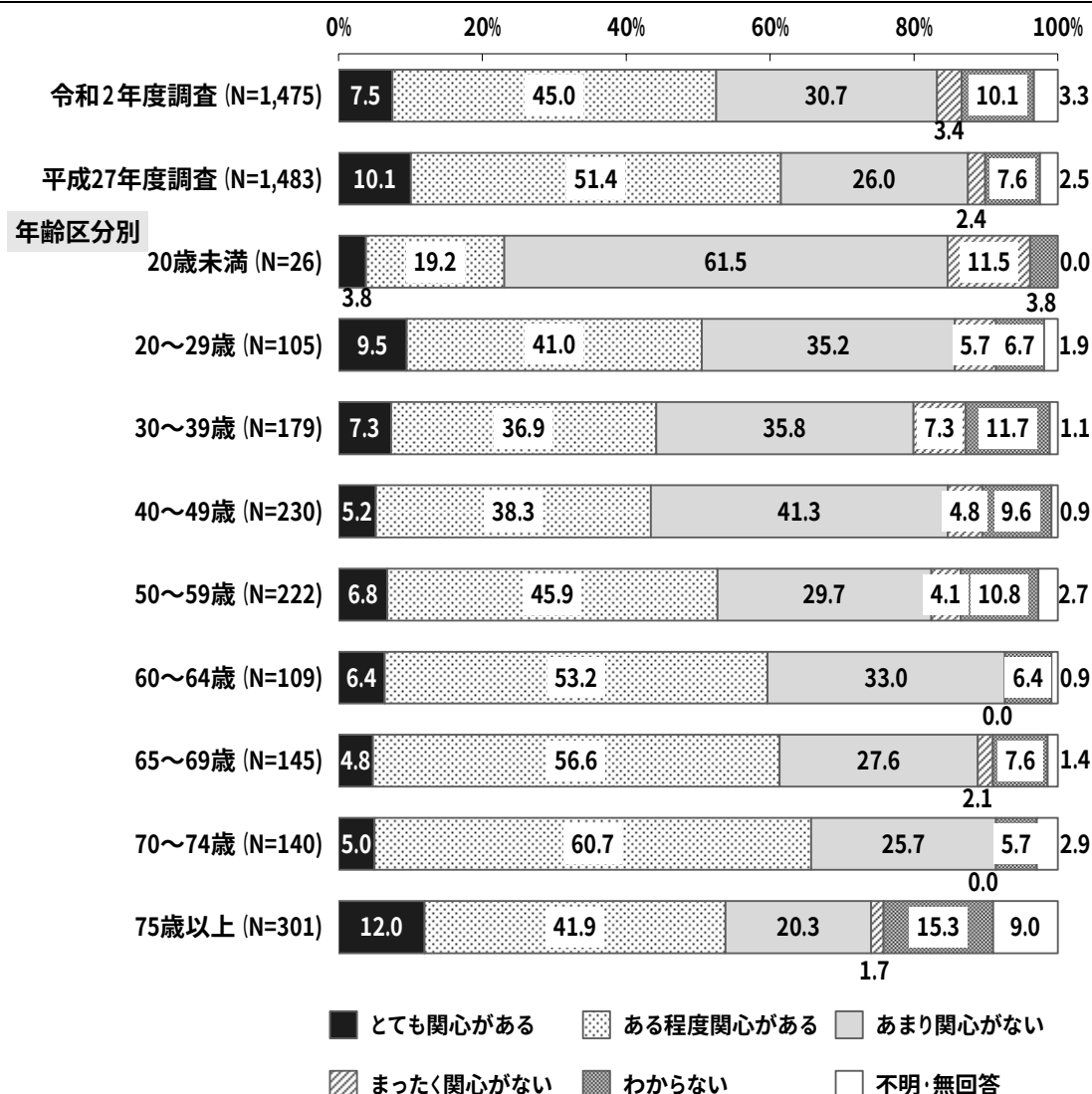
『関心がある』 …「とても関心がある」と「ある程度関心がある」の合算
『関心がない』 …「あまり関心がない」と「まったく関心がない」の合算

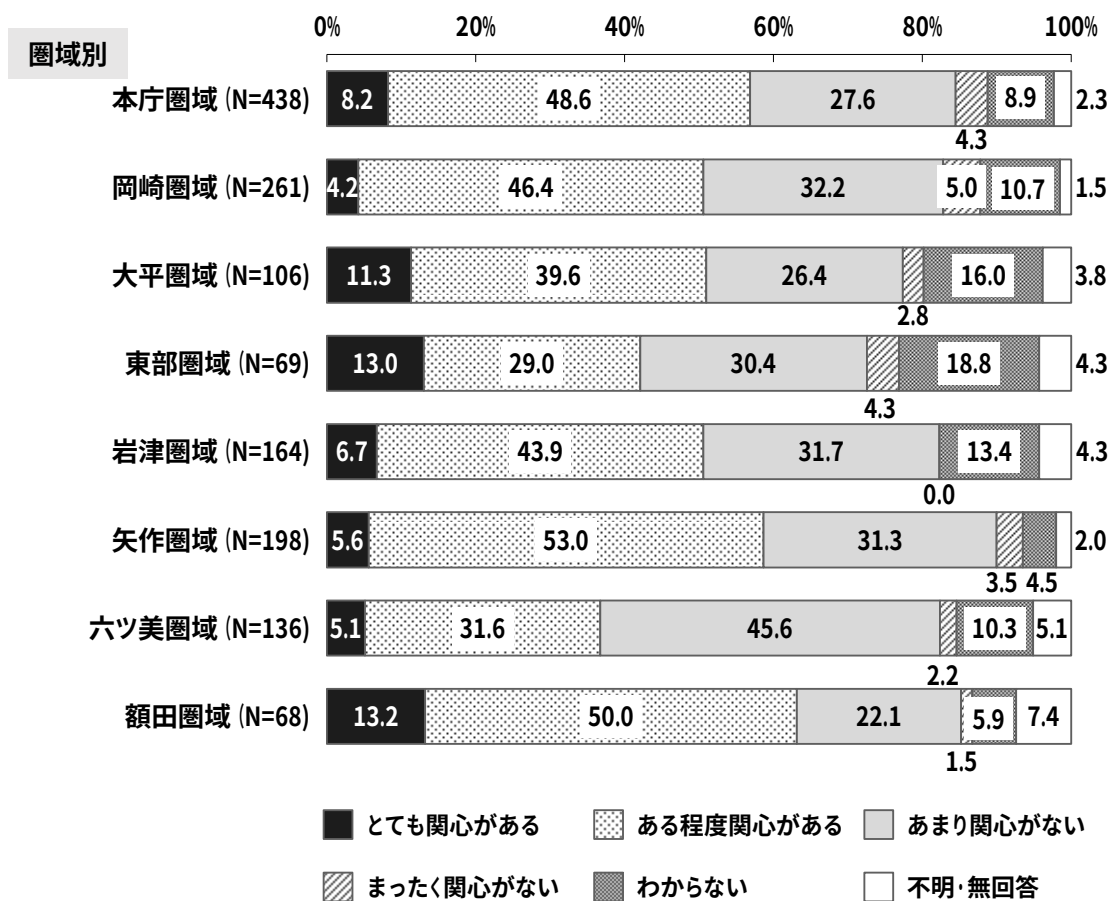
令和2年度調査では、全体で『関心がある』が52.5%、『関心がない』が34.1%となっています。

年齢区分別では、20歳未満で『関心がない』が、他の年代と比べて高くなっています。なお、20～29歳及び50歳以上で『関心がある』が5割を超えています。

圏域別では、額田圏域で『関心がある』が、六ツ美圏域で『関心がない』が、他の圏域と比べてそれぞれ高くなっています。

経年で比較すると、『関心がある』が令和2年度調査に52.5%と、平成27年度調査と比べて9.0ポイント低くなっています。



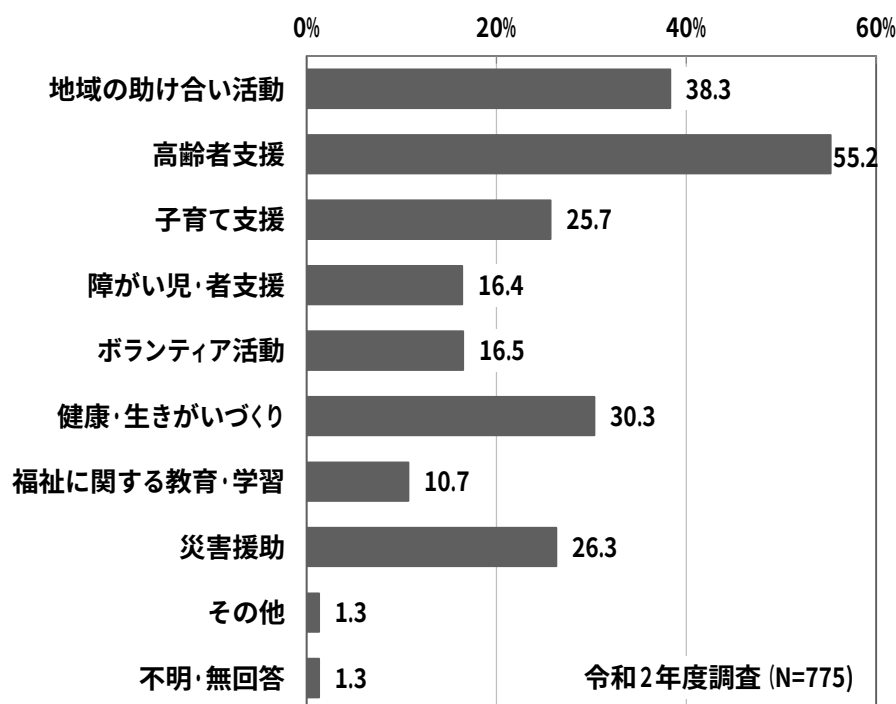


＜問 17 で「1. とても関心がある」「2. ある程度関心がある」と回答した方に伺います＞

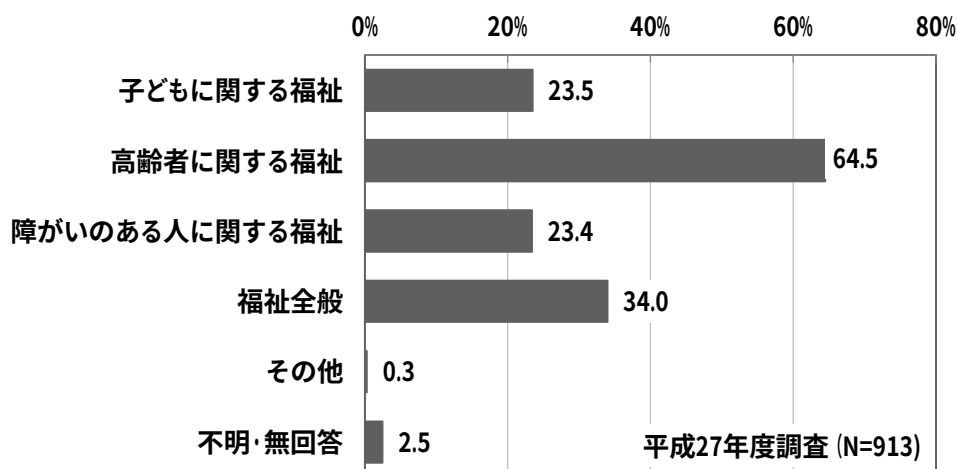
問 17－1 あなたが福祉について関心があることは、次のどれですか。

(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「高齢者支援」が55.2%と最も高く、次いで「地域の助け合い活動」が38.3%、「健康・生きがいづくり」が30.3%となっています。

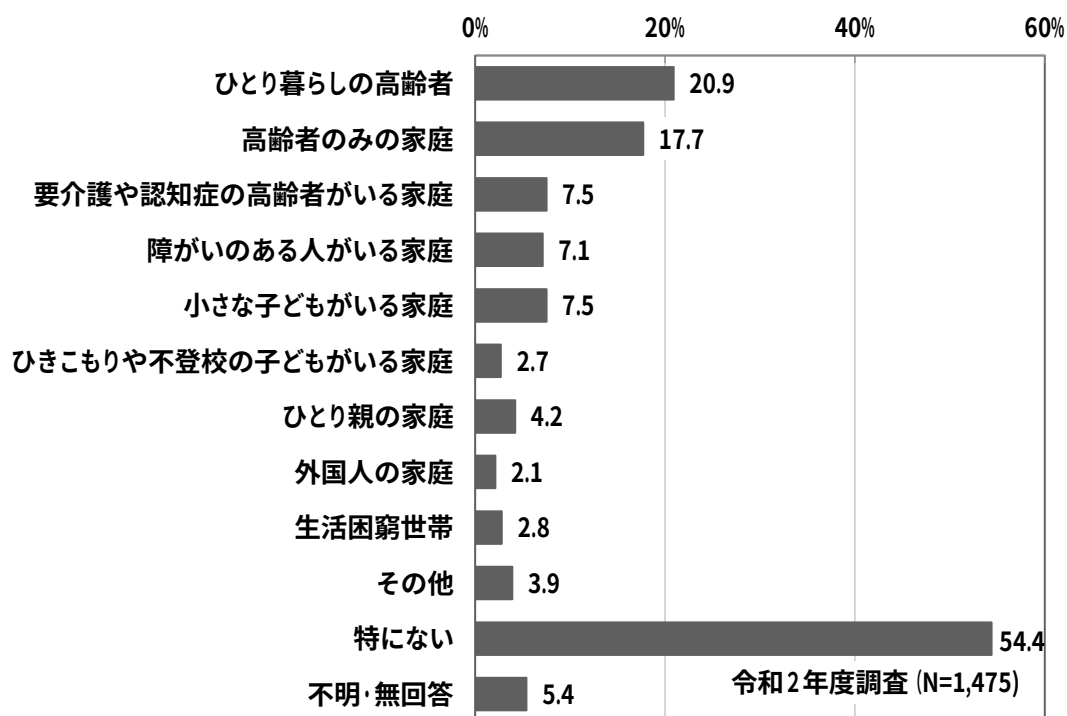


【参考：平成27年度調査】



問 18 隣近所に、周囲の人の手助けや協力・支援が必要だと思われるご家庭がありますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和2年度調査では、全体で「特にない」が54.4%と最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者」が20.9%、「高齢者のみの家庭」が17.7%となっています。

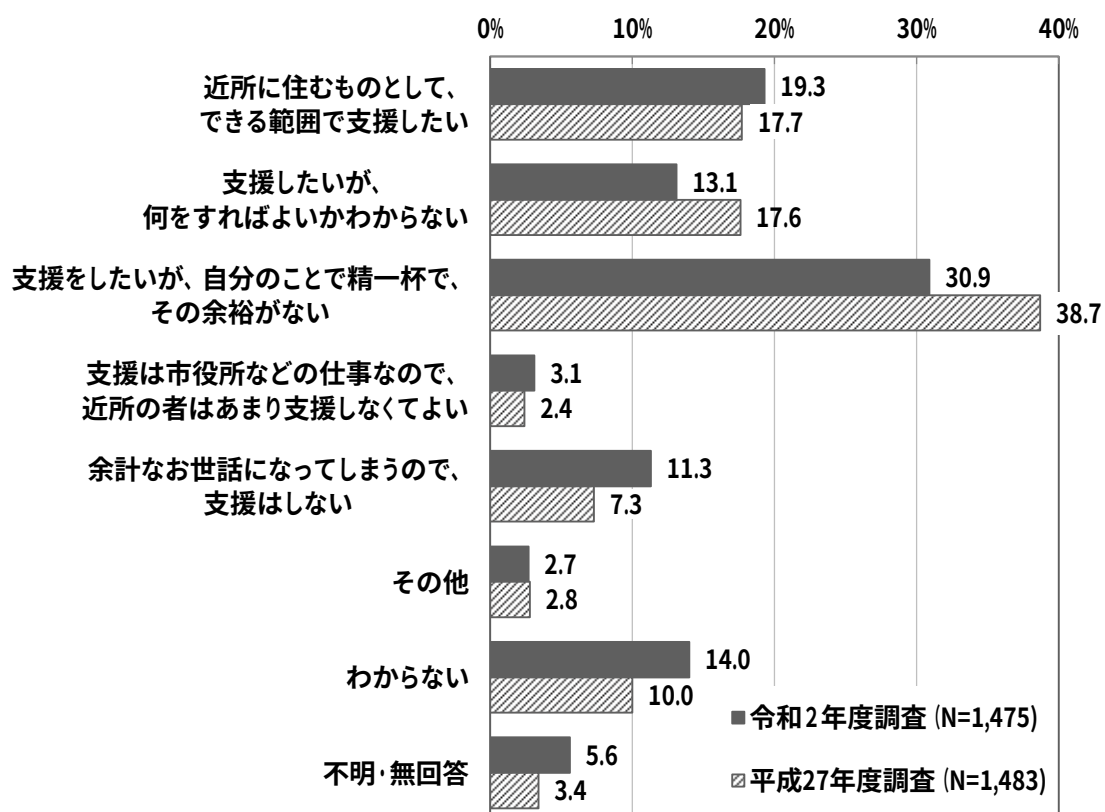


問 19 地域に住む「ひとり暮らしの高齢者」、「寝たきりの高齢者や障がいのある人のいる家族」、「子育てをしている家族」などに対する支援（日常生活上のお手伝いなど）について、あなたの考えに最も近いものをお選びください。
(1つの番号に○)

令和2年度調査では、全体で「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が30.9%と最も高く、次いで「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が19.3%、「支援したいが、何をすればよいかわからない」が13.1%となっています。

圏域別では、額田圏域で「近所に住むものとして、できる範囲で支援したい」が32.4%と、他の圏域と比べて高くなっています。なお、いずれの圏域でも「支援したいが、何をすればよいかわからない」がそれぞれ1割前後となっています。

経年で比較すると、「支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない」が令和2年度調査に30.9%と、平成27年度調査と比べて7.8ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		近所に住むものとして、できる範囲で支援したい	支援したいが、何をすればよいかわからない	支援をしたいが、自分のことで精一杯で、その余裕がない	支援は市役所などの仕事なので、近所の者はあまり支援しなくてよい	余計なお世話になってしまうので、支援はしない	その他	わからない	不明・無回答
圏域別	本庁圏域 (N=438)	16.4	13.7	37.9	2.7	11.2	3.0	11.0	4.1
	岡崎圏域 (N=261)	18.4	15.7	28.4	2.3	14.2	2.3	14.9	3.8
	大平圏域 (N=106)	21.7	14.2	27.4	1.9	12.3	4.7	14.2	3.8
	東部圏域 (N=69)	15.9	11.6	20.3	2.9	13.0	1.4	26.1	8.7
	岩津圏域 (N=164)	22.6	9.8	23.2	4.3	14.0	1.8	17.7	6.7
	矢作圏域 (N=198)	20.7	13.6	31.3	5.1	8.1	2.0	12.6	6.6
	六ツ美圏域 (N=136)	17.6	11.0	32.4	4.4	9.6	2.2	14.7	8.1
	額田圏域 (N=68)	32.4	10.3	27.9	0.0	4.4	5.9	13.2	5.9

**問 20 「こんなことであれば、私にもできる」と思うことはありますか。
(あてはまるすべての番号に○)**

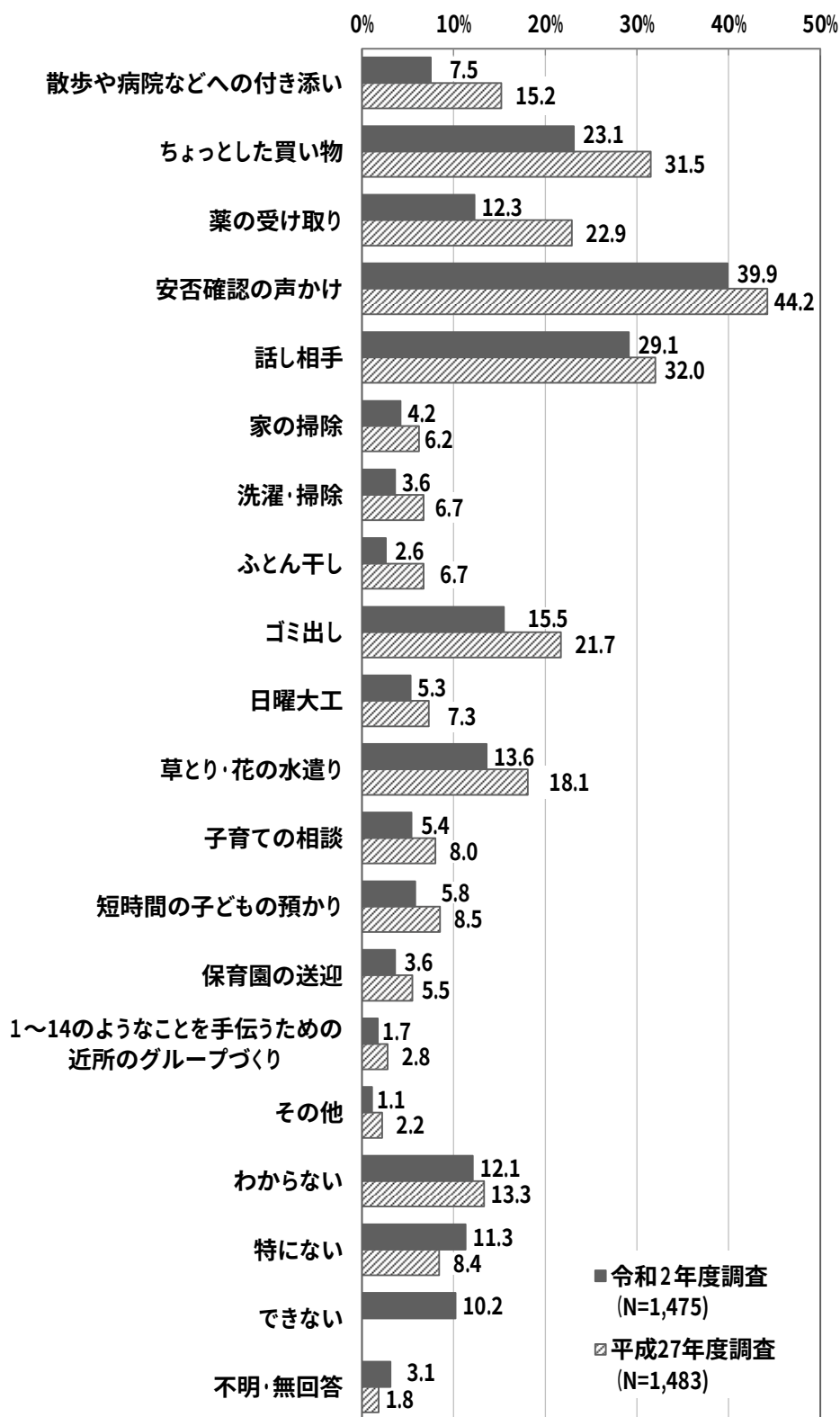
令和2年度調査では、全体で「安否確認の声かけ」が39.9%と最も高く、次いで「話し相手」が29.1%、「ちょっとした買い物」が23.1%となっています。

性別では、女性で「話し相手」が34.6%と、男性と比べて11.7ポイント高くなっています。

年齢区分別では、30歳未満及び75歳以上で「話し相手」、30～74歳で「安否確認の声かけ」がそれぞれ最も高くなっています。

圏域別では、いずれの圏域でも「安否確認の声かけ」が最も高くなっています。

経年で比較すると、「薬の受け取り」が令和2年度調査に12.3%と、平成27年度調査と比べて10.6ポイント、「ちょっとした買い物」が令和2年度調査に23.1%と、平成27年度調査と比べて8.4ポイント、低くなっています。



※選択肢について、「できない」は令和2年度調査のみの選択肢です。

■クロス集計集

(単位：%)

区分		散歩や病院などへの付き添い	ちょっとした買い物	薬の受け取り	安否確認の声かけ	話し相手	家の掃除	洗濯・掃除	ふとん干し	ゴミ出し	日曜大工
性別	男性 (N=691)	8.2	19.8	11.1	36.5	22.9	4.8	2.7	2.9	15.6	10.7
	女性 (N=769)	6.8	26.1	13.3	42.8	34.6	3.6	4.3	2.3	15.3	0.4
年齢区分別	20 歳未満 (N=26)	7.7	11.5	0.0	34.6	57.7	3.8	3.8	0.0	15.4	0.0
	20～29 歳 (N=105)	13.3	33.3	19.0	39.0	42.9	8.6	5.7	3.8	14.3	7.6
	30～39 歳 (N=179)	4.5	26.3	11.2	34.1	30.7	4.5	3.4	4.5	14.5	4.5
	40～49 歳 (N=230)	4.3	23.9	13.9	41.7	24.8	1.7	1.7	1.3	13.9	7.0
	50～59 歳 (N=222)	10.4	28.4	18.9	48.6	28.4	4.1	3.2	4.1	19.8	6.8
	60～64 歳 (N=109)	7.3	25.7	12.8	46.8	22.0	1.8	0.0	0.0	19.3	2.8
	65～69 歳 (N=145)	10.3	22.1	10.3	51.7	27.6	5.5	4.1	3.4	17.2	4.8
	70～74 歳 (N=140)	6.4	22.9	12.9	46.4	33.6	2.1	2.9	2.1	15.7	5.7
	75 歳以上 (N=301)	6.3	14.0	6.0	24.9	25.2	5.6	6.0	2.0	12.3	4.0
圏域別	本庁圏域 (N=438)	7.1	22.1	14.2	40.2	25.6	4.8	3.2	2.5	15.1	5.5
	岡崎圏域 (N=261)	5.4	22.2	10.3	39.5	31.4	3.8	4.2	2.7	14.9	3.4
	大平圏域 (N=106)	6.6	24.5	14.2	41.5	31.1	3.8	1.9	2.8	18.9	7.5
	東部圏域 (N=69)	4.3	15.9	10.1	34.8	21.7	2.9	4.3	2.9	13.0	8.7
	岩津圏域 (N=164)	8.5	25.0	11.0	42.7	32.9	3.0	3.0	1.8	12.8	4.9
	矢作圏域 (N=198)	9.6	25.3	11.1	38.4	34.8	3.5	3.5	2.5	18.2	5.1
	六ツ美圏域 (N=136)	9.6	23.5	12.5	39.0	21.3	5.1	4.4	2.2	14.7	4.4
	額田圏域 (N=68)	11.8	26.5	13.2	45.6	38.2	7.4	5.9	4.4	20.6	7.4

■クロス集計集

(単位：%)

区分		草とり・花の水遣り	子育ての相談	短時間の子どもの預かり	保育園の送迎	1〜14のようなことを手伝えるための近所のグループづくり	その他	わからない	特にない	できない	不明・無回答
性別	男性 (N=691)	16.1	3.2	4.2	2.2	1.2	1.0	12.4	15.9	9.3	2.9
	女性 (N=769)	11.3	7.4	7.2	4.8	2.1	1.2	12.0	7.0	10.9	3.1
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	11.5	0.0	7.7	3.8	0.0	0.0	19.2	7.7	0.0	0.0
	20〜29歳 (N=105)	13.3	1.0	9.5	2.9	1.9	1.9	6.7	12.4	8.6	0.0
	30〜39歳 (N=179)	11.2	16.2	11.2	9.5	3.4	0.6	20.1	10.6	8.4	1.1
	40〜49歳 (N=230)	8.7	10.0	8.3	3.5	2.2	1.3	15.2	9.1	7.8	1.3
	50〜59歳 (N=222)	16.2	5.9	7.7	4.5	2.3	0.5	14.4	8.6	5.9	1.4
	60〜64歳 (N=109)	10.1	4.6	3.7	2.8	1.8	2.8	9.2	14.7	6.4	0.9
	65〜69歳 (N=145)	20.0	2.1	4.1	2.8	1.4	1.4	12.4	11.7	6.9	1.4
	70〜74歳 (N=140)	14.3	1.4	2.1	2.9	0.7	1.4	7.9	15.7	7.1	3.6
	75歳以上 (N=301)	15.0	1.0	1.0	0.7	0.3	0.7	8.0	11.6	21.9	9.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	12.8	7.5	5.9	3.7	2.5	1.8	12.8	9.4	11.2	2.5
	岡崎圏域 (N=261)	13.8	4.6	6.1	2.3	1.5	0.4	13.4	10.3	8.0	1.9
	大平圏域 (N=106)	13.2	2.8	6.6	2.8	0.9	0.0	11.3	17.0	11.3	1.9
	東部圏域 (N=69)	13.0	2.9	4.3	1.4	0.0	1.4	15.9	11.6	13.0	4.3
	岩津圏域 (N=164)	13.4	4.9	4.3	4.3	0.6	1.8	8.5	11.6	10.4	3.0
	矢作圏域 (N=198)	15.7	4.5	5.6	5.6	2.0	0.5	11.6	10.1	11.1	3.0
	六ツ美圏域 (N=136)	11.0	6.6	5.9	4.4	2.2	0.7	15.4	16.2	7.4	5.1
	額田圏域 (N=68)	19.1	2.9	5.9	2.9	0.0	1.5	7.4	8.8	7.4	2.9

4 地域福祉に関することについて

問 21 あなたは「岡崎市地域福祉計画」を知っていますか。（1つの番号に○）

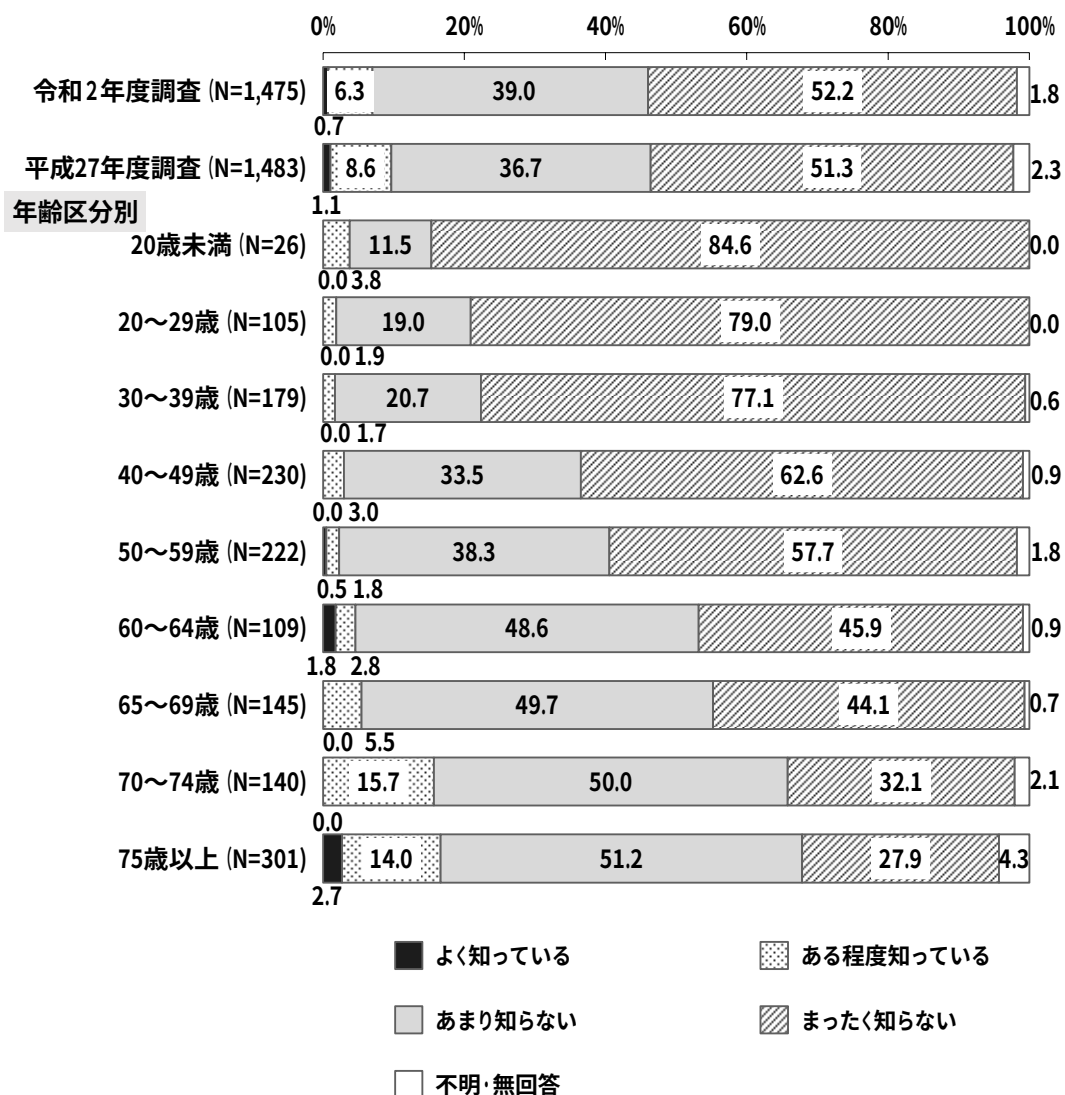
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

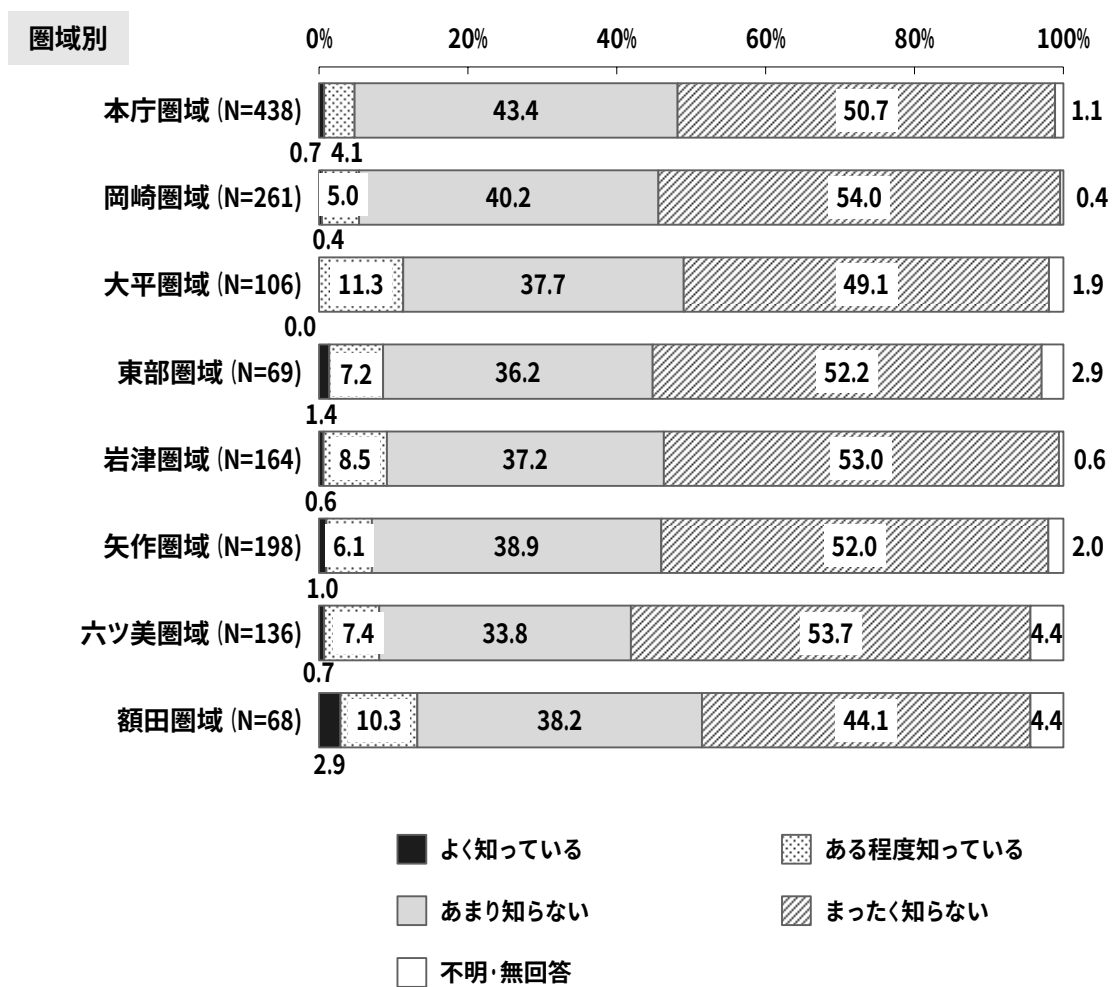
『知っている』 …『よく知っている』と『ある程度知っている』の合算
『知らない』 …『あまり知らない』と『まったく知らない』の合算

令和2年度調査では、全体で『知っている』が7.0%、『知らない』が91.2%となっています。
年齢区分別では、70～74歳及び75歳以上で『知っている』が1割を超えています。なお、
いずれの年代でも『知らない』が7割を超えています。

圏域別では、大平及び額田の各圏域で『知っている』がそれぞれ1割を超えています。

経年で比較すると、『知らない』が令和2年度調査に91.2%と、平成27年と比べて3.2ポイント高くなっています。





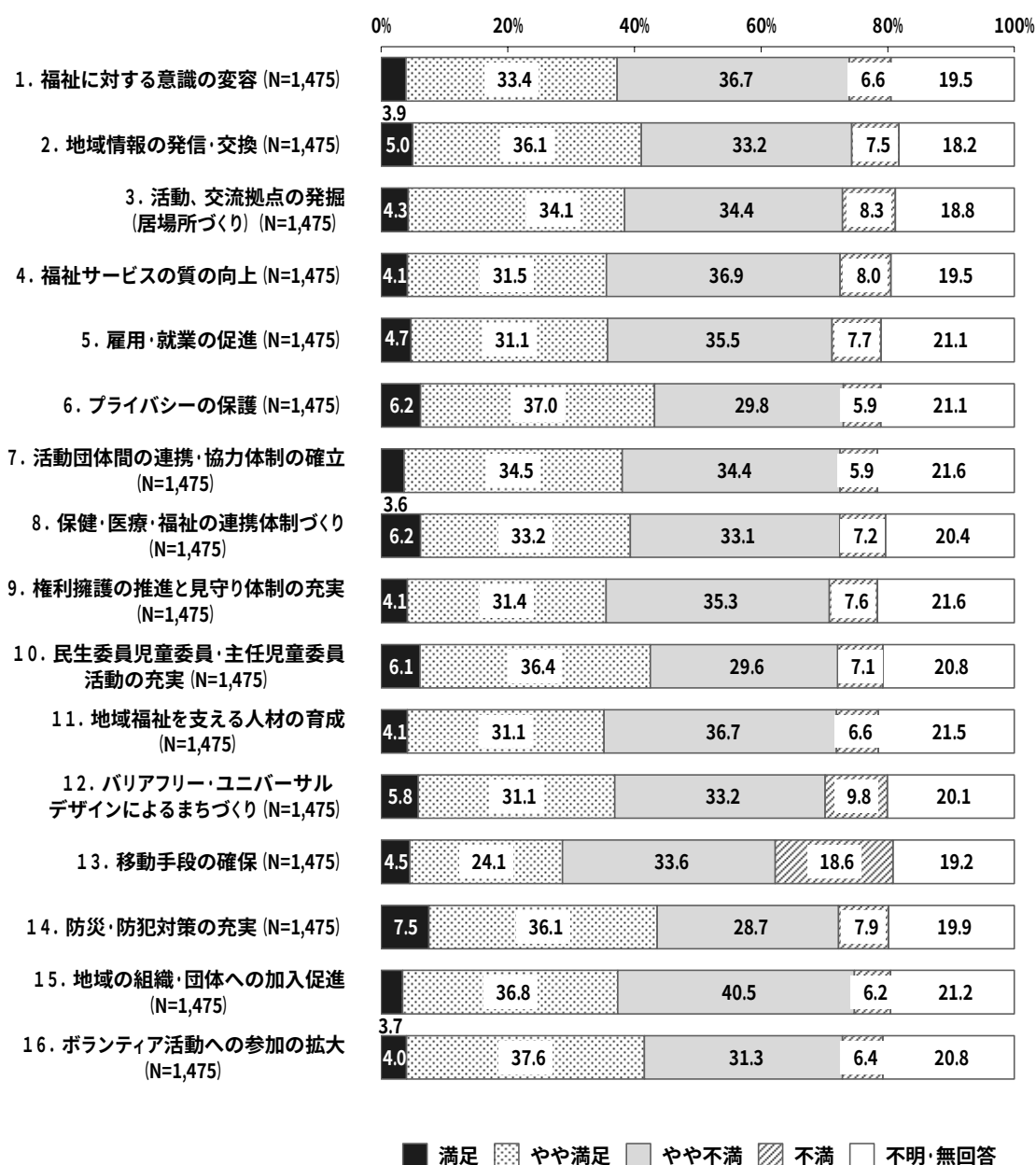
問 22 岡崎市の地域福祉に関する取組についての、満足度と重要度をお答えください。回答例にならって、「満足度」と「重要度」のそれぞれについて、今のお気持ちに一番近い答えの番号（１～４）を１つ選んで○をつけてください。

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『満足』 …「満足」と「やや満足」の合算
『不満』 …「やや不満」と「不満」の合算

【満足度】

満足度については「２．地域情報の発信・交換」「６．プライバシーの保護」「10.民生委員児童委員・主任児童委員活動の充実」「14. 防災・防犯対策の充実」「15.地域の組織・団体への加入促進」「16.ボランティア活動への参加の拡大」で『満足』がそれぞれ４割を超えています。一方、「13. 移動手段の確保」で『不満』が52.2%と、他と比べて高くなっています。



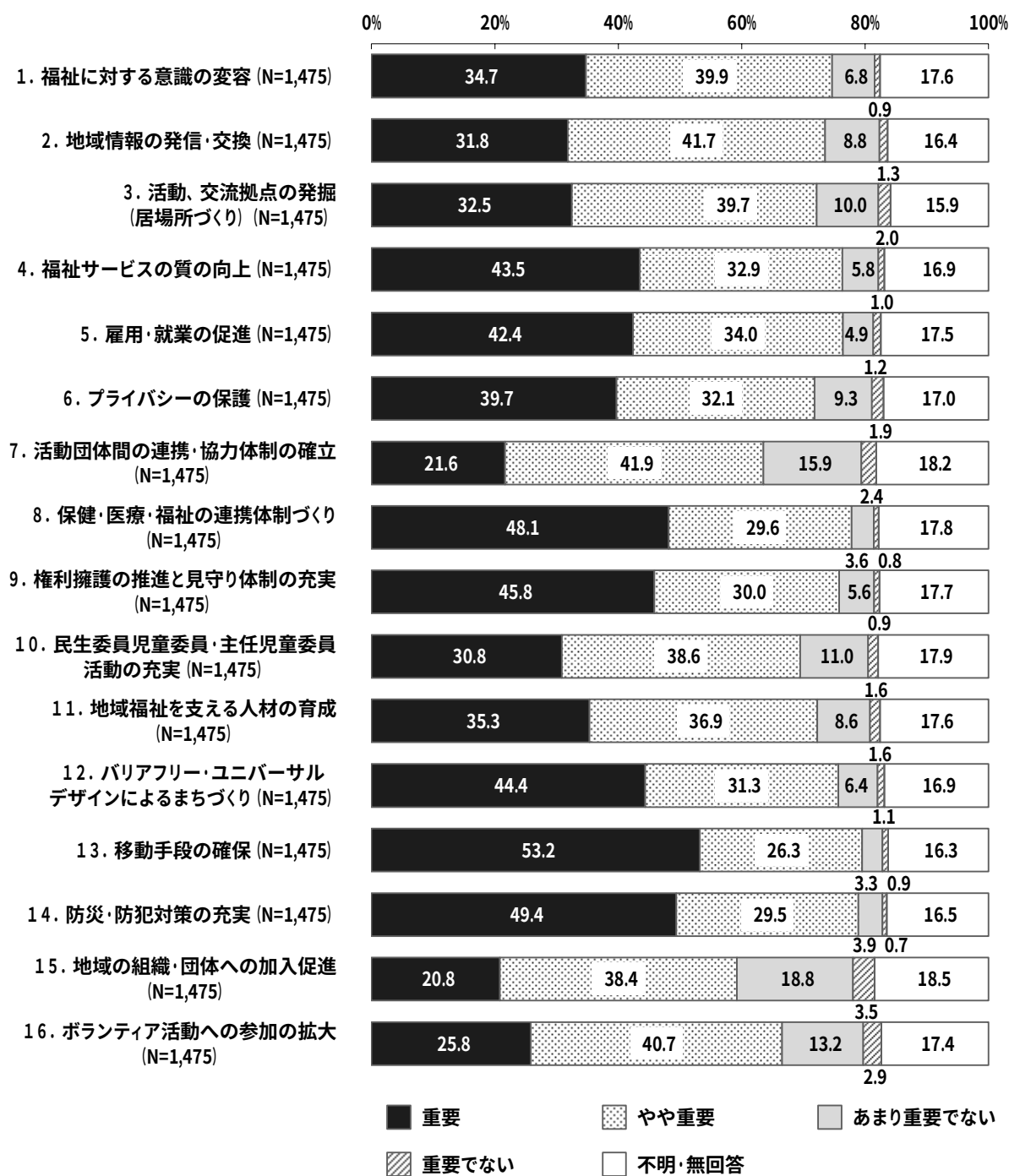
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『重要』 …「重要」と「やや重要」の合算

『重要でない』 …「あまり重要でない」と「重要でない」の合算

【重要度】

重要度については「8. 保健・医療・福祉の連携体制づくり」「13. 移動手段の確保」「14. 防災・防犯対策の充実」で『重要』がそれぞれ8割弱となっています。



■満足度・重要度の評価方法

岡崎市の地域福祉に関する取組（「1. 福祉に対する意識の変容」から「16. ボランティア活動への参加の拡大」の各項目）について、満足度、重要度により評価を行いました。

評価では、設問の4つの回答選択肢を点数化しています。点数は、満足度は「とても満足」の4点から「不満」の1点、重要度は「とても重要」の4点から「重要でない」の1点まで、それぞれ4段階評価としています。

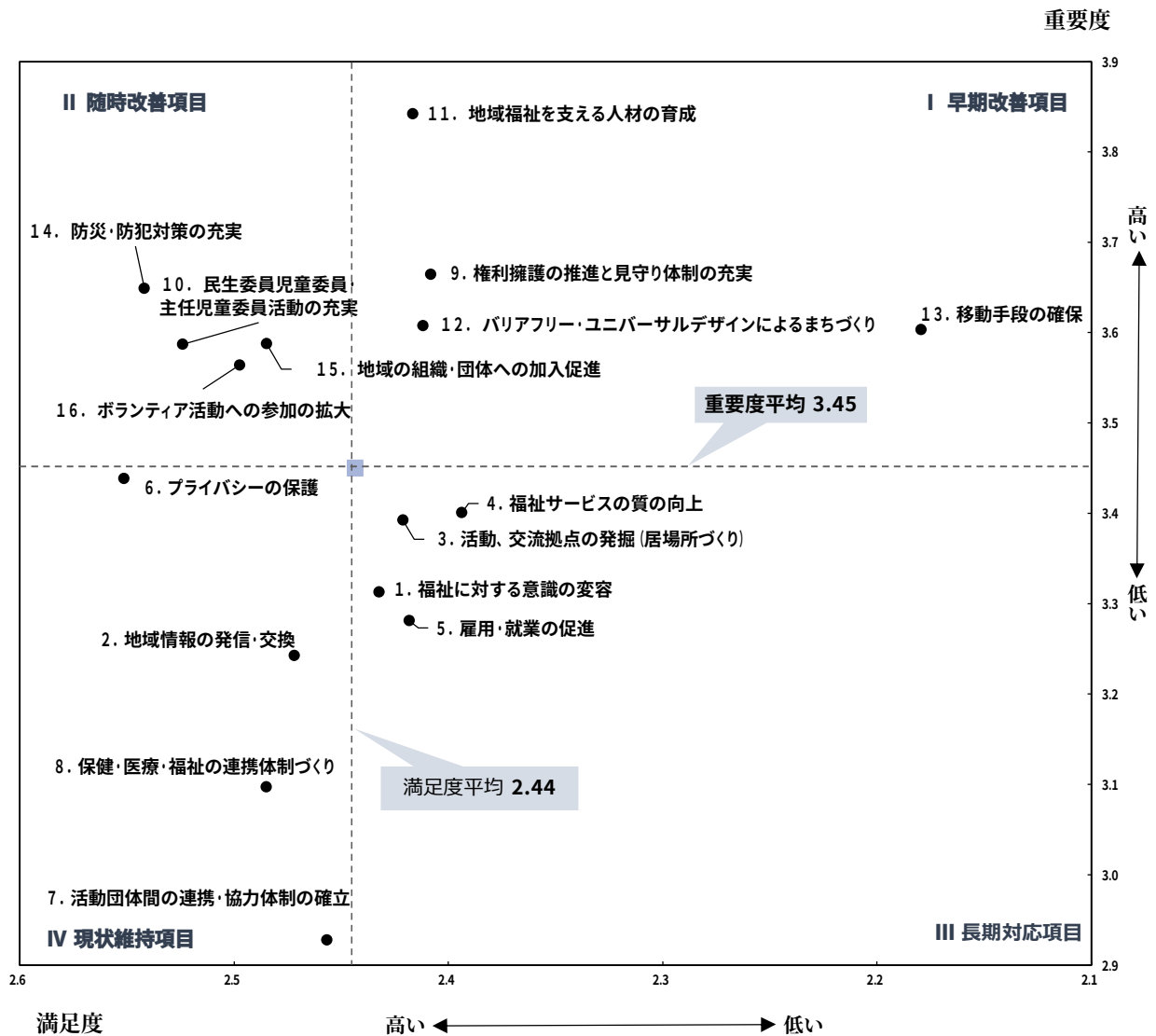
以上の点数を、「不明・無回答」を除く回答件数で除した、加重平均で平均値を算出しました。

■散布図の見方

領域	内容
I 早期改善項目	重要度が高いにもかかわらず、満足度が低く、優先して充実が求められている項目
II 随時改善項目	満足度も重要度も高いため、継続して充実する必要がある項目
III 長期対応項目	満足度は低いものの重要度も低いため、他の項目の優先順位を勘案しながら、満足度を向上していくべき項目
IV 現状維持項目	満足度は高く、重要度が低いため、今後満足度の低い他の項目へ優先順位をシフトしていくことを検討する必要がある項目

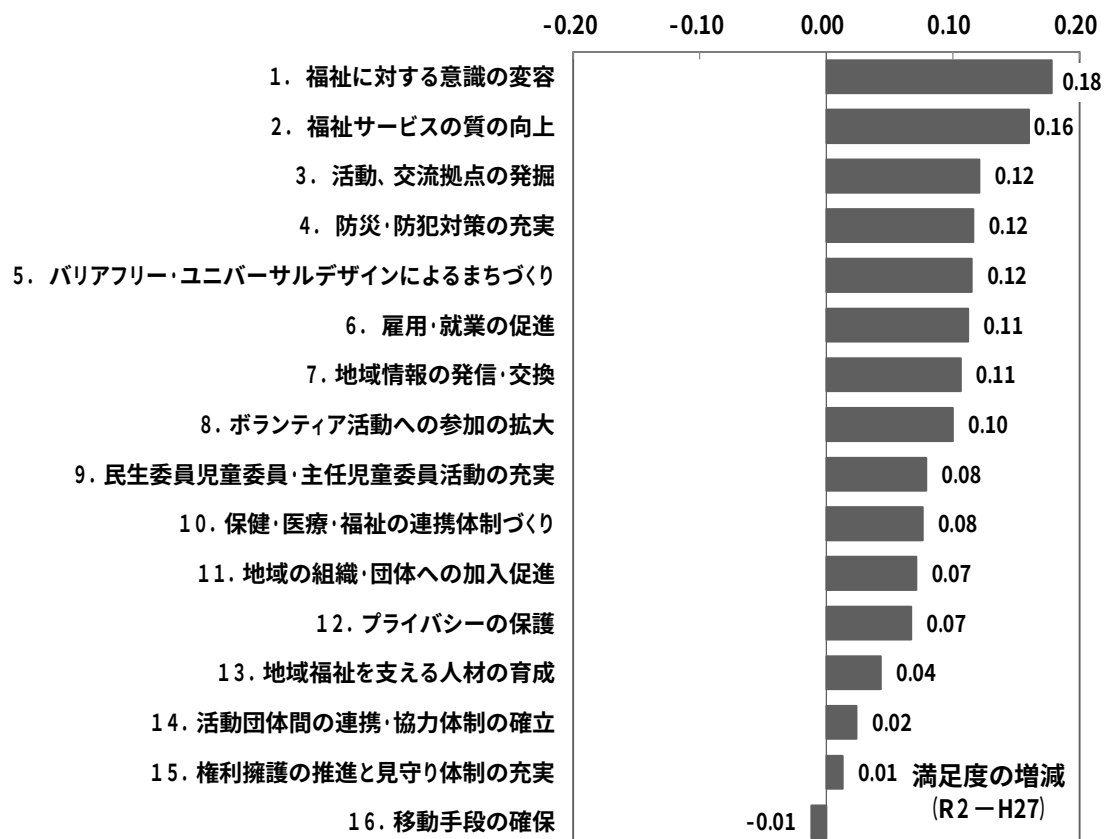
■ 散布図

重要度が高いにもかかわらず満足度が低く、優先して充実が求められている「Ⅰ 早期改善項目」には、「13. 移動手段の確保」、「11. 地域福祉を支える人材の育成」、「9. 権利擁護の推進と見守り体制の充実」、「12. バリアフリー・ユニバーサルデザインによるまちづくり」が挙げられています。



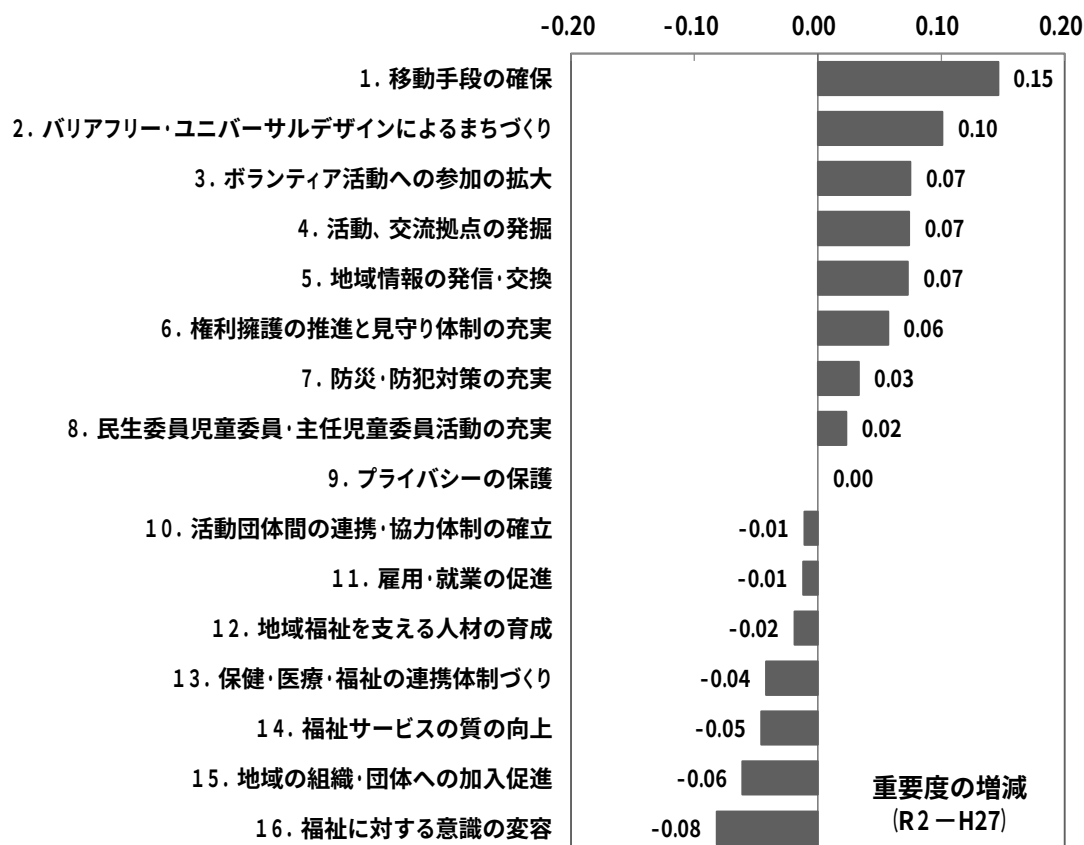
■平成 27 年度調査との比較（満足度）

平成 27 年度調査との満足度の比較について、「1.福祉に対する意識の変容」で 0.18 と、16 項目の中で最も満足度が上がっています。一方、「16.移動手段の確保」で-0.01 と唯一満足度が下がっています。



■平成 27 年度調査との比較（重要度）

平成 27 年度調査との重要度の比較について、「1. 移動手段の確保」で 0.15 と、16 項目の中で最も重要度が上がっています。一方、16 項目中の 7 項目で重要度が下がっています。



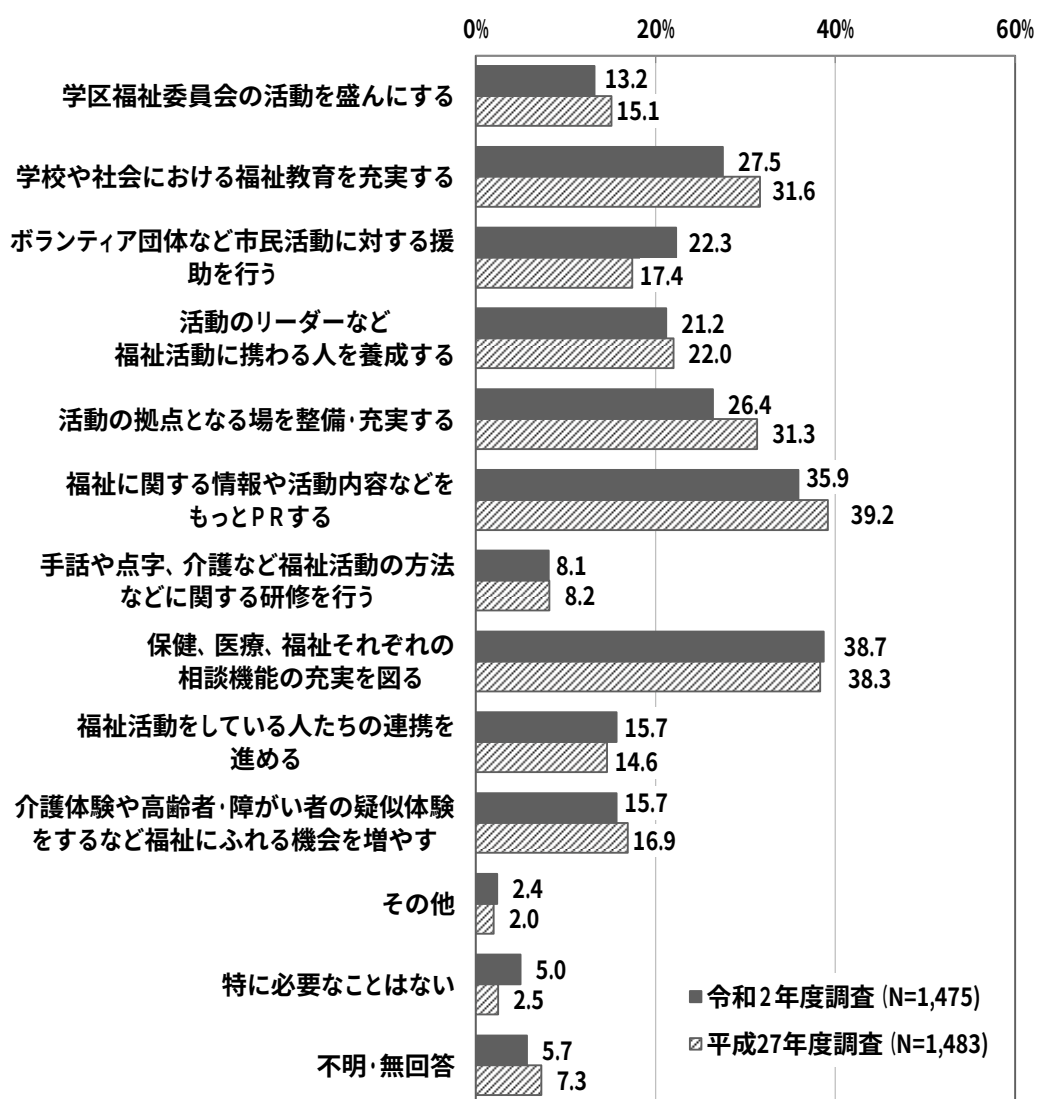
問 23 地域の助け合いや福祉活動を進めるために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る」が38.7%と最も高く、次いで「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」が35.9%、「学校や社会における福祉教育を充実する」が27.5%となっています。

年齢区分別では、20歳未満で「介護体験や高齢者・障がい者の疑似体験をするなど福祉にふれる機会を増やす」が30.8%と、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、いずれの圏域でも「福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする」「保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る」が3割を超えています。

経年で比較すると、「ボランティア団体など市民活動に対する援助を行う」が令和2年度調査に22.3%と、平成27年度調査と比べて4.9ポイント高くなっています。一方、「活動の拠点となる場を整備・充実する」が令和2年度調査に26.4%と、平成27年度調査と比べて4.9ポイント低くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		学区福祉委員会の活動を盛んにする	学校や社会における福祉教育を充実する	ボランティア団体など市民活動に対する援助を行う	活動のリーダーなど福祉活動に携わる人を養成する	活動の拠点となる場を整備・充実する	福祉に関する情報や活動内容などをもっとPRする	手話や点字、介護など福祉活動の方法などに関する研修を行う	保健、医療、福祉それぞれの相談機能の充実を図る	福祉活動をしている人たちの連携を進める	介護体験や高齢者・障がい者の疑似体験をするなど福祉にふれる機会を増やす	その他	特に必要なことはない	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	7.7	30.8	15.4	11.5	34.6	42.3	0.0	42.3	7.7	30.8	0.0	3.8	0.0
	20～29歳 (N=105)	12.4	42.9	25.7	16.2	26.7	27.6	15.2	30.5	21.9	18.1	1.9	3.8	1.0
	30～39歳 (N=179)	10.6	35.8	18.4	17.9	32.4	31.3	7.8	39.7	20.7	11.7	4.5	6.1	1.1
	40～49歳 (N=230)	10.4	33.5	24.3	17.0	30.9	30.9	10.9	38.3	17.8	14.3	2.6	4.8	0.9
	50～59歳 (N=222)	10.4	30.2	25.2	18.5	31.5	35.6	10.4	43.2	17.6	15.3	2.3	5.0	1.8
	60～64歳 (N=109)	11.9	28.4	22.9	30.3	34.9	38.5	4.6	43.1	19.3	11.9	2.8	1.8	1.8
	65～69歳 (N=145)	9.7	17.2	24.1	27.6	20.7	46.2	12.4	40.0	10.3	16.6	1.4	4.1	8.3
	70～74歳 (N=140)	17.1	20.7	27.9	29.3	22.1	48.6	5.0	40.7	12.9	16.4	2.9	3.6	7.1
	75歳以上 (N=301)	19.3	17.9	16.3	20.9	17.6	33.6	3.0	34.9	11.3	18.3	2.0	7.0	16.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	11.4	29.2	23.5	22.1	26.0	36.8	7.5	37.7	13.7	17.4	2.5	4.1	4.8
	岡崎圏域 (N=261)	15.3	27.2	21.1	25.3	25.3	36.8	9.2	39.5	14.6	12.3	1.9	6.1	5.4
	大平圏域 (N=106)	8.5	25.5	17.9	16.0	34.0	40.6	7.5	43.4	6.6	19.8	2.8	4.7	6.6
	東部圏域 (N=69)	13.0	23.2	24.6	23.2	24.6	36.2	5.8	34.8	17.4	20.3	1.4	5.8	7.2
	岩津圏域 (N=164)	12.8	28.7	25.0	17.1	24.4	32.9	6.1	40.9	15.2	15.2	1.2	6.7	7.9
	矢作圏域 (N=198)	15.7	27.8	21.7	19.7	32.3	36.4	8.6	35.4	19.7	13.6	3.0	5.1	2.5
	六ツ美圏域 (N=136)	8.8	28.7	17.6	22.1	22.1	30.9	13.2	42.6	24.3	19.1	3.7	4.4	6.6
	額田圏域 (N=68)	23.5	20.6	26.5	22.1	26.5	36.8	4.4	36.8	19.1	8.8	2.9	1.5	8.8

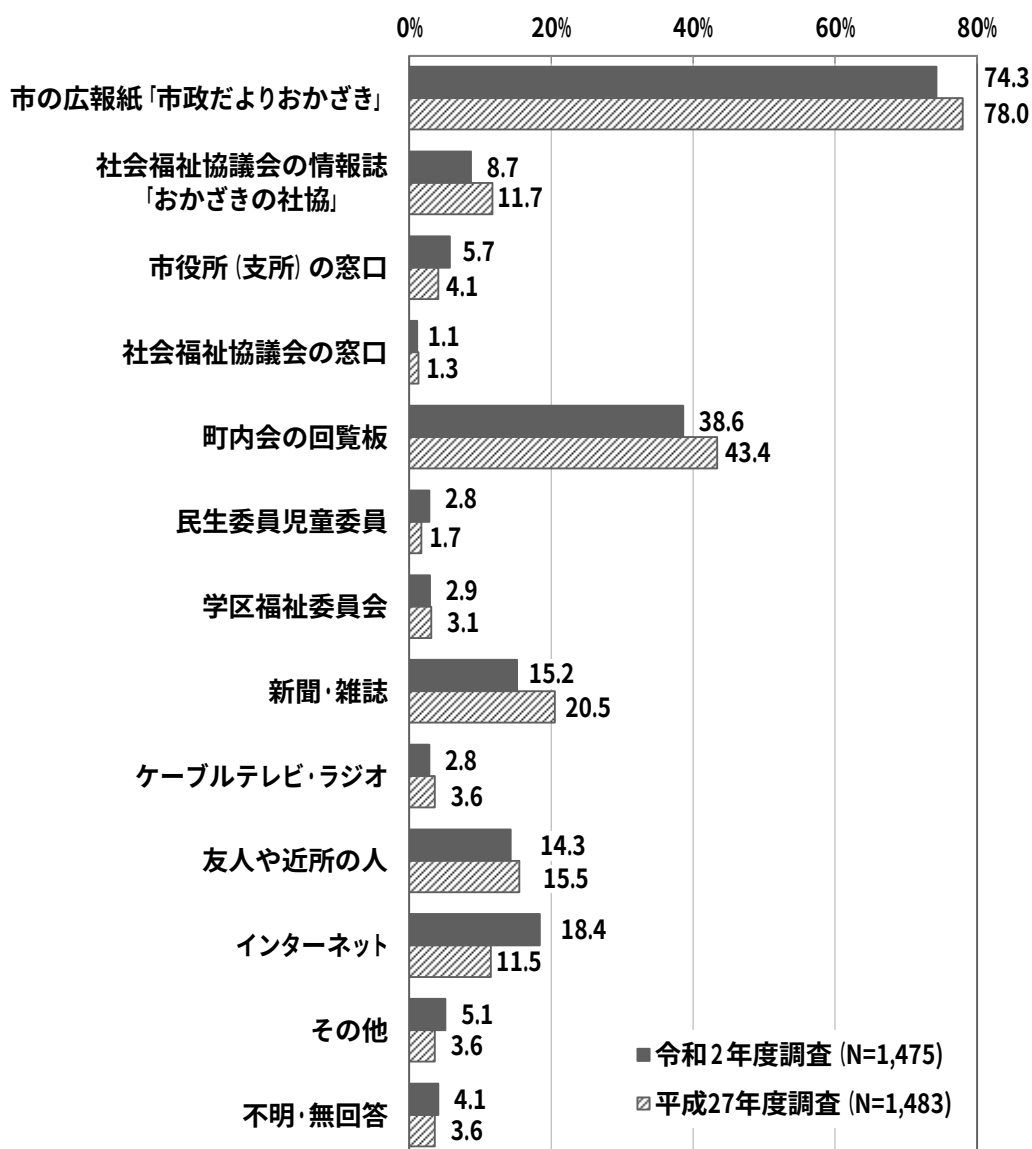
問 24 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか。
(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「市の広報紙「市政だよりおかざき」」が74.3%と最も高く、次いで「町内会の回覧板」が38.6%、「インターネット」が18.4%となっています。

年齢区分別では、70～74歳で「社会福祉協議会の情報誌「おかざきの社協」」が20.0%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、20歳未満、20～29歳及び30～39歳で「インターネット」が3割を超えています。

圏域別では、額田圏域で「社会福祉協議会の情報誌「おかざきの社協」」が26.5%と、他の圏域と比べて高くなっています。なお、いずれの圏域でも「市の広報紙「市政だよりおかざき」」「町内会の回覧板」が高くなっています。

経年で比較すると、「インターネット」が令和2年度調査に18.4%と、平成27年度調査と比べて6.9ポイント高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		市の広報紙「市政だよりおかざき」	社会福祉協議会の情報誌「おかざきの社協」	市役所（支所）の窓口	社会福祉協議会の窓口	町内会の回覧板	民生委員児童委員	学区福祉委員会	新聞・雑誌	ケーブルテレビ・ラジオ	友人や近所の人	インターネット	その他	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	46.2	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	11.5	0.0	15.4	30.8	11.5	3.8
	20～29歳 (N=105)	45.7	3.8	1.9	0.0	14.3	0.0	0.0	11.4	3.8	13.3	37.1	8.6	2.9
	30～39歳 (N=179)	65.4	3.4	5.0	0.0	31.3	1.1	1.7	8.4	2.8	15.6	32.4	6.1	2.8
	40～49歳 (N=230)	80.0	2.2	3.9	1.7	33.9	1.3	0.4	10.0	1.7	14.3	29.1	6.1	0.9
	50～59歳 (N=222)	80.2	8.1	9.0	1.4	36.5	2.7	1.4	14.0	2.3	14.0	23.4	5.9	1.4
	60～64歳 (N=109)	84.4	11.9	6.4	2.8	43.1	2.8	3.7	15.6	6.4	13.8	15.6	3.7	2.8
	65～69歳 (N=145)	83.4	13.1	9.7	0.7	45.5	1.4	2.8	20.7	2.8	13.8	10.3	3.4	3.4
	70～74歳 (N=140)	81.4	20.0	3.6	0.7	54.3	5.7	8.6	19.3	2.1	13.6	4.3	2.9	5.0
	75歳以上 (N=301)	73.4	11.6	6.0	1.3	46.8	5.6	5.3	20.6	3.0	14.6	1.3	3.3	10.0
圏域別	本庁圏域 (N=438)	77.4	7.3	7.5	0.9	35.8	1.8	1.4	14.8	3.7	12.8	19.6	5.3	3.9
	岡崎圏域 (N=261)	73.6	8.8	4.6	1.1	36.4	1.9	4.6	11.5	3.1	13.8	19.9	6.5	3.8
	大平圏域 (N=106)	76.4	6.6	6.6	1.9	47.2	1.9	1.9	19.8	2.8	15.1	21.7	4.7	2.8
	東部圏域 (N=69)	76.8	5.8	8.7	0.0	43.5	1.4	0.0	8.7	4.3	7.2	10.1	2.9	5.8
	岩津圏域 (N=164)	76.2	7.9	3.7	0.6	43.9	6.1	3.0	17.1	1.8	12.8	14.0	4.9	3.7
	矢作圏域 (N=198)	72.2	11.6	6.1	0.5	41.4	3.5	1.5	17.7	1.5	17.2	20.2	4.5	3.0
	六ツ美圏域 (N=136)	73.5	5.1	2.9	0.7	36.0	3.7	5.9	17.6	2.2	20.6	18.4	4.4	5.1
	額田圏域 (N=68)	66.2	26.5	5.9	5.9	42.6	4.4	10.3	13.2	1.5	17.6	7.4	1.5	7.4

問 25 あなたは、自分にとって必要な福祉サービスの情報をどの程度入手できていると思いますか。（1つの番号に○）

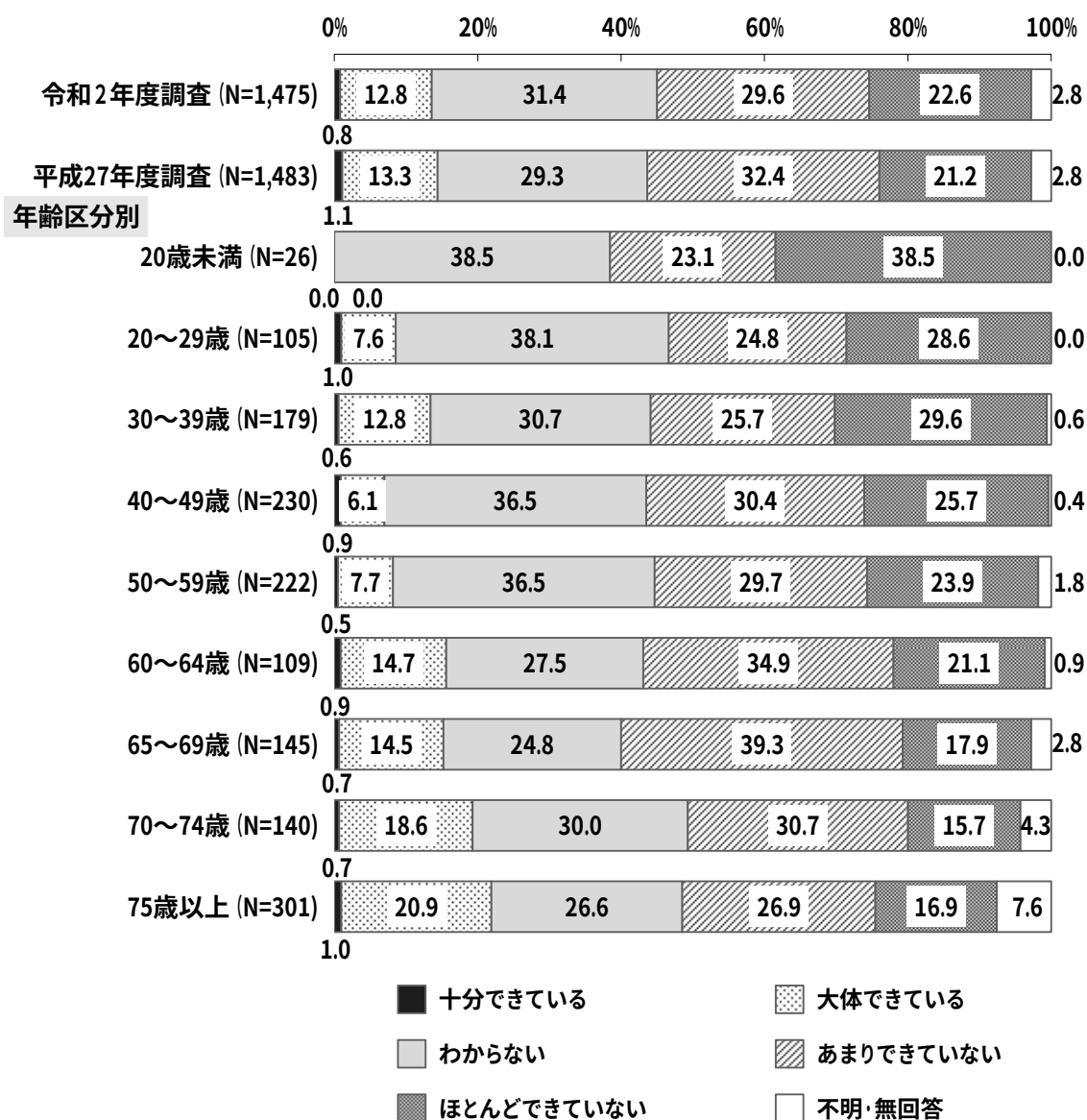
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

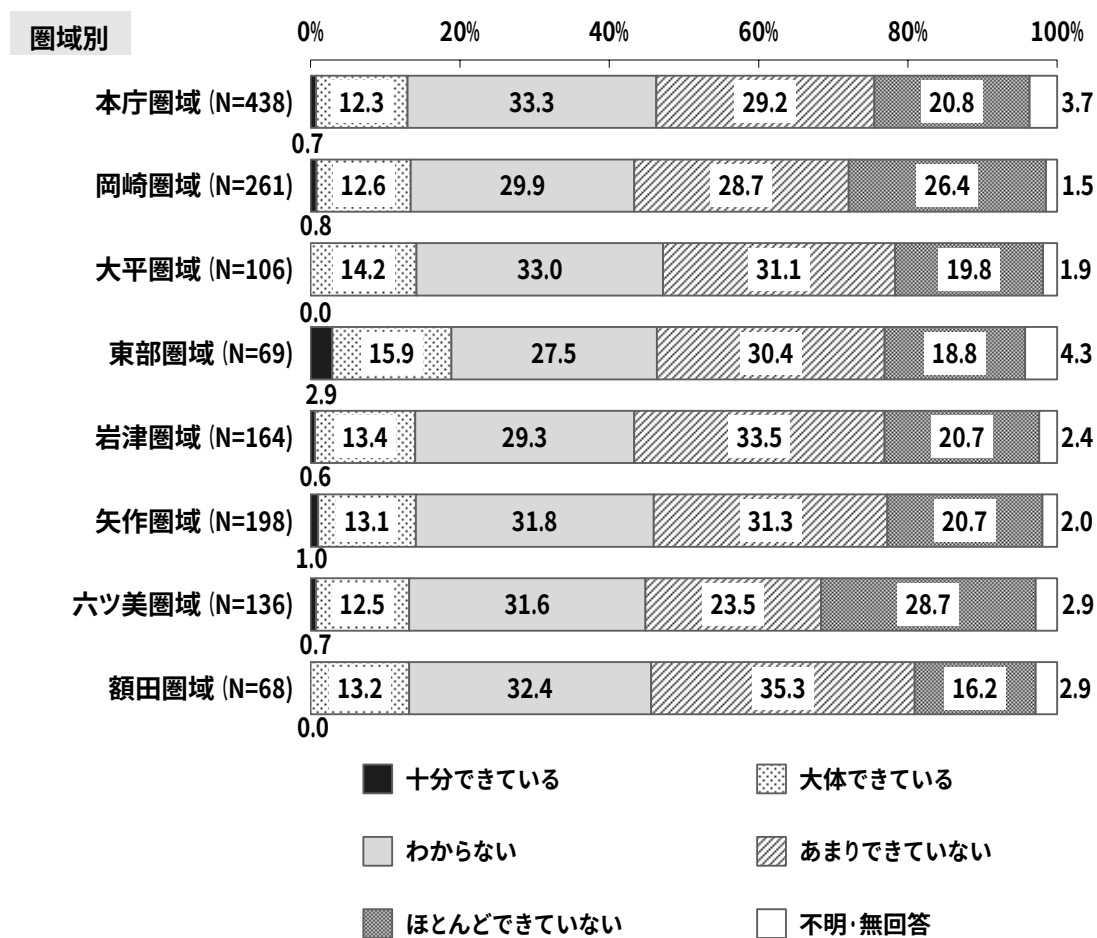
『できている』 …「十分できている」と「大体できている」の合算
『できていない』 …「あまりできていない」と「ほとんどできていない」の合算

令和2年度調査では、全体で『できている』が13.6%、「わからない」が31.4%、『できていない』が52.2%となっています。

年齢区分別では、75歳以上で『できている』が、21.9%と、他の年代と比べて高くなっています。なお、20歳未満で『できていない』が6割を超えています。

圏域別では、東部圏域で『できている』が18.8%と、他の圏域と比べて高くなっています。経年で比較すると、大差はみられません。





問 26 あなたは福祉サービスに関してどのような情報を得たいですか。

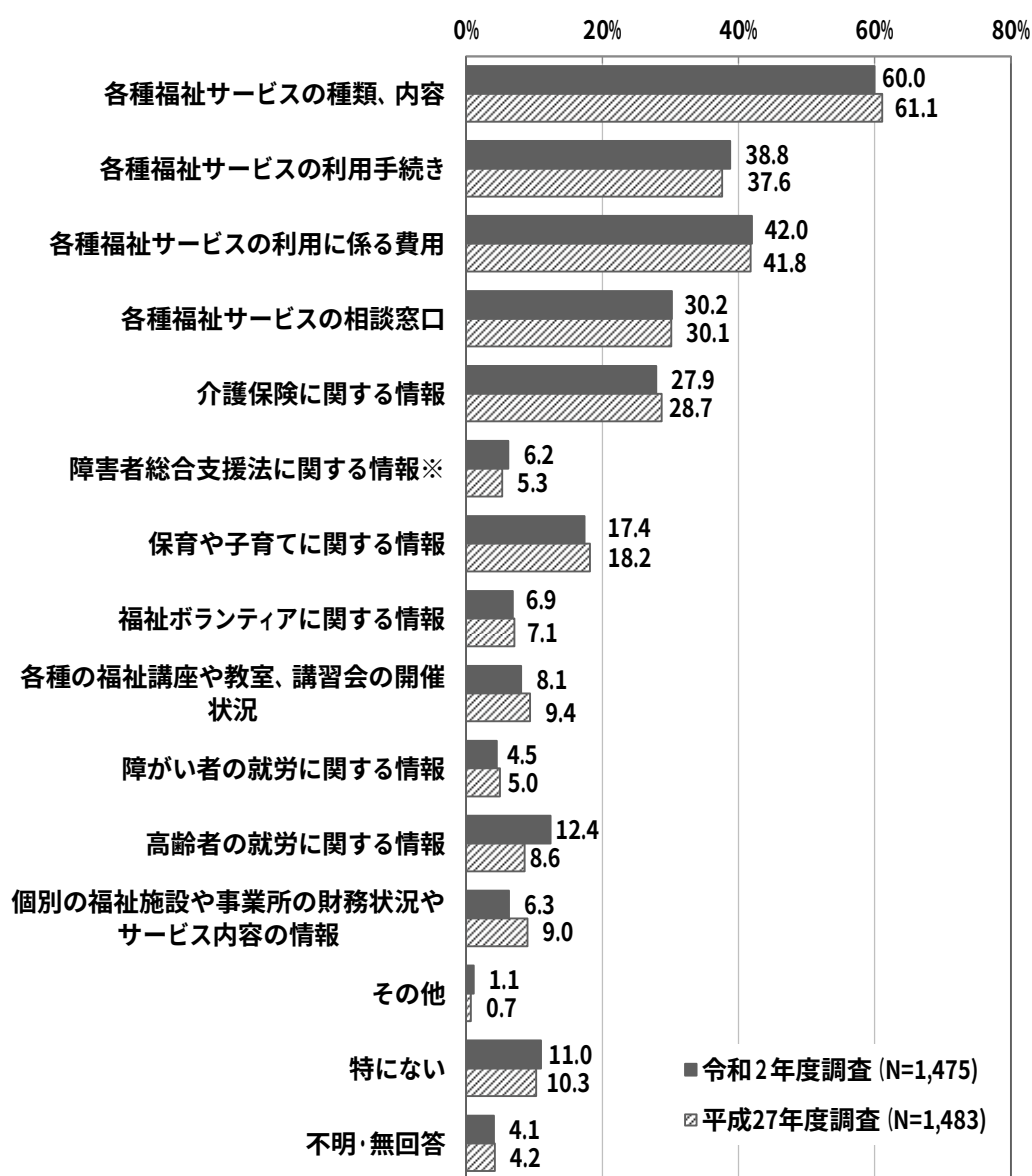
(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「各種福祉サービスの種類、内容」が60.0%と最も高く、次いで「各種福祉サービスの利用に係る費用」が42.0%、「各種福祉サービスの利用手続き」が38.8%となっています。

年齢区分別では、30～39歳で「保育や子育てに関する情報」が55.3%と、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、いずれの圏域でも「各種福祉サービスの種類、内容」が最も高くなっています。

経年で比較すると、「高齢者の就労に関する情報」が令和2年度調査に12.4%と、平成27年度調査と比べて3.8ポイント高くなっています。



※選択肢について、令和2年度調査は「障害者総合支援法に関する情報」となっていますが、平成27年度調査は「障害者自立支援法に関する情報」です。

■クロス集計集

(単位：%)

区分		各種福祉サービスの種類、内容	各種福祉サービスの利用手続き	各種福祉サービスの利用に係る費用	各種福祉サービスの相談窓口	介護保険に関する情報	障害者総合支援法に関する情報※	保育や子育てに関する情報	福祉ボランティアに関する情報	各種の福祉講座や教室、講習会の開催状況
年齢区分別	20 歳未満 (N=26)	42.3	15.4	23.1	3.8	23.1	7.7	23.1	15.4	0.0
	20～29 歳 (N=105)	53.3	31.4	32.4	21.9	8.6	5.7	37.1	10.5	5.7
	30～39 歳 (N=179)	53.6	34.6	38.0	24.6	11.7	2.8	55.3	8.4	7.3
	40～49 歳 (N=230)	63.9	36.1	44.3	34.3	23.5	7.0	33.9	6.1	6.5
	50～59 歳 (N=222)	65.3	41.9	47.7	33.8	32.4	9.0	8.1	7.2	12.2
	60～64 歳 (N=109)	67.0	47.7	44.0	33.9	33.0	6.4	6.4	6.4	9.2
	65～69 歳 (N=145)	72.4	42.8	53.8	34.5	37.2	6.2	0.7	5.5	9.7
	70～74 歳 (N=140)	65.7	47.1	46.4	31.4	39.3	4.3	1.4	7.9	10.7
	75 歳以上 (N=301)	49.8	36.9	34.9	28.9	31.2	6.3	1.3	4.3	6.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	64.2	42.2	43.8	33.3	26.9	6.4	18.0	6.8	7.8
	岡崎圏域 (N=261)	62.5	39.8	43.3	33.7	27.6	5.0	19.2	7.3	8.8
	大平圏域 (N=106)	62.3	37.7	44.3	24.5	25.5	9.4	14.2	5.7	12.3
	東部圏域 (N=69)	52.2	31.9	44.9	30.4	31.9	2.9	8.7	2.9	4.3
	岩津圏域 (N=164)	56.7	36.0	43.9	23.2	26.8	6.7	18.3	7.3	7.9
	矢作圏域 (N=198)	59.6	40.4	40.4	32.8	32.8	5.6	21.7	9.6	8.6
	六ツ美圏域 (N=136)	53.7	33.1	36.0	27.2	27.2	5.9	15.4	5.1	8.8
	額田圏域 (N=68)	54.4	42.6	41.2	26.5	23.5	7.4	10.3	2.9	5.9

※選択肢について、令和2年度調査は「障害者総合支援法に関する情報」となっていますが、平成27年度調査は「障害者自立支援法に関する情報」です。

■クロス集計集

(単位：%)

区分		障がい者の就労に関する情報	高齢者の就労に関する情報	個別の福祉施設や事業所の財務状況やサービス内容の情報	その他	特にない	不明・無回答
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	0.0	11.5	3.8	3.8	26.9	0.0
	20～29歳 (N=105)	7.6	4.8	6.7	1.0	18.1	0.0
	30～39歳 (N=179)	4.5	3.9	2.8	0.0	16.2	0.6
	40～49歳 (N=230)	6.1	7.8	6.5	0.9	8.3	0.9
	50～59歳 (N=222)	9.0	21.6	8.6	1.8	12.6	1.4
	60～64歳 (N=109)	4.6	21.1	5.5	0.0	9.2	2.8
	65～69歳 (N=145)	2.8	21.4	6.2	0.7	7.6	3.4
	70～74歳 (N=140)	0.7	12.1	8.6	2.1	7.1	3.6
	70歳以上 (N=301)	1.7	9.0	6.0	1.3	9.3	13.3
圏域別	本庁圏域 (N=438)	6.2	12.1	6.4	1.4	8.0	4.3
	岡崎圏域 (N=261)	3.8	11.1	5.7	0.8	12.6	3.1
	大平圏域 (N=106)	1.9	11.3	6.6	1.9	11.3	2.8
	東部圏域 (N=69)	4.3	10.1	5.8	1.4	8.7	8.7
	岩津圏域 (N=164)	3.7	11.6	5.5	0.6	13.4	3.0
	矢作圏域 (N=198)	5.1	14.6	4.5	1.0	10.1	2.5
	六ツ美圏域 (N=136)	4.4	14.7	10.3	0.7	16.9	4.4
	額田圏域 (N=68)	0.0	13.2	7.4	1.5	7.4	7.4

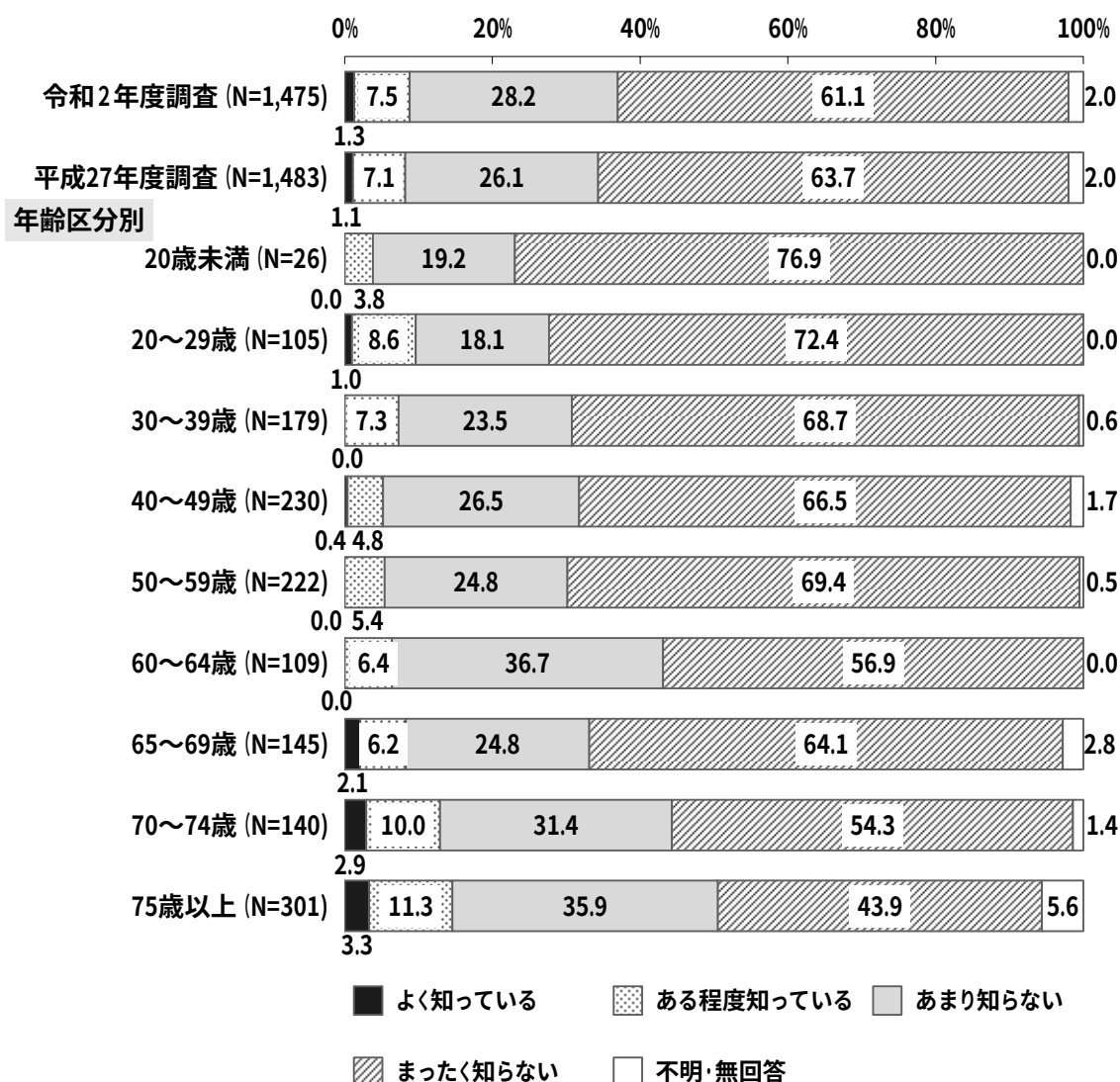
問 27 あなたは、地域福祉の相談員であるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を知っていますか。（1つの番号に○）

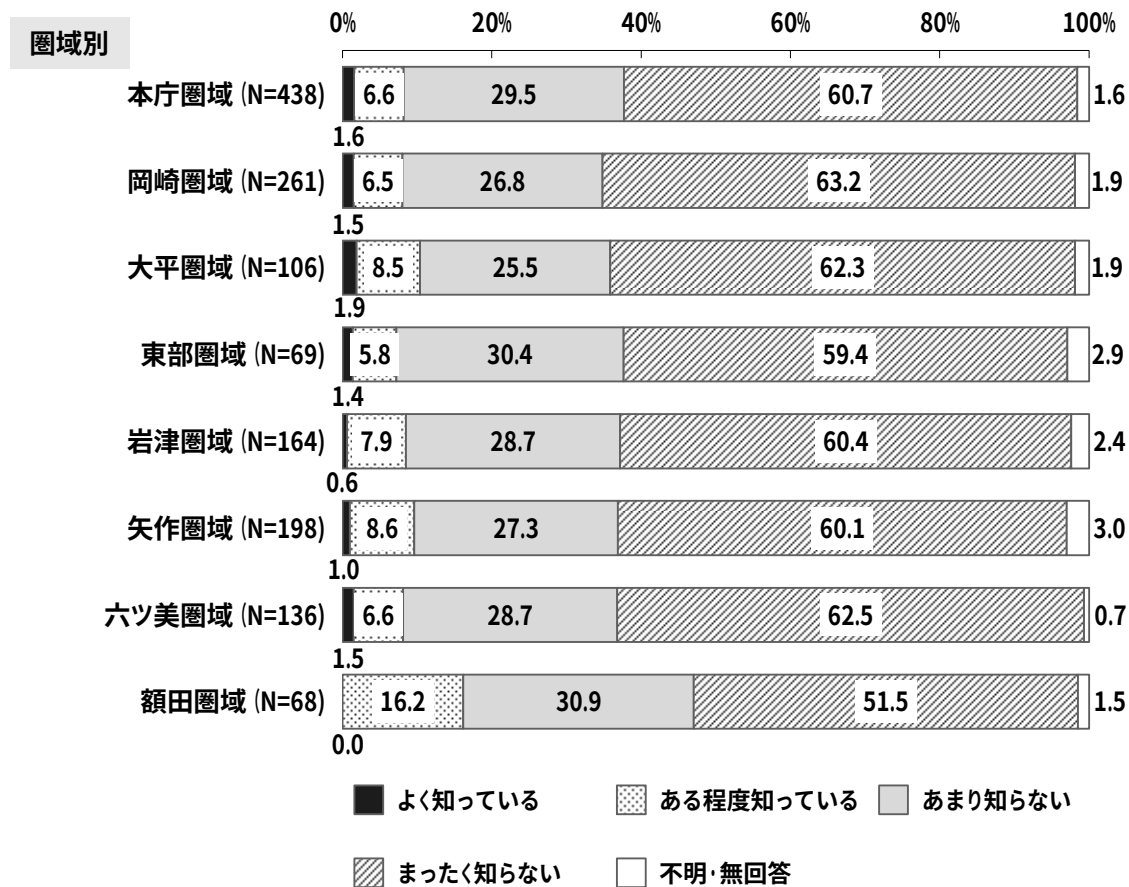
本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『知っている』 …『よく知っている』と『ある程度知っている』の合算
『知らない』 …『あまり知らない』と『まったく知らない』の合算

令和2年度調査では、全体で『知っている』が8.8%、『知らない』が89.3%となっています。
年齢区分別では、75歳以上で『知っている』が、他の年代と比べて高くなっています。なお、
いずれの年代でも『知らない』が7割を超えています。

圏域別では、額田圏域で『知っている』が16.2%と、他の圏域と比べて高くなっています。
経年で比較すると、大差はみられません。





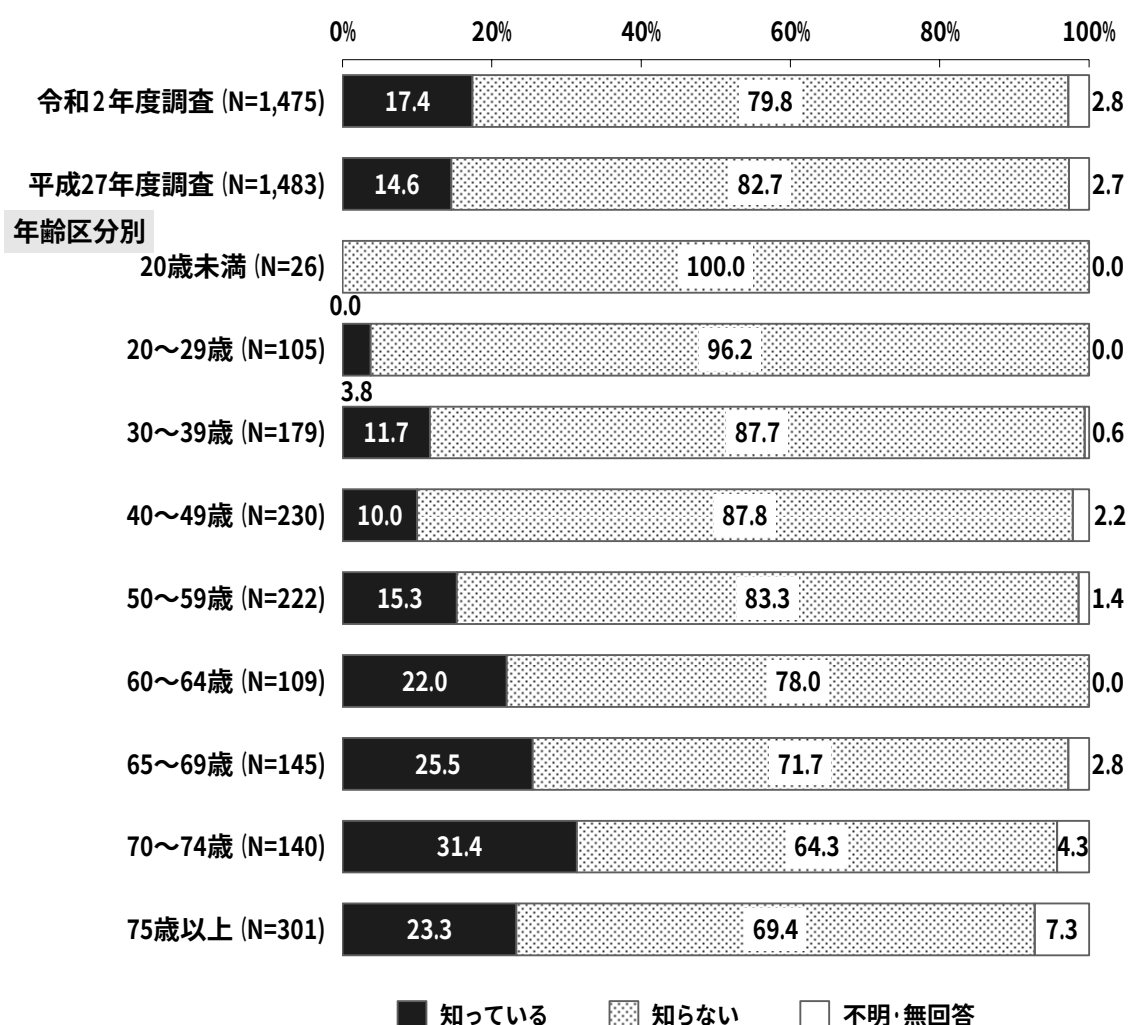
5 災害時の支援について

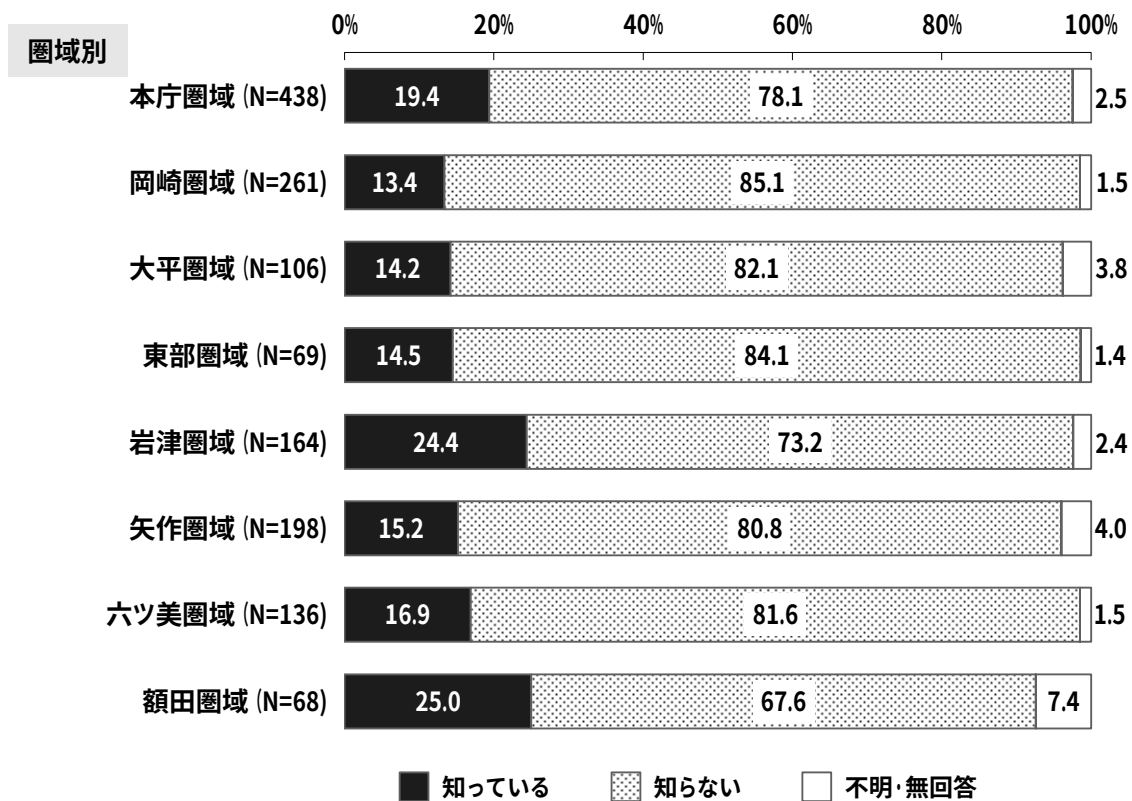
問 28 あなたは、岡崎市の制度で、災害時避難行動要支援者支援制度があるのを知っていますか。(どちらかに○)

令和2年度調査では全体で「知っている」が17.4%、「知らない」が79.8%となっています。年齢区分別では、年齢が上がるにつれて「知っている」がおおよそ高くなっています。なお、いずれの年代でも「知らない」が、6割を超えています。

圏域別では、岩津及び額田の各圏域で、「知っている」が2割を超えて高くなっています。

経年で比較すると、「知らない」が令和2年度調査に79.8%と、平成27年度調査と比べて2.9ポイント低くなっています。





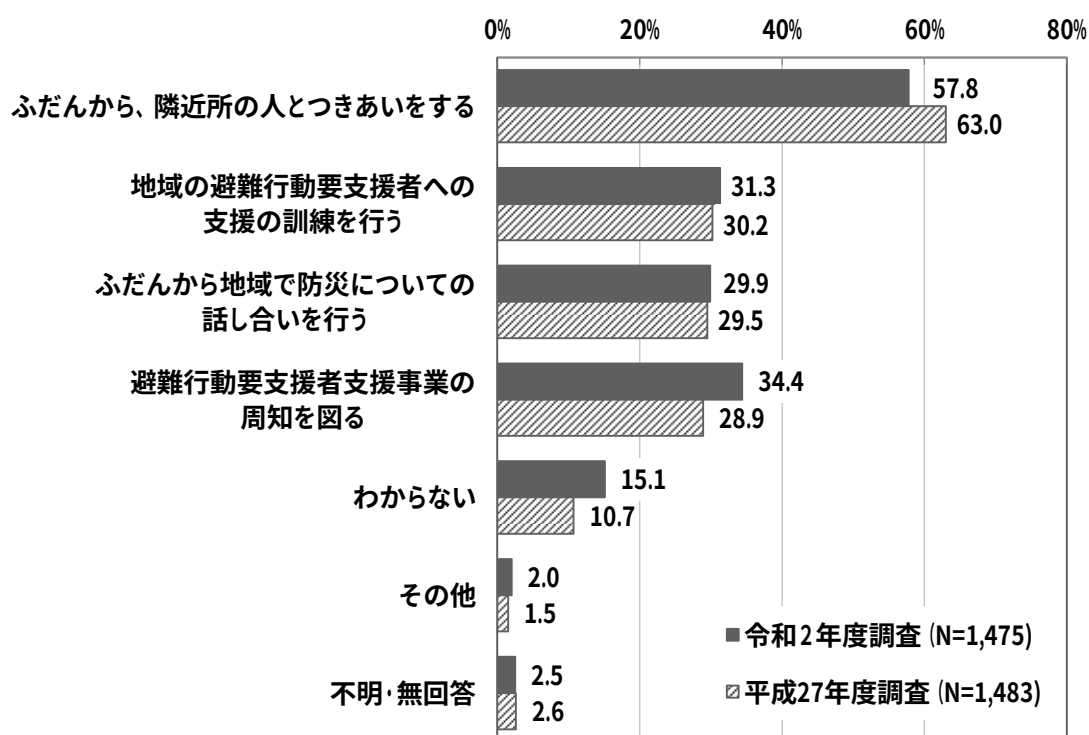
問 29 高齢者だけの世帯や障がいのある人のいる世帯（以下、「避難行動要支援者」といいます）などは災害時にさまざまな支援が必要です。どのようにすれば、災害時に支援ができると思いますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和2年度調査では、全体で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が57.8%と最も高く、次いで「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が34.4%、「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が31.3%となっています。

年齢区分別では、50～59歳で「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、額田圏域で「ふだんから、隣近所の人とつきあいをする」が、矢作圏域で「地域の避難行動要支援者への支援の訓練を行う」が、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「避難行動要支援者支援事業の周知を図る」が令和2年度調査に34.4%と、平成27年度調査と比べて5.5ポイント高くなっています。



■クロス集計集

(単位：％)

区分		ふだんから、隣近所の人とつきあいを する	地域の避難行動要支援者 への支援の訓練を行う	ふだんから地域で防災 についての話し合いを行う	避難行動要支援者支援事業 の周知を図る	わからない	その他	不明・無回答
年齢区 分別	20 歳未満 (N=26)	46.2	34.6	7.7	50.0	15.4	0.0	0.0
	20～29 歳 (N=105)	52.4	34.3	25.7	38.1	18.1	3.8	0.0
	30～39 歳 (N=179)	57.0	34.1	29.6	37.4	15.1	2.2	1.7
	40～49 歳 (N=230)	50.9	31.7	23.5	38.7	15.2	3.5	1.3
	50～59 歳 (N=222)	55.9	40.5	33.3	39.2	12.6	2.3	0.9
	60～64 歳 (N=109)	57.8	34.9	34.9	40.4	9.2	1.8	0.9
	65～69 歳 (N=145)	69.0	31.7	31.7	34.5	9.0	2.1	2.1
	70～74 歳 (N=140)	67.1	32.9	32.1	33.6	15.7	0.0	2.1
	75 歳以上 (N=301)	58.1	19.9	31.2	21.3	20.3	1.3	7.0
圏域 別	本庁圏域 (N=438)	56.6	28.5	25.3	34.0	15.5	2.5	2.5
	岡崎圏域 (N=261)	60.5	34.5	36.0	34.5	13.8	1.9	1.5
	大平圏域 (N=106)	56.6	26.4	38.7	30.2	12.3	1.9	2.8
	東部圏域 (N=69)	52.2	17.4	26.1	30.4	23.2	0.0	5.8
	岩津圏域 (N=164)	61.6	32.9	25.6	34.1	16.5	1.2	2.4
	矢作圏域 (N=198)	59.6	39.9	28.8	35.9	11.6	2.0	3.5
	六ツ美圏域 (N=136)	52.9	33.1	31.6	39.0	14.7	2.9	1.5
	額田圏域 (N=68)	67.6	29.4	38.2	32.4	16.2	0.0	0.0

6 社会福祉協議会について

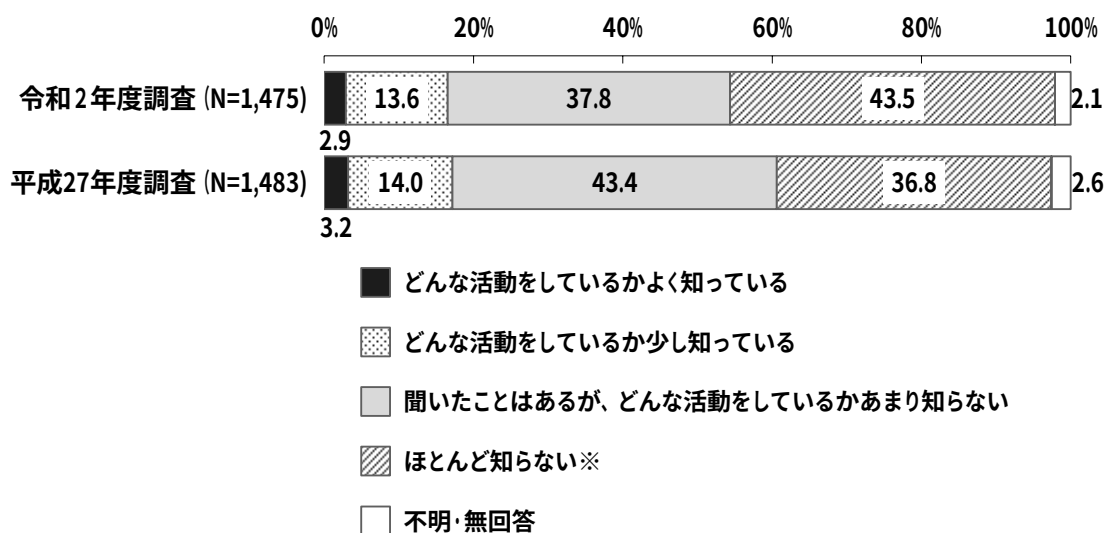
問 30 岡崎市社会福祉協議会を知っていますか。(1つの番号に○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『知っている』 …「どんな活動をしているかよく知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」の合算
『知らない』 …「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかあまり知らない」と「ほとんど知らない」の合算

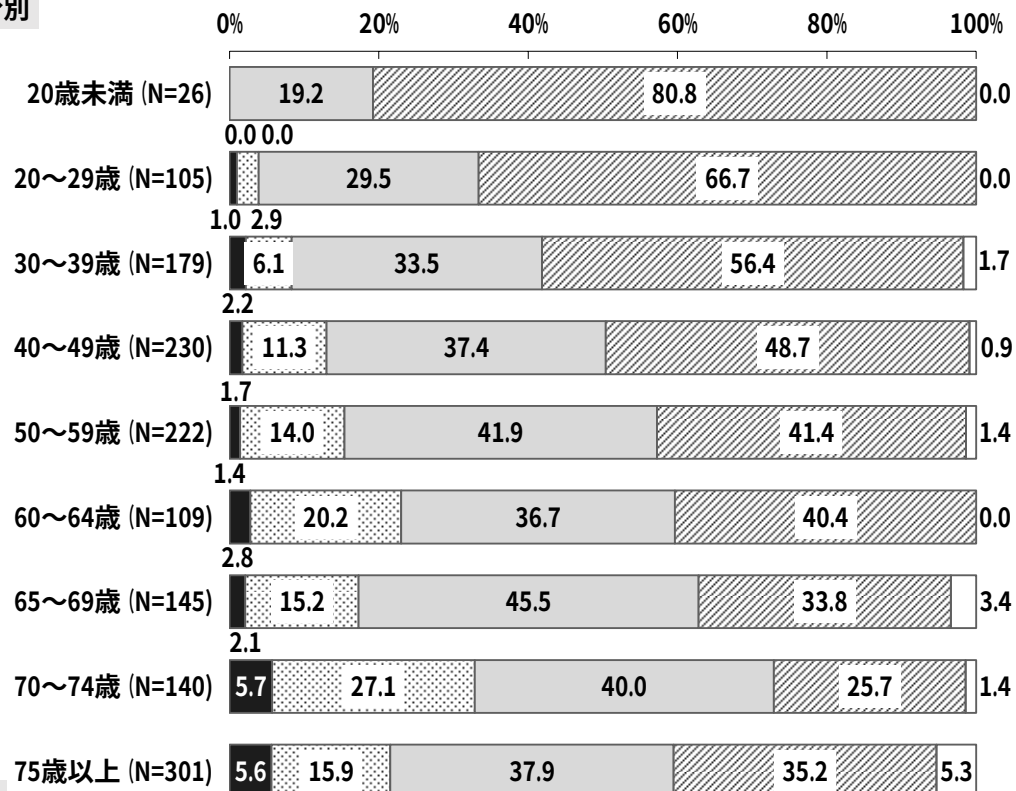
令和2年度調査では、全体で『知っている』16.5%、『知らない』81.3%となっています。
年齢区分別では、70～74歳で『知っている』が32.8%と、他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、額田圏域で『知っている』が29.5%と、他の圏域と比べて高くなっています。
経年で比較すると、『知らない』が令和2年度調査に81.3%と、平成27年度調査と比べて1.1ポイント高くなっています。

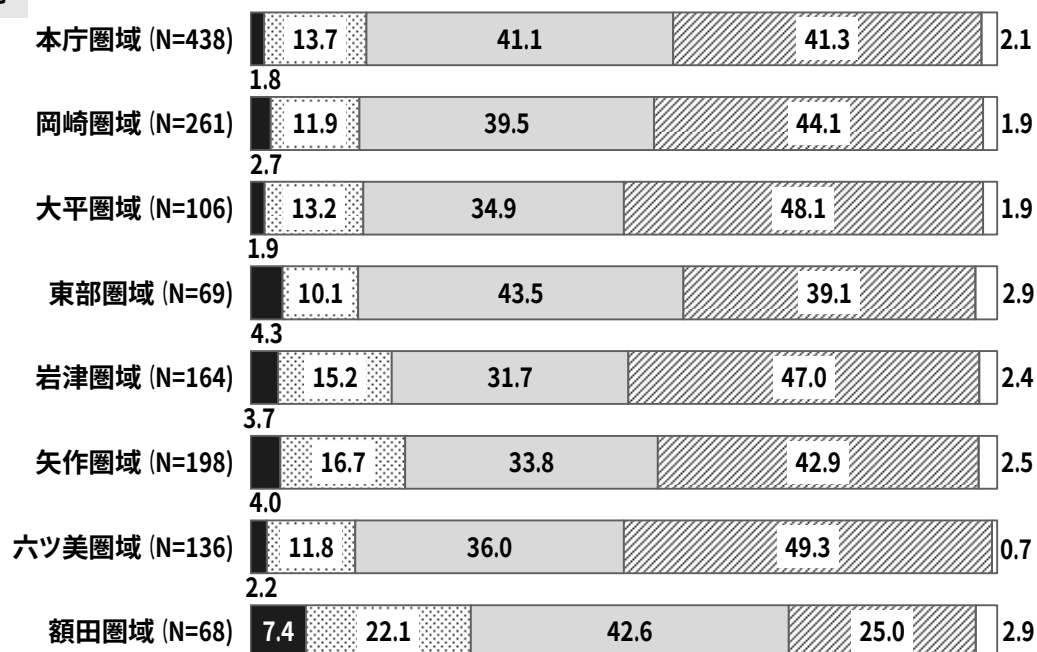


※選択肢について、令和2年度調査は「ほとんど知らない」となっていますが、平成27年度調査は「まったく知らない」です。

年齢区分別



圏域別



■ どんな活動をしているかよく知っている

▨ どんな活動をしているか少し知っている

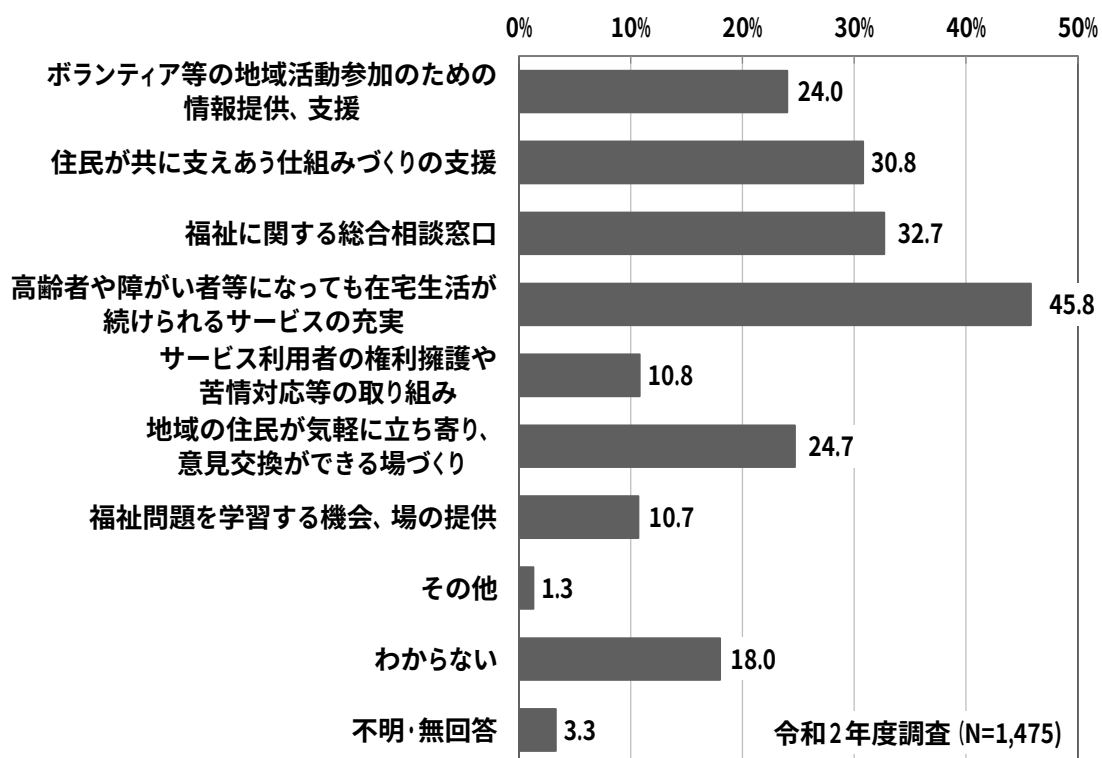
■ 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかあまり知らない

▨ ほとんど知らない

□ 不明・無回答

問 31 今後、岡崎市社会福祉協議会に期待することはどんなことですか。
(3つまでの番号に○)

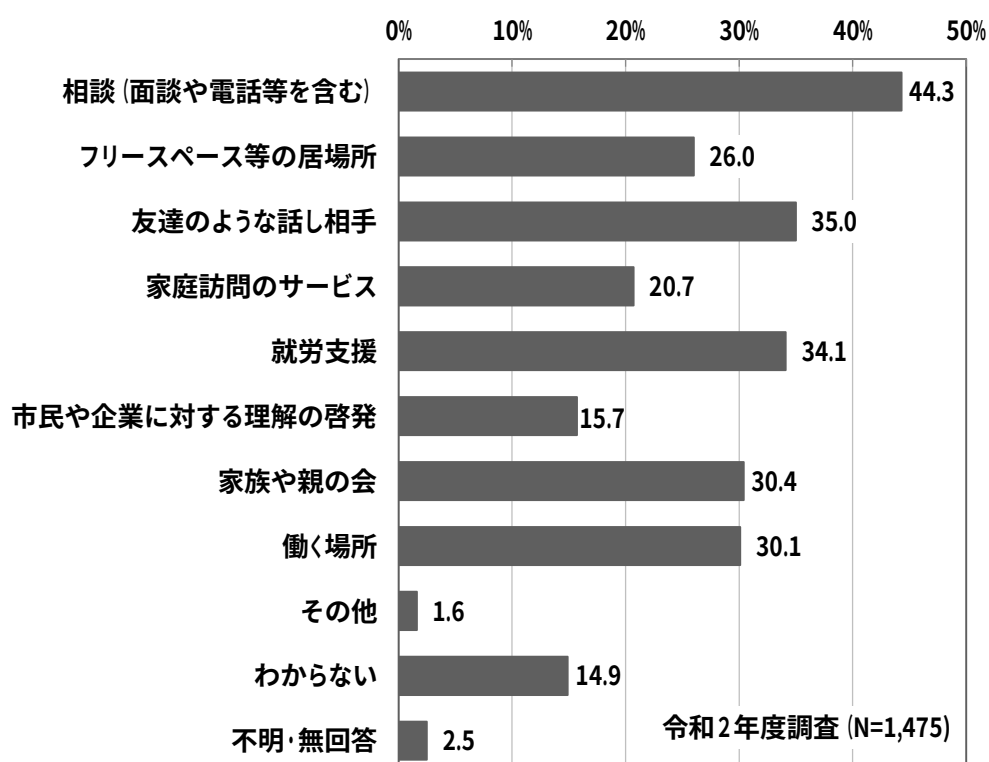
令和2年度調査では、全体で「高齢者や障がい者等になっても在宅生活が続けられるサービスの充実」が45.8%と最も高く、次いで「福祉に関する総合相談窓口」が32.7%、「住民が共に支えあう仕組みづくりの支援」が30.8%となっています。



7 近年の福祉課題について

問 32 いわゆる、ひきこもりの方を支援するためどのような施策が重要だと思いますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和2年度調査では、全体で「相談（面談や電話等を含む）」が 44.3%と最も高く、次いで「友達のような話し相手」が 35.0%、「就労支援」が 34.1%となっています。

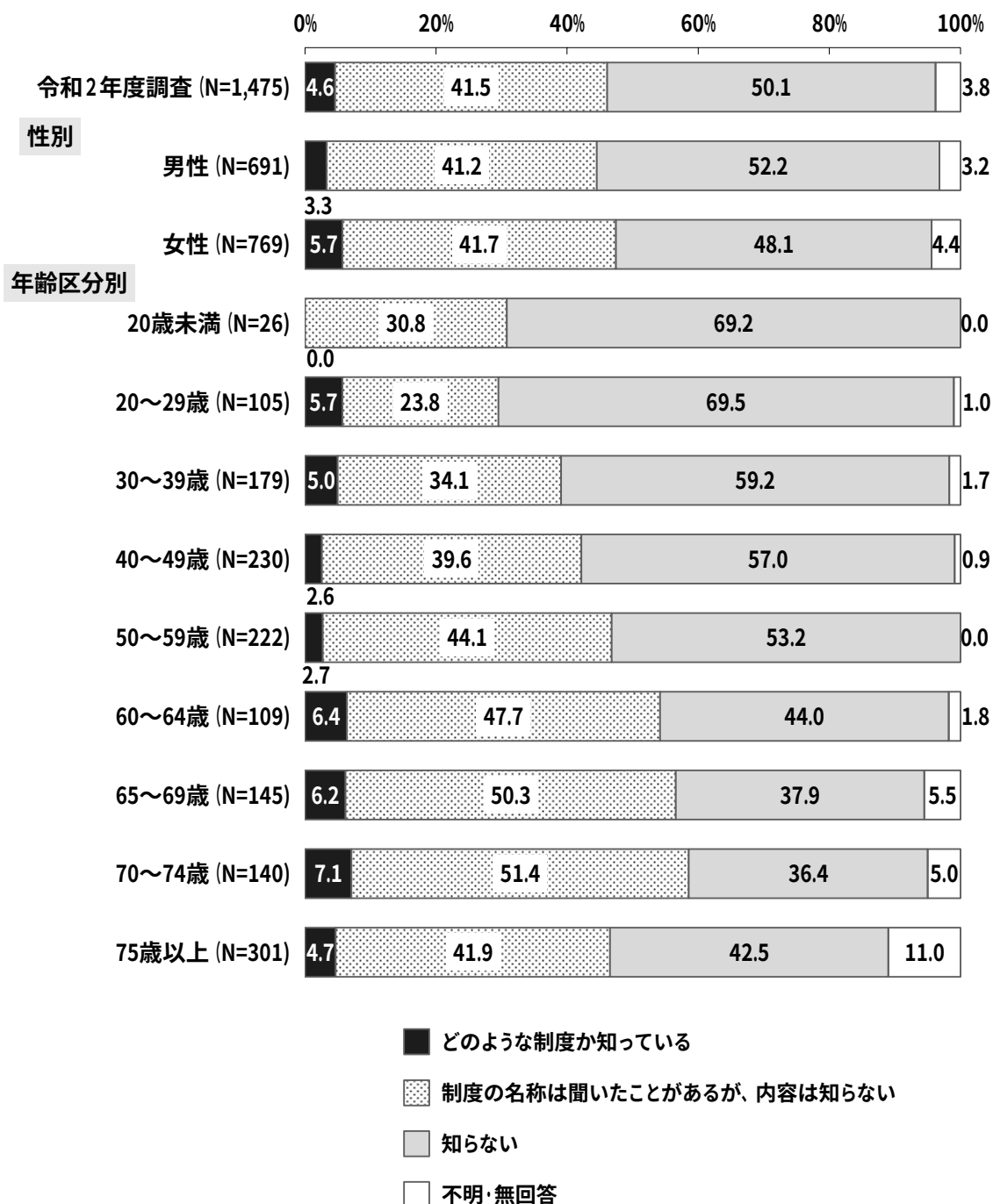


問 33 あなたは、生活困窮者自立支援制度を知っていますか。（1つの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「どのような制度か知っている」が4.6%、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が41.5%、「知らない」が50.1%となっています。

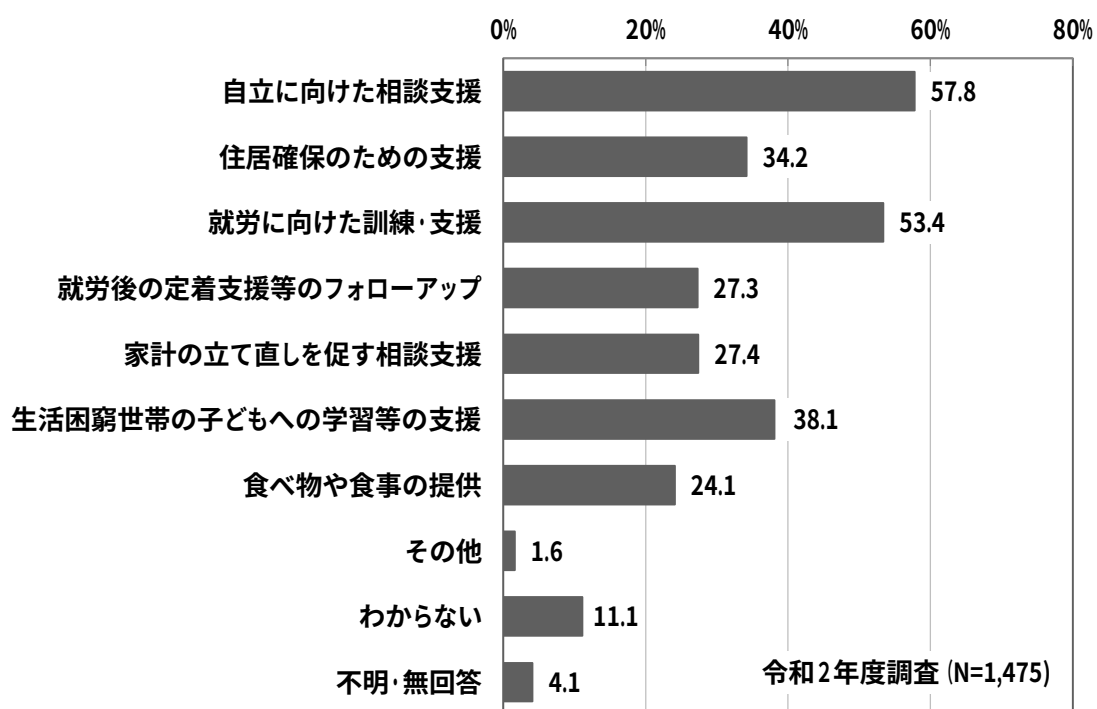
性別では、男性で「知らない」が52.2%と、女性と比べて4.1ポイント高くなっています。

年齢区分別では、70～74歳で「どのような制度か知っている」が、他の年代と比べて高くなっています。なお、20歳未満及び20～29歳で「知らない」が6割を超えています。



問 34 生活困窮者を支援するためにどのような施策が重要だと思いますか。
(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「自立に向けた相談支援」が57.8%と最も高く、次いで「就労に向けた訓練・支援」が53.4%、「生活困窮世帯の子どもへの学習等の支援」が38.1%となっています。

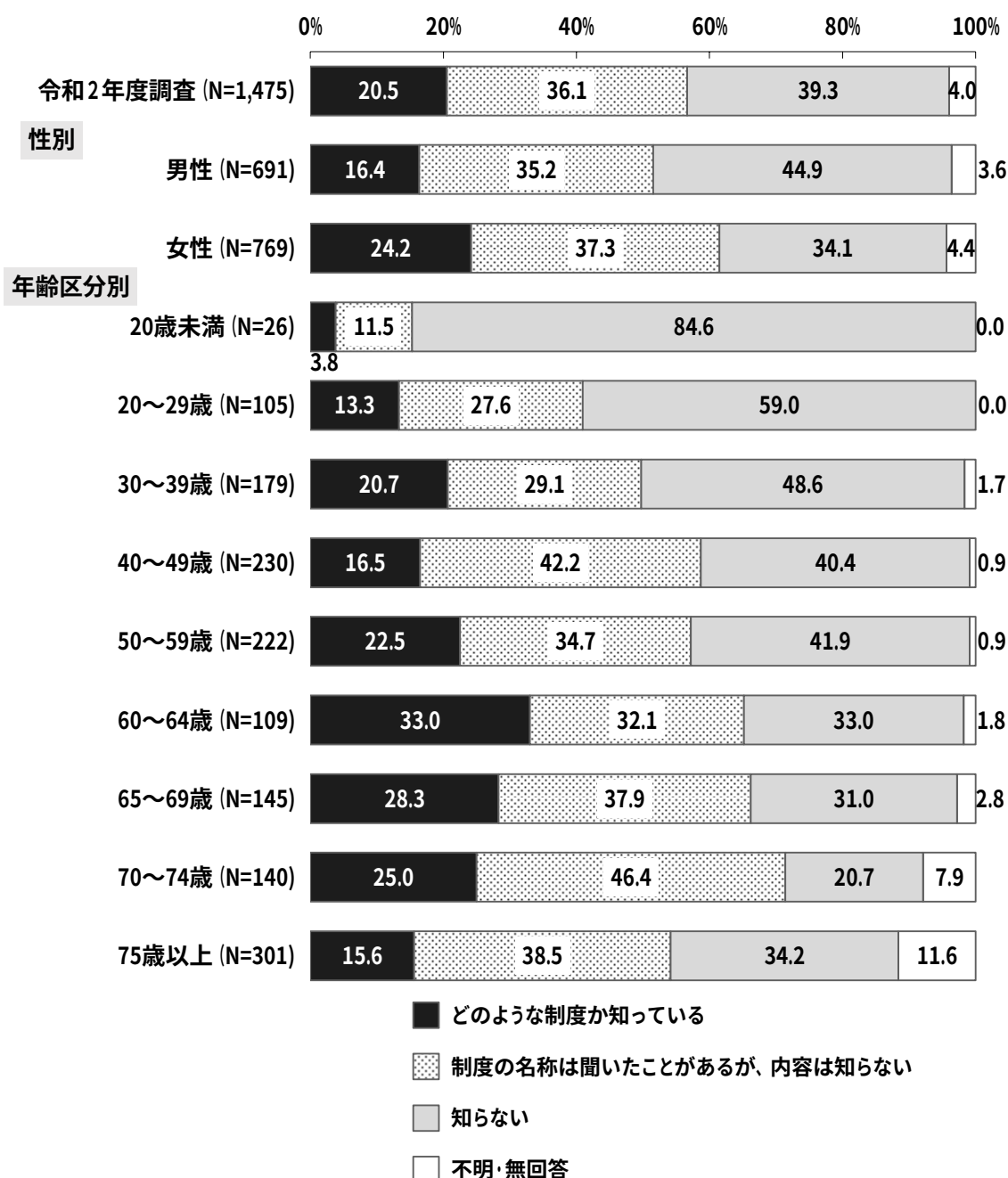


問 35 判断能力が不十分な高齢者や障がいのある人の権利を守る「成年後見制度」についておたずねします。あなたは、成年後見制度を知っていますか。（1つの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「どのような制度か知っている」が20.5%、「制度の名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」が36.1%、「知らない」が39.3%となっています。

性別では、男性で「知らない」が44.9%と、女性と比べて10.8ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20歳未満で「知らない」が、60～64歳で「どのような制度か知っている」が、他の年代と比べてそれぞれ高くなっています。



<問 35 で「1.どのような制度知っている」と回答した方に伺います>

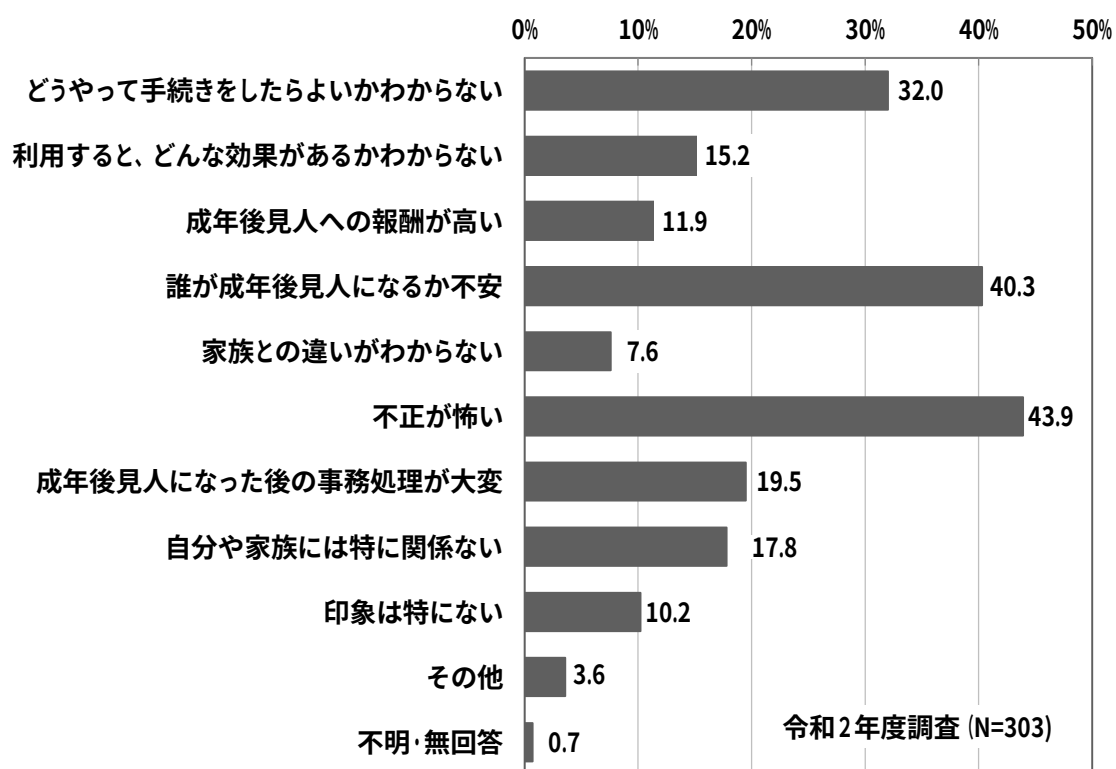
問 35－1 成年後見制度について、どのような印象を持っていますか。

(あてはまるすべての番号に○)

令和2年度調査では、全体で「不正が怖い」が43.9%と最も高く、次いで「誰が成年後見人になるか不安」が40.3%、「どうやって手続きをしたらよいかわからない」が32.0%となっています。

性別では、女性で「自分や家族には特に関係ない」が20.4%と、男性と比べて6.2ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20～29歳で「印象は特にない」が、70～74歳で「自分や家族には特に関係ない」が、他の年代と比べてそれぞれ高くなっています。なお、50～59歳及び75歳以上で「どうやって手続きをしたらよいかわからない」が4割を超えています。



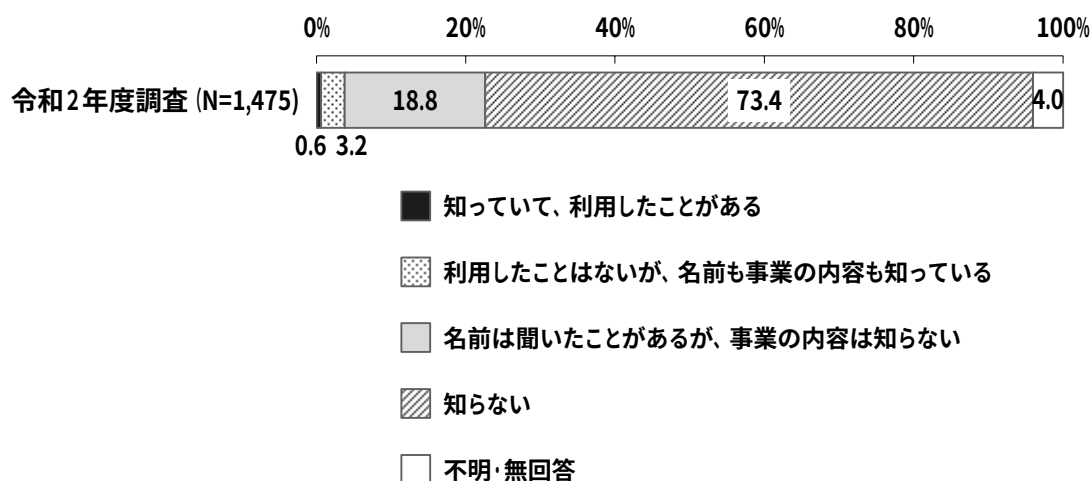
■クロス集計集

(単位：%)

区分		どうやって手続きをしたらよいかわからない	利用すると、どんな効果があるかわからない	成年後見人への報酬が高い	誰が成年後見人になるか不安	家族との違いがわからない	不正が怖い	成年後見人になった後の事務処理が大変	自分や家族には特に関係ない	印象は特にない	その他	不明・無回答
性別	男性 (N=113)	30.1	15.9	10.6	42.5	6.2	45.1	20.4	14.2	9.7	4.4	0.9
	女性 (N=186)	33.3	14.5	12.4	39.2	8.6	43.5	18.3	20.4	10.8	3.2	0.5
年齢区分別	20歳未満 (N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 (N=14)	14.3	0.0	0.0	21.4	0.0	14.3	7.1	7.1	42.9	7.1	0.0
	30～39歳 (N=37)	29.7	18.9	13.5	32.4	5.4	37.8	24.3	16.2	13.5	5.4	0.0
	40～49歳 (N=38)	21.1	13.2	10.5	39.5	5.3	50.0	10.5	5.3	23.7	2.6	0.0
	50～59歳 (N=50)	44.0	14.0	6.0	46.0	8.0	40.0	20.0	18.0	4.0	6.0	0.0
	60～64歳 (N=36)	27.8	8.3	19.4	58.3	8.3	69.4	30.6	13.9	2.8	0.0	0.0
	65～69歳 (N=41)	36.6	14.6	17.1	48.8	7.3	53.7	19.5	19.5	7.3	4.9	0.0
	70～74歳 (N=35)	25.7	17.1	8.6	31.4	17.1	37.1	14.3	31.4	8.6	0.0	2.9
	75歳以上 (N=47)	40.4	23.4	12.8	34.0	6.4	36.2	17.0	25.5	4.3	4.3	2.1

問 36 岡崎市では、市民の成年後見制度の利用に関する支援を行うために、「成年後見支援センター」を設置しています。あなたは、「成年後見支援センター」を知っていますか。（1つの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「知らない」が73.4%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、事業の内容は知らない」が18.8%、「利用したことはないが、名前も事業の内容も知っている」が3.2%となっています。

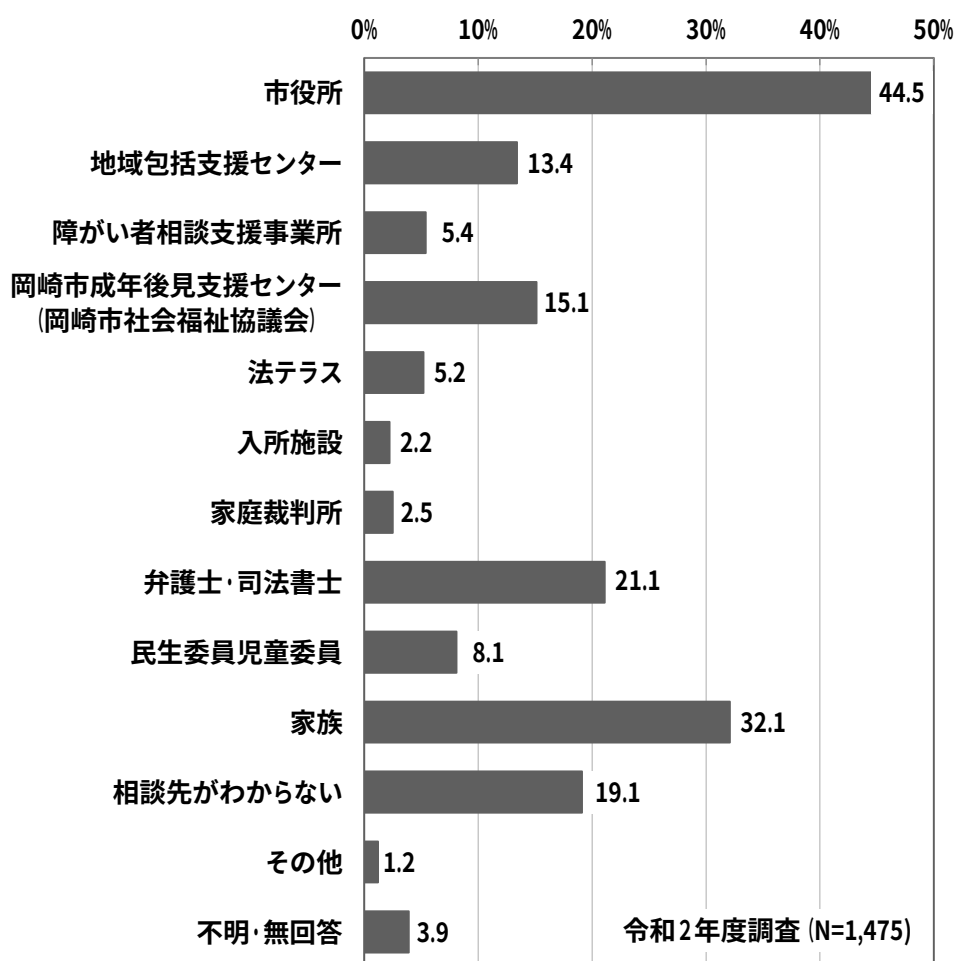


問 37 あなたの周りで財産の管理や契約等について、自分ひとりで判断することが難しい方がいた場合、どこに相談しますか。もしくは相談するよう伝えますか。（あてはまるすべての番号に○）

令和2年度調査では、全体で「市役所」が44.5%と最も高く、次いで「家族」が32.1%、「弁護士・司法書士」が21.1%となっています。

性別では、男性で「弁護士・司法書士」が25.2%と、女性と比べて8.0ポイント高くなっています。一方、女性は「家族」が35.6%と、男性と比べて7.2ポイント高くなっています。

年齢区分別では、20～29歳で「相談先がわからない」が、70～74歳で「地域包括支援センター」が、他の年代と比べてそれぞれ高くなっています。



■クロス集計集

(単位：%)

区分		市役所	地域包括支援センター	障がい者相談支援事業所	岡崎市成年後見支援センター (岡崎市社会福祉協議会)	法テラス	入所施設	家庭裁判所	弁護士・司法書士	民生委員児童委員	家族	相談先がわからない	その他	不明・無回答
性別	男性 (N=691)	43.7	11.1	5.6	13.3	6.4	1.4	2.3	25.2	8.0	28.4	22.3	1.9	3.5
	女性 (N=769)	45.1	15.3	5.1	16.6	4.2	2.9	2.7	17.2	8.3	35.6	16.4	0.5	4.3
年齢区分別	20歳未満 (N=26)	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.2	0.0	50.0	26.9	0.0	0.0
	20～29歳 (N=105)	34.3	8.6	3.8	13.3	1.0	2.9	3.8	13.3	1.0	41.9	30.5	2.9	0.0
	30～39歳 (N=179)	46.9	9.5	5.6	11.2	7.3	1.1	1.1	23.5	4.5	35.2	22.3	1.7	2.2
	40～49歳 (N=230)	46.1	8.3	4.3	7.4	5.7	2.2	0.0	25.7	2.2	28.7	25.2	2.2	0.9
	50～59歳 (N=222)	55.4	12.6	5.9	14.9	7.7	2.3	1.4	23.0	6.8	24.8	24.3	1.4	0.0
	60～64歳 (N=109)	49.5	18.3	9.2	22.9	11.9	4.6	7.3	25.7	13.8	21.1	10.1	0.0	3.7
	65～69歳 (N=145)	45.5	17.9	6.2	22.1	6.2	3.4	3.4	28.3	11.7	26.2	15.9	1.4	3.4
	70～74歳 (N=140)	42.1	23.6	7.1	27.1	2.9	1.4	3.6	19.3	17.9	32.1	10.7	0.0	5.7
	75歳以上 (N=301)	37.9	14.3	4.0	13.6	2.0	1.7	3.3	12.6	11.0	40.5	13.0	0.3	11.3

8 地域福祉全般について

問 38 あなたは、学区福祉委員会を知っていますか。（1つの番号に○）

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

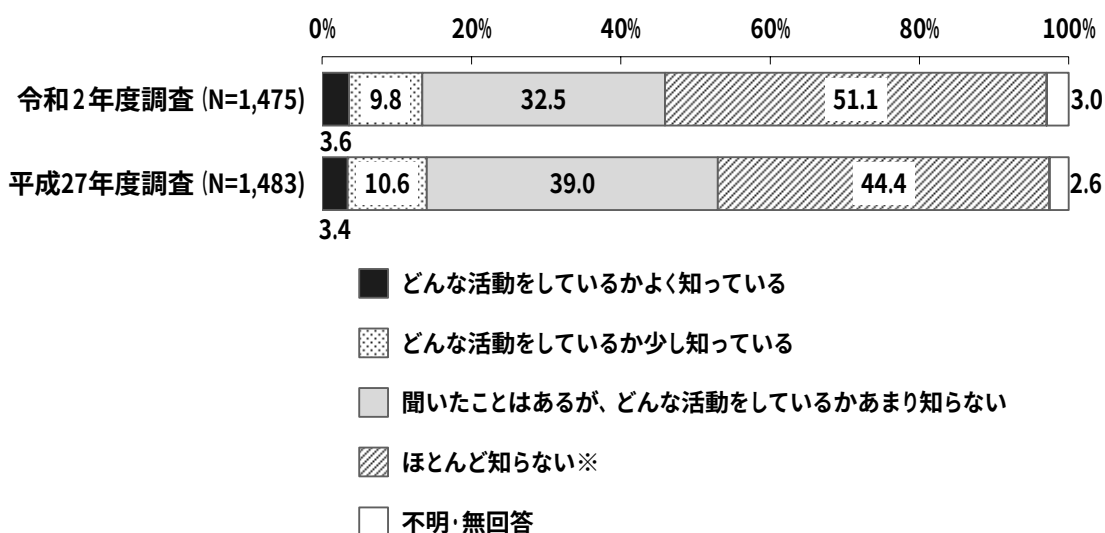
『知っている』 …「どんな活動をしているかよく知っている」と「どんな活動をしているか少し知っている」の合算
『知らない』 …「聞いたことはあるが、どんな活動をしているかあまり知らない」と「ほとんど知らない」の合算

令和2年度調査では、全体で『知っている』が13.4%、『知らない』が83.6%となっています。

年齢区分別では、70～74歳及び75歳以上で『知っている』が、2割を超えています。なお、いずれの年代でも『知らない』が7割を超えています。

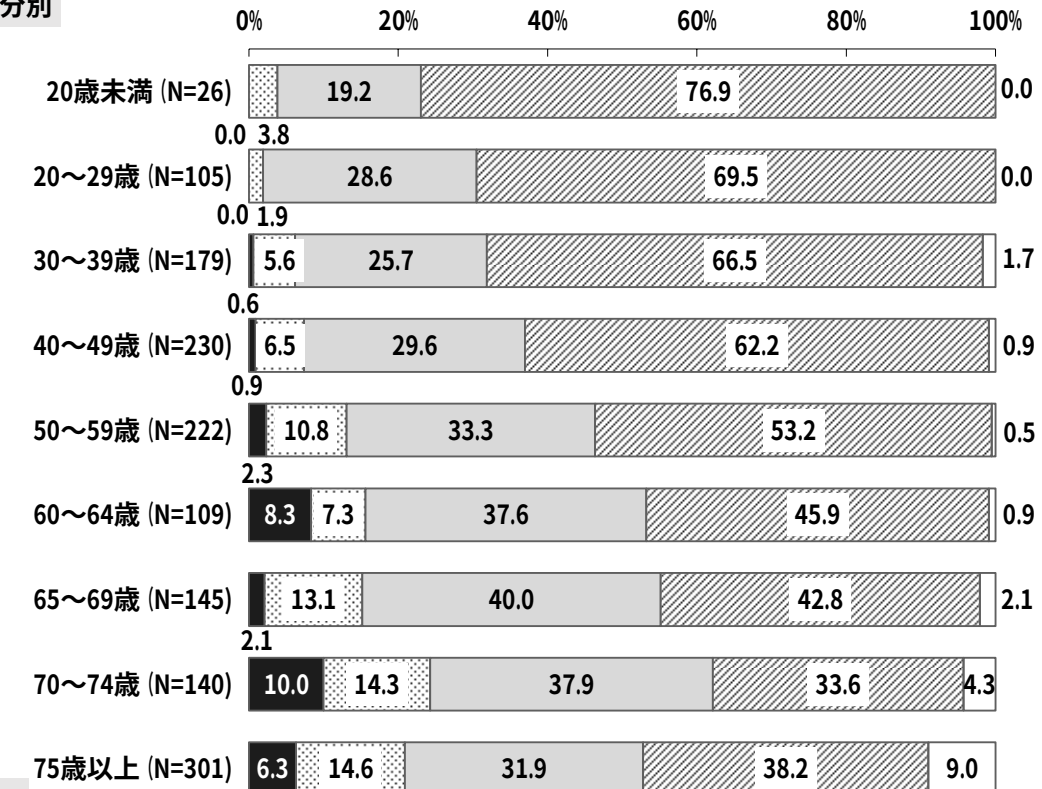
圏域別では、額田圏域で『知っている』が30.9%と、他の圏域と比べて高くなっています。

経年で比較すると、「ほとんど知らない」が令和2年度調査に51.1%と、平成27年度調査と比べて6.7ポイント高くなっています。

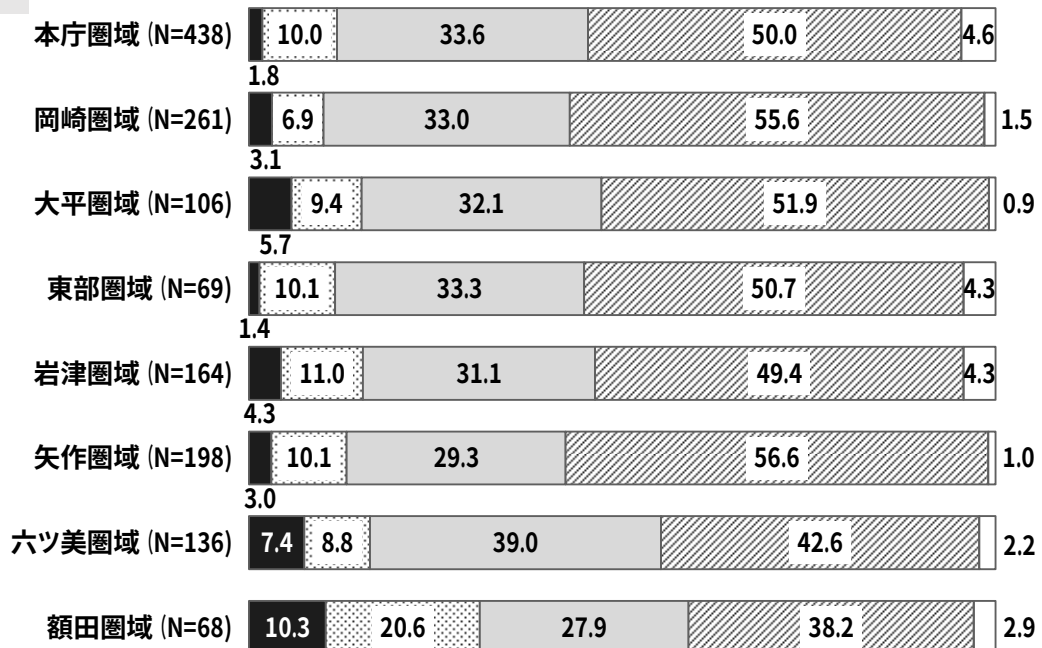


※選択肢について、令和2年度調査は「ほとんど知らない」となっていますが、平成27年度調査は「まったく知らない」です。

年齢区分別



圏域別



■ どんな活動をしているかよく知っている

▨ どんな活動をしているか少し知っている

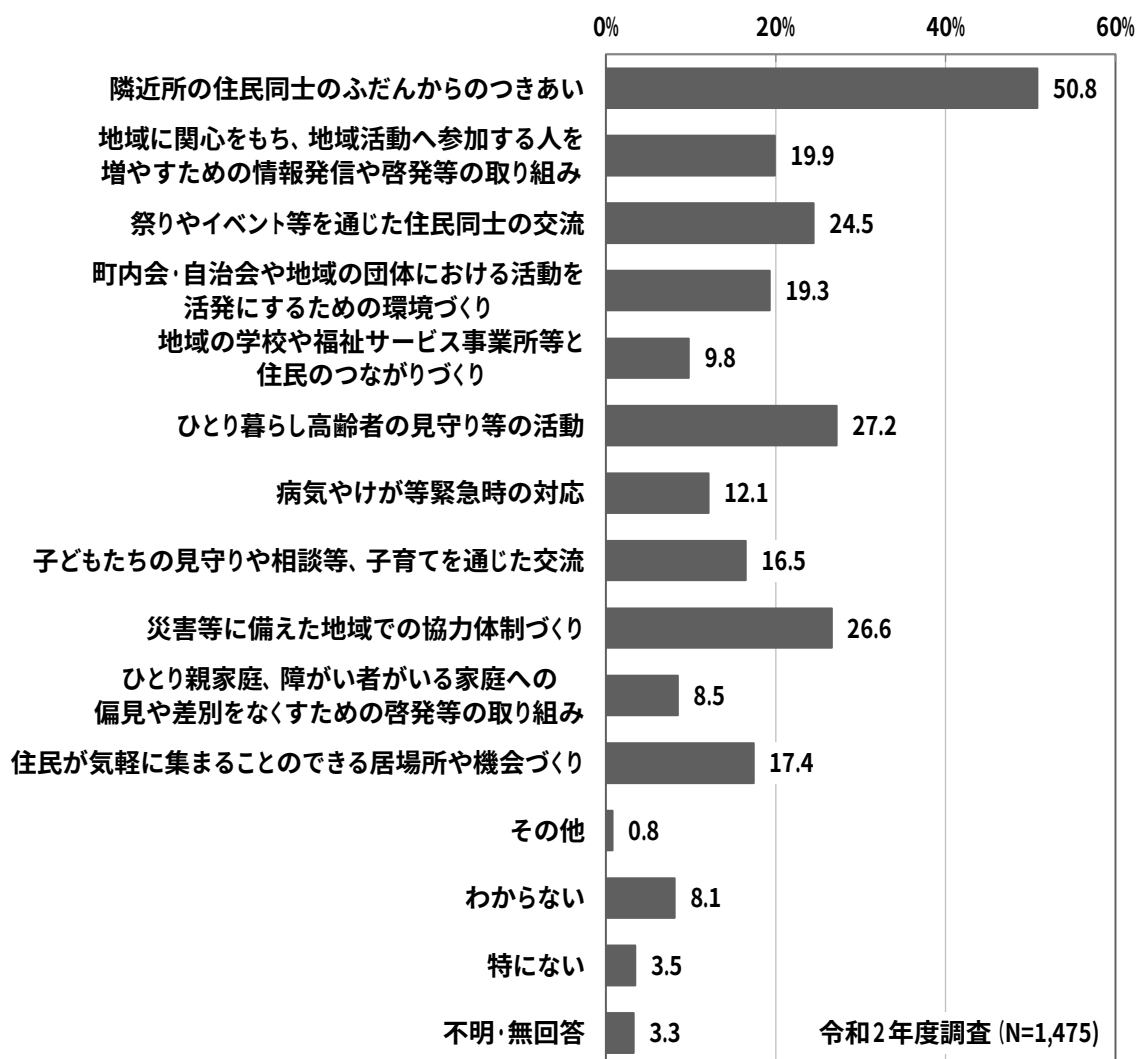
□ 聞いたことはあるが、どんな活動をしているかあまり知らない

▨ ほとんど知らない

□ 不明・無回答

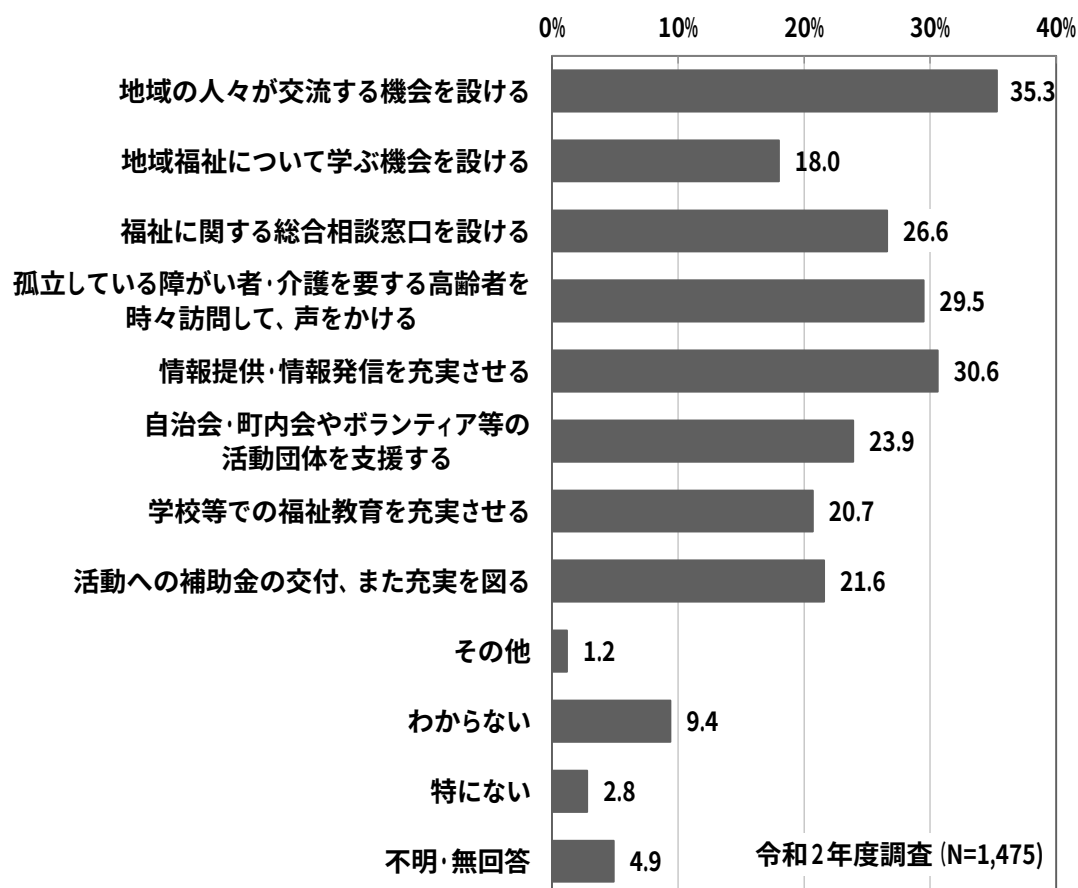
問 39 地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後地域としてどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(3つまでの番号に○)

令和2年度調査では、全体で「隣近所の住民同士のふだんからのつきあい」が50.8%と最も高く、次いで「ひとり暮らし高齢者の見守り等の活動」が27.2%、「災害等に備えた地域での協力体制づくり」が26.6%となっています。



問 40 地域に住む人同士が助け合い、支え合える地域づくりのために、今後、市ではどのような支援を行う必要があると思いますか。（3つまでの番号に○）

令和2年度調査では、全体で「地域の人々が交流する機会を設ける」が 35.3%と最も高く、次いで「情報提供・情報発信を充実させる」が 30.6%、「孤立している障がい者・介護を要する高齢者を時々訪問して、声をかける」が 29.5%となっています。



問 41 あなたは、今の生活に満足していますか。(あてはまるすべての番号に○)

本設問の選択肢は、以下のとおり合算して表記しています。

『満足している』 …『満足している』と『どちらかといえば満足している』の合算

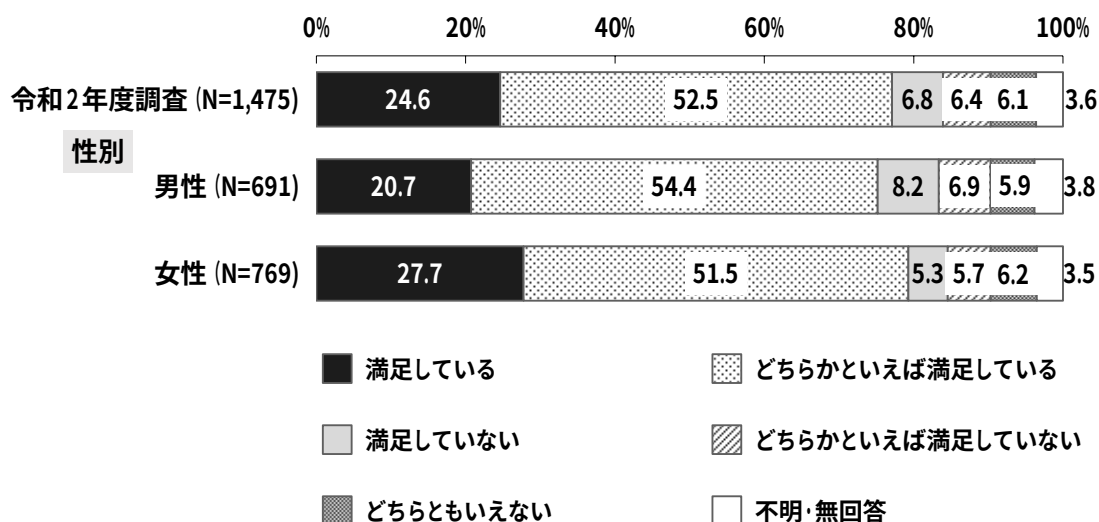
『満足していない』 …『満足していない』と『どちらかといえば満足していない』の合算

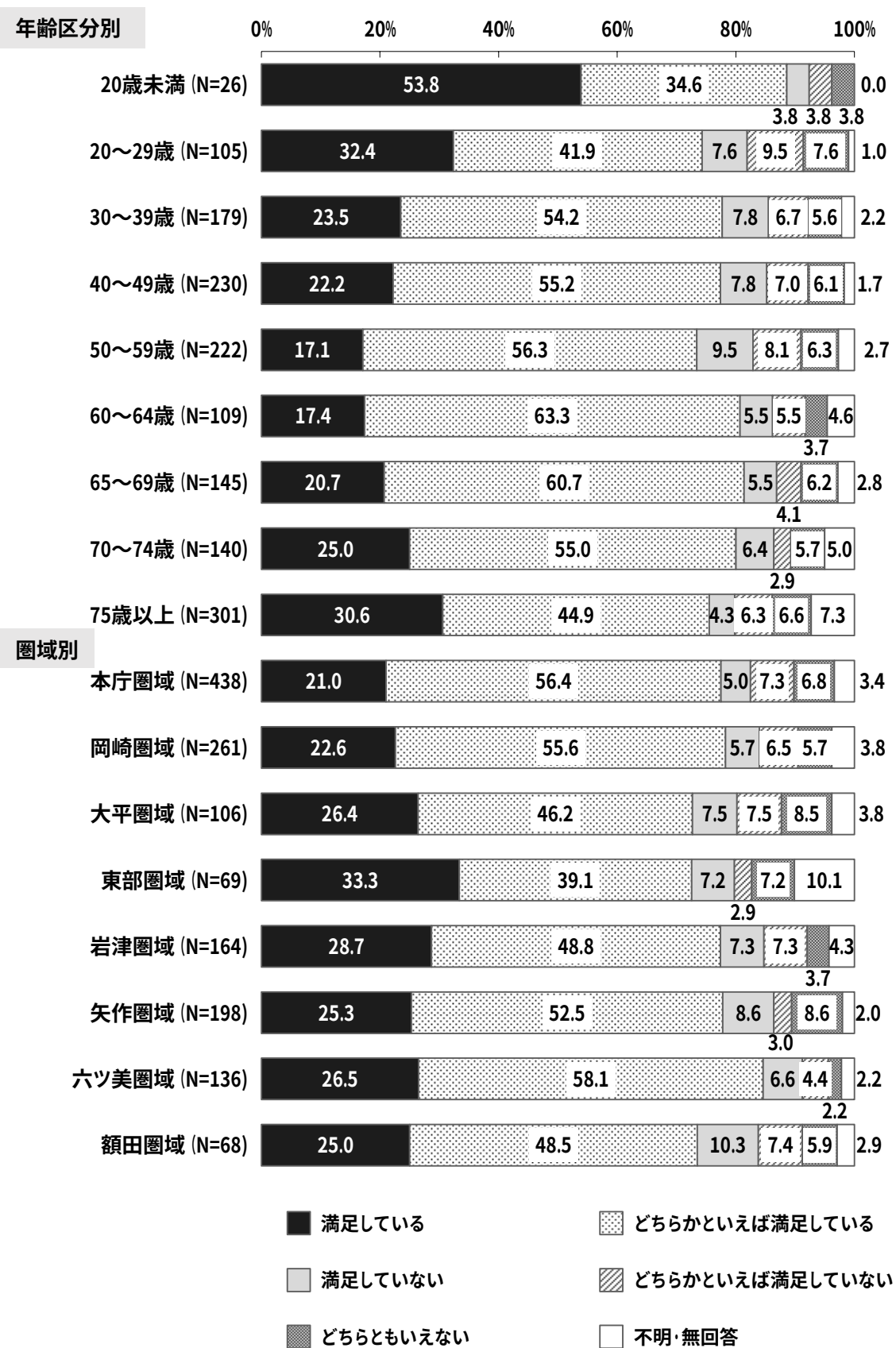
令和2年度調査では、全体で『満足している』が77.1%、『満足していない』が13.2%、「どちらともいえない」が6.1%となっています。

性別では、女性で『満足している』が79.2%と、男性と比べて4.1ポイント高くなっています。

年齢区分別では、いずれの年代でも『満足している』が、7割を超えています。なお、50～59歳で『満足していない』が、17.6%と他の年代と比べて高くなっています。

圏域別では、六ツ美圏域で『満足している』が84.6%と、他の圏域と比べて高くなっています。





IV. 自由意見

福祉全般についてご意見・ご要望がございましたらご自由にお書きください。

年代	自由意見
本庁圏域	
20 歳未満	現在私は大学生なのですが小中高と岡崎市の地域福祉について深く学んだことはありませんでした。岡崎市の地域福祉に対する知識を深めるために福祉の授業をもっと取り入れるべきだと思います。岡崎市教育委員会の方々を中心としてこの活動をより活発にしていただけると幸いです。
20～29 歳	福祉＝ボランティア＝対価はいらない(なくてよい)という考え方が根強くあることが、こうした活動の発展を遅くさせていると感じています。自分以外の人のために働くのだから、それに見合った対価をもらうことができれば、多くの人が参加していくことは難しいだろうと思います。このような福祉に対して対価を求めることに不満であったり、そんなものを求める人に福祉はできないということを言う人がいるように感じるが、人の思いやりや、やりがいなどの善意に対して何かを返し、敬意を持つことができるようにしなければならないと思います。市政に求めるのは、福祉に従事される方々への対価をきちんと準備をし、働く善意を大切にできるように財源の確保や市民への意識改革に取り組んでいただきたいと思います。
20～29 歳	岡崎城付近にホームレスらしき方が数名います。その方へ社会復帰できるよう支援をして、安全安心できる地域にしてもらいたいです。
20～29 歳	学生から社会人になって近所の方々の交流はゼロに等しくなりました。自分自身が忙しくなってしまうと関わりに行けないというのがあると思いますが、顔を出さなくても周りにいる近所の方々の生存など確認できればいいなと考えているので、回覧板で一言コメントする欄など作っていただけたらなと思いました。遅くなってしまう申し訳ございませんでした。
20～29 歳	今回のアンケートだけでも知らないことが多くあったと感じた。今1歳の子を育てているので子育てに関係する情報は市からもらった冊子などで知ることができるが、お年寄りのいる家庭、障がいのある人がいる家庭、生活困窮家庭に役立つ情報・制度などはまったくと言っていいほど知らないし理解していない。しかし自分自身がそういう立場になるかわからないし知らないせいで助けになれないのは申し訳ないと思う。「福祉のしおり」みたいないろいろな立場の人に向けた冊子が1冊あれば他の家庭の困りことにも関心が持てるし、いざという時予備知識になるのでよいのではないかなと思う。
20～29 歳	地域住民と関わるメリットが少ない。ネットで気の合う人とのつきあいや、同期との関わりの方ばかりになっているため、地域住民と関わる時間がない。なにより、仕事で毎日が終わるため、夜友達と通話するぐらい。家族とも話す時間がかなりない。
20～29 歳	富山の大学に通っており長期期間のため帰省してきた者なので最近の岡崎のことがよくわからないのでそこを考慮してください。
30～39 歳	自分が子どもの頃、子ども会での集いが楽しかった思い出があるため、自分の子どもにもそのような思い出を作らせてあげたいと思います。
30～39 歳	大規模災害が予想されているので対応できるように地域で取り組んでほしい。
30～39 歳	元々名古屋に住んでいたのですが、そこでは車がなくても生活できました。しかし岡崎は車がないと生活できません（岡崎に引っ越すときに代理店の方にも言われました）。今後車が運転できなくなった時にどうやって生活したらいいか少し不安があります。まだ、詳しく調べたわけではないのですが、バスの本数を増やしたり値段を下げるなどしてもらえたら不安が解消されるのでは。と思います。

年代	自由意見
30～39 歳	人が集まれる機会を増やしてほしい（コロナで難しいが…）。お祭りやイベントを事後知ることが多々ある。もっと告知をしてほしい。
30～39 歳	地域住民一人ひとりが福祉に対するアンテナを高めるとともに、支援を受ける側も出来る限り声を上げてほしいです。助けてあげたいと考えている人は多いと思いますので、いかに結び付けるのか検討が必要と思います。地域の情報は市政日より、回覧板がほとんどなので、これらを充実させるとともに、地域の会議体でも議論するための支援を行っていただきたいです。（各地で考えてくださいでは何も進まない）また、岡崎市のホームページからも様々な情報を載せていただいているとは思いますが、どこに何の情報があるのか非常にわかり辛いので、一新していただきたいと考えています。
30～39 歳	地域の困りごと、家庭での困りごとを吸い上げられるように、スマホ及び郵送での意見収集ができる環境を整えること。（デジタルになれない人にも配慮）具体的にできる対応策を開示すること。その際は具体例を多く載せ、イメージをわかせること。地域社会でできることを周知してもらうために、学校や病院、警察等人が集まりやすい場所、子どもが喜びそうな場所で行う。（オカザエモン、武将隊活用等）今後も岡崎ですと暮らしていくので、永遠の課題だと思いますが、できることは協力していきたいので、ご尽力賜りますようお願いいたします。
30～39 歳	岡崎市に引っ越してきて1年程ですが、地域の方とは数名の顔見知りの方がいる程度の関わりです。新しく転入してきた人にも参加しやすく、地域の方と知り合える機会が増えるといいなと感じています。交流する場があってもまったく知り合いがいない場には参加しにくいものです。
30～39 歳	市役所のホームページや案内板等が、図付きでわかりやすいものになればよいと思います。市運営の美術館、学区の交流場所など電話番号だけでなく、利用方法、内部の写真などが載っているとわかりやすくてよいと思います。現状は、電話しないとわからないことが多いので、初めてでもわかりやすい案内があると、利用しやすくなると思います。昔と比べて近隣のつきあいが希薄になっており、何かあった時に頼むということができなくなっています。有料ボランティアでもよいので頼めるところがあると安心です。
30～39 歳	「福祉」と聞くと、高齢者、障がい者、子どもと言うイメージがあり、何となくそれに該当している人しか、相談できない気がしてしまいます。つい最近ケガをしてしまい病院に行かなければならなかったですが、運転できる状態ではなく頼りになるのが主人しかいませんでした。たまたま早く帰って来てくれましたが、いなかったら如何しようかと、はっとさせられました。ご近所との交流もなく、本当に困った時に助けてもらう人がいないと実感もしましたし、困っている人がいれば、やれることは助けたいと思います。福祉＝弱者と言うイメージが強いように感じてしまいますが、誰でも困った時に気軽に話せるコミュニティの場、連絡網等充実してもらえたらと思いました（困っていることは皆それぞれ違うと思うので、くくり分けであてはめれないこともあると思うので）。
40～49 歳	地域住民が共に助けあうと言えども、新しい家が建ち、隣の住民の顔も見ることがない状況で、いざという時に助け合い、支え合うことができるでしょうか。最終的には、行政の支援を仰ぐしか方法はないのではないかと思います。ひとり暮らしの祖母を見送り感じたことは、なかなか思うようにことが進まない！例えば…亡くなって1年程して、入所できる可能性もないのに特養から連絡が来る。疑問に思うことは、知り合い（つて）がいると早く入所できるようだ。（不公平感をなくしてほしい！）今ある民生委員以上にもっとこと細かく相談できる人が地域（町内）にいればいいと思う。プライバシーを守って。本当にひとり身としては、最後の終末に不安を感じます。結局、まとめると「地域」単位ではなく「個々」の問題として乗り切っていくてはいけないのでしょうか…自分のことは自分で！ということでしょう。助けてくれる人は少ないと思います。皆、自分のことで精一杯なのだから…。

年代	自由意見
40～49 歳	地元の人とはとにかく転入者に冷たい。転入者は入りにくいのに町内の役員の話だけは持ってくる。それで「あなたは何もやっていないからやってください」とは…。やったことある方々、何十年も住んでいて、何年も前にやった役員を「自分達はやっている」と言われても…。頭が「田舎」の考えでついていけない。ゴミ当番とかってシルバー人材に頼めばよくないですか。擦り付け合いでまわしているような係や役員。今は合わないと思う。
40～49 歳	L I N E（ライン）による連絡窓口があれば何かあった時にいつでも気付いた時に市役所へ連絡ができる。土日だから、時間外だからという理由で何も言えないのは困る。何時でも誰でもどんな状態でも市役所に連絡が出来る所があるともっと安心できると思う。福祉に限らず行政すべてそういうものがほしい。
40～49 歳	ご近所づきあいを日ごろから行っていれば災害時のときの避難の呼びかけもしやすいと思います。また防犯にも役立つと思います。地域によっては公民館がない町もあります。空き家などをリフォームして市民が誰でも利用できるようなフリースペースを作り、町内ミーティングや福祉の広報チラシを設置すればよいと思います。興味のある人はそこから情報を得るのではないのでしょうか。子どもと一緒にボランティア活動に参加したいですが、参加の仕方がわからずまだ実行できていません。親子で福祉、災害、介護のボランティア活動をしてみたいです。
40～49 歳	自治会が威圧的、強制的であるのが行事に参加する気持ちを逆に削ぐ。改善すべき部分は新しい次世代の意見を取り入れ柔軟に組織を変えていくべきかと思います。地域住民が互いに介入すべきか静観すべきか年配の方にはよく考えていただきたい。
40～49 歳	元々住んでいる人たちのつながりはあるが、新しく越してくるとなかなか関係を築くことができない。自分が越してきたときに組長に近所へのあいさつ等確認したら「必要ない」とそのままにされ、5年目で組長になり少し離れた家庭に伺ったときに「あいさつがなかったからどなたかわからない」と嫌味を言われ未だに良好な関係になれない。自治会への新規参入する家庭との間を取り持つようなしっかりした立場の人を置くべきだと思う（組長任せが困る）。
40～49 歳	誰もが目にできる告知（回覧や掲示板等）。消極的な人でも参加しやすいシステムの構築。SNS等を利用したコミュニティの構築。※一部の人たちだけが積極的に参加を続ける体制の見直し。子どもが小さい間は地域福祉にふれる機会があるが、子どもが成長し社会に出る等すると極端に機会が減少する。この現状を打破することが多くの人々への周知や参加へとつながると思われる。
40～49 歳	今の時代、何かきっかけがなければ近所の方と接点が持ちづらいと思います。コロナもあり、ますますその傾向があります。子どもがいれば周囲との接点ができやすいのでそうでない方々に対して活動があればと思います。
40～49 歳	自分としてはあいさつ、笑顔、親切を心掛けている。
40～49 歳	頼まれれば支援する人は多いと思う。自分も。でも、支援してほしい人としてはご近所づきあいのレベルでは頼みにくいと思う。その掛橋になるような人や組織、仕組みがあるとよいと思う。いろいろな組織があるようなので、再構築してもよいと思う。誰が何をしているのか見えていないので。わかりやすくしたほうがよい。何かのイベントがあると存在は認知するが具体的に何をしてくれているのかもわからない。せっかく活動してもらっているのに、それが伝わらないのがかわいそう。何をしているかがわかれば地域の意識向上にもつながると思う。いい社会にできるといいと思います。がんばってください。
40～49 歳	コロナのこともあり家々が孤立しがちです。子育てや高齢者のいる家庭の見守りが必要だと思っています。災害も多くなってきましたので、すべての住民に情報が共有できることもとても大事になってくると思います。

年代	自由意見
40～49 歳	善意にすぎるのはムリ。仕事、義務化できれば人はやれる。おせっかいをするのが義務で責任であることを強調する。受けたくないは関係ない。行政がどの人権を取るかで取りこぼさないのが行政の使命ならムリにでも担う水準にもっていく。要救助者が望むかどうかは関係ない。バラエティがありすぎて何もできなくなる。気に入らなければ他の自治区に移動できるようにする。自治区ごとの多様性はあるのでそこに選択権を与える。行政が「仕事なので」と胸を張って言える強さが必要と思う。
40～49 歳	質問の趣旨と異なるかも知れませんが、今まで町内会活動や学校のPTA活動などに関わる機会があり、いろいろと感ずることがありましたので、こちらに記載させていただきます。地域で助け合い、安心して暮らすことが出来る社会は、生活する上で、大切なことだと思います。ただ、慣習として行われている月1の定例会議、反省会と称する打ち合わせ会合等、今年のコロナ禍では行えずやむを得ず、取りやめとなった事柄に本当に必要だったのかと考えさせられる、内容も数多く存在していたことは事実です。定例や慣習と言った形式的ではなく、本当に何が必要なのかを考えるきっかけとなった今回のコロナがこれからの社会生活をどう変えていくのか、また、本当に必要なことは何か、ますます進む高齢化社会に向けて、今一度考えないといけない時期ではないかと思っています。また、子育て世帯として感ずるのは、公園のボール遊び禁止など地域一体となって子育てできる環境が少なく、より高齢者との交流機会が増え、一緒に助け合える地域になって欲しいと切に思います。
40～49 歳	個の時代になりつつある現代に、助け合い等の自助努力、地域のつながりといっても推進すること自体に無理があるのではないかな。福祉充実のために安倍政権の間に2度の消費税増税を行なっているが、アウトプットがなく、福祉のレベルアップの実感がない。地方に回っていない。
40～49 歳	私には小学4年生の発達障がい児（自閉スペクトラム症）がいます。困り感を抱えながら小学校に入学と共に不登校になりました。上手く説明が出来ないわが子にどうして学校が嫌なのか。と時間をかけて聞きました。毎日毎日不安で仕方がないとの答えに、安心して過ごせる場所づくりが必要だと学校にもお願いして、今は何とか学校に通っています。8月の終わりから自分自身が、市内の小学校へスクールサポートスタッフとして働くことに成り、現在私は小学校の支援級に入り、困り感を抱えた子ども達と過ごしています。過去の我が子の様子の子ども達は何人もいて、私は、この子達の将来が心配になりました。いろいろなことを覚えるのに、時間がかかるのにもかかわらず、まったく先生や私を受け入れる様子に見えなかったからです。きっと家では自分の居場所として安心して過ごせる場所だと思います。支援級学校と言う小さな団体で、少しでも早く不安を解消できる居場所づくりを作られたらよいなあと心から思います。私の子もまたいつ不登校になってしまうかも知れませんが、だいたい人間不信が引き金です。ひとりでも多くの方が理解できる社会になることを願います。親としても安心して子どもがひとりになっても大丈夫なようにお願いします。
40～49 歳	母と2人暮らしで、悩みも増え、いよいよ相談しなくてはと動き出したところ…。とは言えどうしたらいいのか、なかなかスピーディーには前に進まず、これから勉強しなくてはと、思っています。自分が今こうして大変なことを乗り越えたら次は誰か同じように悩む人にアドバイスや手助けが出来たらいいなと思います。市の方もこれが不足だったと思うことがあればお伝えし、改善していくことへご協力出来たらいいなと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。
40～49 歳	私は障がい者施設で働く職員です。そこで働く障がい者は自宅で地域の関わりは普段からありません。一つの地域にありながら疎遠が現状です。地域活動に生活支援の施設やアパートで暮らすひとり暮らしの方も誰が住んでいるか見えません。どこに住んでいても地域活動に入ることがまず一歩。（戸建ての住民に負荷がかかっているようにも思います）

年代	自由意見
40～49 歳	家には 75 歳のおばあちゃんがありますが、ほとんど家から出ることもなくひきこもりです。働くにも体力の心配とか、若い子が多い所は迷惑をかけたくないという理由で、働くことに消極的になってしまい、友人も少なく相談する人もいない状態です。おばあちゃんの部屋に入ることはできるのですが、ほとんど会話はないうまなので、心配です。同じ年の友人がいればよいのですが、カフェとかオレンジカフェとか知っているのですが、利用しようという気もないみたいです。どうしたらよいですか。私も仕事をしているので、午前中もひとりでいることが多いので、誰か話し相手になってくれる人がいれば少しでも心が明るくなると思うのですが、私も誰に相談すればよいかわからないところだったので、今回このような機会をいただいてありがとうございました。
40～49 歳	アンケートのボリュームが多く、集中力が続かない。質問を絞り、端的にアンケートを作った方が、より効果的によい意見が集まると考えます。
40～49 歳	単世帯、働く若い世帯の子どもへの助けが必要だと思う。子どもを気軽に預けられる場等、地域の時間のある高齢者と小さい子どもが、共に集える場の提供。その場の中で、子育ての相談もできるとよいと思う。また、ひとり暮らし高齢者のみの世帯と、小さい子どもたちが関わりを深く持てるとよいと思う。高齢者のひきこもり対策、病院受診、買い物等、家族への送迎依頼しにくい状況があるため、タクシー券（無料 or 半額になる）等の支援があるとよいと思う。外出を促すことにより、認知症の防止対策になると思う。
40～49 歳	子どものいる家庭は自然と交流が深まるが、子どもたちが成人してしまうと、交流も薄れていってしまう。その辺をうまく継続できないだろうか。校内での集まりことも、一部の人だけでなく、もっと気軽に皆が集えるようにできないだろうか。今は、子どもがいるため、そしてこの地区出身のため母世代の方々とも交流ができているが、もし子どもが他県へと出て行ってしまったり、将来、母世代の方々も亡くなれば、親しい人たちとの交流ができるのか…。正直不安である。
40～49 歳	私は 40 代ですが、自分が子どもの頃と比べ近所づきあいは減っていると思う。個人情報扱いがとて厳しくなった今、今後行政の力は福祉において、とても重要だと思う。身寄りのない人も増えていくと思うので、終活に向けて相談できる場所があるといいと思う。
40～49 歳	町内会などで決めて役割分担することで明確になってよいと思います。
40～49 歳	自分が当事者でないためできれば面倒ごととは避けたいというのが本音のところ。そもそもそのように思うこと自体身近に福祉を必要とする人がいなかったからと思います。その点を顧みると福祉に係る機会が増えたり身近にそういった人がいれば意識が変わってくるかもしれません。身近に接する、情報を得る、という点では町内会は一定の役割を果たしているように思います。組長会ではたびたび議題に上りますし、地域防災活動で要支援者の存在が近くにいることを知ることができました。組長の役割自体数年に一度ですが、地域住民の参加のしやすさで言えば最も敷居が低いと思われます。
40～49 歳	災害時の避難行動についての、教育と訓練が重要と考えます。
50～59 歳	情報の発信が少なすぎ。第 3 次岡崎市福祉計画として、どんなことが実施され、その成果と課題は何なのか知りたい。岡崎市は福祉サービスが他市と比べてよいとは言えないし、相談窓口も少なく対応も丁寧でない。桜城橋などに財源を使うのではなく、福祉サービスの充実や人員確保のために使っていただきたい。
50～59 歳	東京の介護施設に入所する認知症の義母の利用料月額 30 万円のため、働けるうちは働かなければいけない。地域福祉名のもとに無償のボランティアを期待するようなことはしたくないと思っている。親の世話は自己責任でやっていきたい、頑張っています。
50～59 歳	岡崎市には多くの生活保護者がいるかと思います。体も元気で家にずっといる方などには地域のためにもボランティア活動してもらおうとよいかと思います。
50～59 歳	地域と関わりが少なく、福祉の支援を受けている（少し）者として、私でもできることがあればと思うことがあります。市民アンケート調査で地域福祉のいろいろな内容がわかりました。ありがとうございました。

年代	自由意見
50～59 歳	生きる上で幸せって何でしょう。経済的に不自由なく暮らすことでしょうか。私にはまだわかりません。ですが現実には苦しんでいる人が沢山いると思います。経済面だけではありませんよね。家族に問題を抱えている人もいると思います。家族から経済的な問題をかけられている人もいます。そしてどうしてもなくなり自害をされたり、犯罪をしたり。地域福祉に希望、期待するのはそういう人たちをひとりでも減らすことです。そういう人たちが増えれば幸せな日々を過ごしている人まで不幸に導いてしまうことになるのですから。一生安心して暮らすなんてないと思います。生きているといろいろな問題は発生します。でも頑張ろうと思えるのは一生懸命生きていけばいいことが出てくるという経験からくる自信みたいな思いでしょうか。そういう経験を皆が感じられれば道を外すこともないのではないのでしょうか。正直に言いますと今は自分が問題なく他人に迷惑をかけず生きようとすることで精一杯です。でも苦しんでいる人を知らんふりしてまでとは思っていません。なかなか出来ませんが、これが本心です。個人で出来ることは限界があります。福祉の分野ではやはり公共という立場で、税活用など出来ることがいっぱいあると思います。
50～59 歳	社会保障（金）の充実だと思います。富→税→福祉へ。でも、個人の価値観によるものですし、他人に整えてもらうものでもありません。必要性を感じません。→「第4次岡崎市地域福祉計画」。
50～59 歳	歩道が少なくあっても狭く、子ども、年配の方が安心して歩ける道が少ない。また、街灯も少なすぎる。交通の便が悪すぎる。
50～59 歳	福祉的な支援が必要な人に対しては、それぞれ制度があると思うので個別に対応できると思うが、これからは福祉を含めた、あるいは、福祉的なことを実践しながら地域づくりをしていくことが重要であると思う。それには行政だけに頼らないことが肝要である。また、行政も地域に押し付けるのではなく、例えば都市部と山間部とでは地域ニーズが異なるはずなので、居住地域の特性やニーズにマッチするようにしていってほしい。画一的なものではだめだと思う。
50～59 歳	問 22、まだ福祉サービスを受ける環境になく、満足度、重要度の判断がつきません。
50～59 歳	誰もが安心して一生暮らすことができるまち！住みやすいと思える環境を作っていただきたいと願います。未来を担う子どもたちを生み育てやすい環境。現状まだまだ育休等に理解が得られない現実もあります。妊娠と同時に、辞めざるを得ないように思われていることも、それを声に出して言えない人もいる等。障がいを持っている子どもの受け入れ体制の充実。子育て中の親がワンオペで追い込まれないような配慮。誰かに話すだけで、気持ちが軽くなることもあります。フリーに参加できる場所など、転入者にも優しい環境を。まちバスの復帰。低所得者にも優しい市政。子ども食堂等に市から補助。偏見のない人格（障がい者への理解や、子育て中の人への配慮等）づくり。
60～64 歳	福祉に対する問いに、問題ありです。一方的に考え方が強く問われていますので、「わからない」を選びました。
60～64 歳	岡崎市では公共交通が十分に発達しているとは言えない。電車やバスがない（あるいは少ない）地域に住んでいる高齢者や障がいを持った方は、病院や買い物に行くのも車がないと大変不便です。免許を返納すると行動が非常に制限されてしまいます。中心部ではまちバスが走っていますが、時々見かけると利用率はとても低いように思います。であれば人口の少ない周辺部にそのまちバス（むらバスになるでしょうか）を活用して誰もが安心安全に利用できるようにすることを望みます。私自身は交通の便がよい所に最近引っ越してきて快適ですが、ぜひ田舎に住む方々の交通手段を確保してほしいと思います。
60～64 歳	まず一番は幼少期からの学校教育における的を射た先生からの教育の充実。自分だけよければ等の心を養わない教育を小、中学校ではもっと強化すべき（勉強は塾でもできるので…）。
60～64 歳	近所に老人ホームに入所待ちの方がいます。もう少し増やしてはどうかと思います。

年代	自由意見
60～64 歳	40 年前当地に家を建てた時は新しい住宅地として開発が進んでいた。その後年月が経ち新しかった住宅も世代交代が進み、近所といえどもほとんど知らない人となってしまっている。数年前組長をやり、組（約 30 世帯）の様子が初めてわかったしあいさつもするようになった。こういう活動も必要なのだと改めて感じた。子どもたちが巣立つと地域との関わりがより少なくなる。交流の大切さを感じている。
60～64 歳	私はこの住居に 12 年程前に来ましたが、子どもも成人しており取り立てて親しく近所の方と接触する機会もなく、マンションの方ともあいさつ程度です。今は健康で特に手をお借りすることもなくかえって煩わしくなく気楽だと感じています。しかし、このアンケートを答えていくうちに、先のことを考えると不安になってきました。今はできているが将来はどうなるんだろう…と。集まって親しくする機会がありません。町内会の係をやればそういったことは一時的にはありますが。私には精神障がい手帳を持った息子と認知症の母（独居）がおり、面倒を見ております。福祉ではそのような人たちを支援する様々な方法、制度があると思うのですが、こちらから調べて聞いて申請しないと利用できません。「相談窓口で相談をする」といったことさえ思い浮かびません。難しいかもしれませんが、一人ひとりに合った利用できる制度を個別に提示、手続き等を教えていただけたら大変助かります。知っている、知らなかったの違いで随分と生活が変わってきます。きめ細かい福祉サービスを望みます。よろしくお願いします。
60～64 歳	今月 61 歳に成り、本年 7 月 20 日に退職し、無職となりました。幸い現時点では健康、生活に不安がないため（先々は別ですが）、福祉の重要性は認識しておりますが知識も無く、情報収集の努力も怠っております、このためこの程度のアンケート内容となってしまう、今後少しでも把握出来るよう心掛けたいと思いますが、コロナ渦での再就職が最大の課題となってしまうと思われます。
60～64 歳	地域住民がともに助け合い支え合うことの大切さはわかるが助ける相手、助けられる相手も大事だと思う（例：助けてあげたいなと見える人。こんな人を助けるのと思う人）。
65～69 歳	住民 1 人 1 人の意識はある程度あると思う。そのレベルを上げていくための情報が必要であると考え。他人事ではなく自分自身に置き換えて考えることのできる具体的な情報の発信の工夫と具体的な行動ができるようにする環境の整備。
65～69 歳	高齢で免許返納後の買い物、病院等の足があるとよい。緑がなくなっている。消毒、手入れが大変だけど温暖化を進めているのですか。街路樹が取り除かれている、日陰もなくなっている、災害が大きくなる。舗装道路が増えるのはよいが緑がなくなるのはよくない。残念です。地球には適当な水、緑、土が必要です。
65～69 歳	今でも隣近所の人達の声掛け等で、助けられている部分が多くあります、やはり、隣近所の人が常に顔を見て、声かけ合えることが一番安心して暮らすことの出来ることだと思います。そのための支援は、何が出来るかについては、市の方で予算を含めて町内会へ今まで以上に、支援いただければと思います。皆様（行政）のおかげで安心して生活出来ています。有難う御座います。それぞれが御自愛の上、市民のために宜しく願います。
65～69 歳	行政（国や市）の活動を町内会単位まで情報を流す機会を増やす。要望や調査に対しての推進状況を明確にフォローしていることがわかるような対応必要。他の都市のよい所を取り入れる。他の都市に住んでいたが、岡崎は活動が見えない。
65～69 歳	地域に住む人がほとんどわからない。統合失調症、認知症の相談について会社に訪問してもらって地域包括センターを知り、相談して始めて介護のステップがわかった。各現場職場で相談出来る場所があるよとアピールしてもらうととても助かります。地域包括センターの活動で私は、死にそうなところを助けてもらい感謝しています。
65～69 歳	市役所（支所）の窓口は、福祉サービスに関することについて、細かくは教えてくれない。市内に温水プールがなく、子どもたちは市以外の所へ行きます。子どもたち、大人も一年中通して活動できるプールを、ぜひお願いします。夏休み、子どもたちはゲームばかり、もっと運動できることが必要だと思います。

年代	自由意見
65～69 歳	ひとり暮らしの高齢者を地域で見守る・助けるのは理想だが難しい。幼児や小学生は保育所や小学校という仕組みがあって楽しいことや体を動かすこと、学びなど様々な体験ができる。しかし今後は少子化が増え、廃園・廃校も出てくると予想される。提案だがこうした状況を考え「高齢者用の保育所・小学校」送迎バス付を作ったらどうか。友人もでき、学べ、軽い運動や様々な体験学習が楽しい場になると思う。
65～69 歳	地域の祭りや運動会、各種スポーツ大会等、今でも地域の人々が交流する機会は設けられていると思います。ただ、社交性等に個々人の違いがあるため、より多くの人が集まれるよう、皆で声掛けの努力をし、市等からの支援をお願いしたいと思います。
65～69 歳	私の住んでいる所は、緑の多い静かな所です。周りは高齢者のひとり暮らしの方が多く空き家もあり、このまま5～10年もすれば、過疎化が確実にやってくると思うと、不安な毎日を送ってます。
70～74 歳	助け合うこと以前に、個々の家庭を己が守ることが大事で、安易に支援を求めない。(本当に施設に入れなければならない老人ばかりか。疑問があります。)介護保険は正しく使われているのか。町内の寄り合いに強制的なものはないか。
70～74 歳	福祉に関してあまり知りませんでした。
70～74 歳	問 22 の満足度記入は難しく不可。
70～74 歳	コミュニティバスは便利な地域を走っているが、郊外は走っていない。買い物、病院、友人宅 etc、いつでもどこでも行けるようにネットワークを作ってほしい。走るスーパーストア、移動床屋、移動クリニック etc、人が出かけるのではなく、町の機能が移動するサービスは考えられないかな。
75 歳以上	高齢者の健康寿命を延ばすためへのできるだけの手助けが出来るといいです。
75 歳以上	係の方が訪問して聞き取りをして下さい。内容ついて自分で判断できないことが多く、理解しにくい。詳しく説明をして下さい。
75 歳以上	アンケートを取ったからには集計が知りたい。集計をどのように活かしていくのか、またその後を知りたい。支援、情報、活動、相談、出来たらよいことばかりで…。四の五の言わず小さい規模から始めたらよろしい。形ばかりでアンケート答えていてむなし。アンケート集計もお金がかかっているのだから結果を見せて下さい。
75 歳以上	私は満 84 歳の高齢者です。そしてひとり住まいで現在は健康で何の心配もありませんが、経済力がなくなって収入は国民年金で最低額ですので借家住まいで今日から家賃も納めることができません。生きていくことに悩んでいます。女ひとり住まいで借家生活している方には地域の民生委員は時々声をかけるように指導していただきますと嬉しいです。福祉総合相談体制準備室係様へ。現在借家住まいで身寄りのない市民の声です。このアンケートを開封した方はぜひ上司に伝えてください。
75 歳以上	高齢（80 歳）のため、自分の家庭のことで一杯で、他人のことまでは出来ない。また、他の家庭に関わることはおっくうであり出来ない。
75 歳以上	アンケート記入者の私が超高齢者（81 歳）なので何もお役に立てることがなくなりました。寂しく思います。日常生活が楽しく迷惑を掛けないう、気持ちを一寸だけ強くして、感謝して暮らしています。何か不都合がありましたら調べて相談します、いろいろとアンテナを張りめぐらして、頑張っています。ご近所、友人、岡崎市行政に感謝しています。
75 歳以上	人は人の世話になることを快く思わないと考えます。いつまでも自立、働きたい、楽しい生活を送りたいを望むことから、そのための手助けを少しだけ協力する、意欲を醸し出す体質づくりが大切かと感じています。
75 歳以上	現在、岡崎市が行っている福祉行政の具体的な施策が示されておらず、ほとんどの人は具体的な内容（実施事業がわからない）が不明でアンケートは無理だと思われます。今後アンケートの際は具体的な実施例の記載の上、意見を聞くのが望ましいと思います。アンケート集約、分析等、ご苦勞様です。今後とも福祉行政の充実のためよろしくお願いします。

年代	自由意見
75 歳以上	事務的に何事も処理せず、一步踏み込むような気持ちでやっていただきたいです。
75 歳以上	広幡学区西北部に住む私たちの一番困っていることは、市民病院行きのバス路線がないことです。現状は一時間以上かかります。これは病を持ち毎日通院しなければならない高齢者には極めて苦痛です。是非、バスの定時運行を考えていただきたいと願っております。
75 歳以上	地域福祉のお役目は、私達にも元気と安心を得られます。ありがたいと思います。個人的には私は 80 の中途に生きておりますが、幸いなことに現在元気に生きております。先のことはわかりませんが…。自分を見つめ、今行うことを自覚しています。自分が生きていくということは、自分の責任と思い暮らしております。
75 歳以上	89 歳、社会に支えられて本日まで来れたこと、常々深く感謝しております。福祉に携わられておられる方々のご努力にお礼申し上げます。しかしながら、隣人はじめ地域の人々との交流や関わりは皆無に等しい日常生活に、何か欠けたもの、乏しさを感じております。福祉にご努力下さる方々のご苦勞も様子も知りません。それを知れば、それだけで心強く豊かになれると思います。福祉の活動、ご努力の程を知らせてください。PR、啓蒙活動もしていただけたら、うれしく思います。
75 歳以上	介護保険、年金に支えられて生活しているので基本的に国、県、市に対して不満はない。感謝している。ただ町に対しては不満がある。例えば高齢者世帯に対しては順回り組長は免除するとかしないと、公園の草刈り、いろいろ配布、会議等大変である。我家では幸い息子がいるので代行させているが、就職できない。妻が月に 5～6 回転倒するが、左手、足が不自由なので、倒れたら大変である。私（満 88 歳）の力では起こせないの息子と 2 人でやっとこさで起こす。もちろんそれだけではなく失敗したのは時流に乗って免許証を返納したことである。買い物、病院の送り迎え、その他息子にやらせている。子どものいない老夫婦で片方が要介護になったら悲惨である。また近所つきあいの件ではコロナ自粛の時にお互いに話しかけるのは遠慮しがちになる。気安く話しかけられない。自力で頑張るしかないと思っている。
75 歳以上	民生委員採用の規定、基準を明確に地域住民に、わかるようにして欲しい。
75 歳以上	後期高齢者の多い田舎の地域では、どこに行くにも遠く坂道が多いので、車をやめると歩いて集まることは難しくなり家から出なくなり、また、人にも会えなくなり孤独になりやすくなります。年と共に病院に通うことが多くなり、バスの通らない場所もありますし何かと不便です。地域にお出かけ用車など安くてあると便利かと思います。
岡崎圏域	
20 歳未満	今の世の中で、なかなか近隣のひとと自らコミュニケーションを図る機会があまりないので、回覧板などで簡単にコミュニケーションを取れるようにしたら少しは出来るのではないかなと思いました。
20 歳未満	工場からの加工音などが、うるさい。
20 歳未満	私だけかもしれませんが、ボランティア活動などに関する情報がまったく入ってこないと感じています。なので、活動の内容を改善させるより先に情報に関心のない人にまで届けることが重要ではないかと思いました。
30～39 歳	近所の子が上の子が耳が悪く学校が遠いので、働けない。下の子を幼稚園に入れたくても、1 年で出されてしまって幼稚園に年少から通わせることに成っていました。小さい頃から送り迎えを 30 分以上掛けてして大変そうに思いました。どうして働いていないからと言って保育園に入ることが出来ないのか不思議です。産後はホルモンも崩れたり眠れなかったり、お母さんが鬱っぽくなってしまう人が、結構いるんだと感じました。1、2 時間でも赤ちゃんを気軽に預けられたり、環境があったらと思いました。コロナでワンオペしてる人も大変そうだなと感じました。
30～39 歳	共働き世帯の増加により休日が少ない中、地域に関わるのが非常に難しいと自身の現状を踏まえ感じます。小学校の PTA 活動など内容をきちんと精査し、必要最低限の活動にしたうえで、その分できた時間、労力を地域の高齢者のために使うなど、若い力を

年代	自由意見
	正しく使う必要があるように思います。また、市としても地域住民が真に助け合わなければ高齢社会を乗り越えることが出来ないことをもっとPRしていただきたいし、高齢者の方にも若い世代と思いやりをもって交流していただけるような働きかけをしていただきたいと思います。仕事柄、高齢者の頑固さに若い人があまり関わりあいたくないと思っているような様子がよくみられます。これからもよりよい岡崎市となりますよう、どうぞお願い申し上げます。
30～39 歳	自分の住んでいるあたりは高齢者が多いことは知っているが、日ごろあいさつをする程度です。世代間のギャップがあり、コミュニケーションもどのようにすればよいか（そもそも日ごろ皆さんをお見掛けしない）わかりません。若い世代や同じくらいの世代がいらっしゃればまた近所つきあいも違うのでしょうか。ただ、何か不満があるわけではありません。個人的に気になることは、災害があった際避難所に人があふれると聞いています。なので、私たちのような世代は避難所に行かないようにするために備蓄やグッズを数年かけて用意をしています。市がどのような対応をして様々な支援をしてくださるのかイマイチわかっておりません。また、盗難も多い市だと聞いています。それを極力防ぐために高齢者中心に支援をされるとよいと思いました。私は、他の市から結婚を機に岡崎市民になりました。私の周囲の人は岡崎が大好きな人が多いです。皆出て行きたいと言っています。高齢者も子育て世代も若い人も子どもたちも皆が住みやすいと思う市でいてほしいので、自分のできるところから地域の役に立ちたいです。ただ、正直私のような人間は何からしたらよいかあまりよくわかりません。
30～39 歳	福祉とは少し違いますが、以前、自宅前の側溝掃除をしていたところ、たまたま市議会議員の方が通りかかり、取り除いた土をどうしようか迷っていたところを「後日回収に来ます」と言って下さりととても助かりました。普段からこのように巡回等されている方がみえると、“見守られているな”という安心感があるなと感じた出来事でした。このような活動が増えたと、もっとよいと思います。
30～39 歳	子どもが小学生になるまでほとんど近所づきあいはなく、「地域」を意識したことはありませんでした。城南学区は大雨になるとサイレンが鳴ります。そうなった時、どうしたらいいのか不安になりますが、相談する相手がいないと困ります。地域活動には参加した方がいいと思いますが、めんどろなイメージが強く、もっと気軽に楽しく参加できる体制があれば…と思います。
30～39 歳	近隣住民とのコミュニケーションを取れる機会を設ける。
40～49 歳	各地区（学区）ごとに、ホームページを設けてみては。市のホームページでは情報量が多すぎて見る気がしない。意見交換、（回覧関係）学校連絡、イベント情報を主として、見やすいホームページにすれば、地域住民の情報共有につながり、助け合い等が生まれるかも。
40～49 歳	ひきこもりに対する対策をしてほしいです。悩んでいる親がたくさんいるはずです。
40～49 歳	町内会の行事が増えると集まりが多くなって、働いている自分には負担です。
40～49 歳	橋や像、コンベンションホールなどの建物にお金を使うのではなく、福祉の充実に対応して欲しい。コミュニティバス、福祉バスを、名鉄バスが通っていない地域に。古い保育園の建替、トイレの取り換え。困窮者への支援。“今”必要な物にお金を使って欲しい。
40～49 歳	ほとんどの活動について知らなかったなので、より多くの人に認知してもらうことが重要だと思います。
40～49 歳	学福、民生委員等、一部の人が積極的に頑張ってくれようとしているが下には何がどうなっているかわからないことが多い。自分が住んでいる地区でさえ把握できていない。
40～49 歳	福祉について考えるよいきっかけになりました。ありがとうございます。費用が掛かると思いますが、私のような人も多々いるかと思うので、積極的にアンケート調査などされた方がいいのではと感じました。

年代	自由意見
40～49 歳	総代さんは忙しすぎて、仕事を辞めた人、病院にも行く時間がない人、それでも次にやってくれる人がいなくて続いています。その他の役の方も、仕事が多すぎて大変です。社会のためにとがんばってくれていますが、それではいけないと思います。いろいろやりすぎです。コロナで町内会の行事がほとんどなくなりました。でも困りません。近所でトラブルメーカー的な人がいても、市の方ではどうすることもできなくて、住民に押し付けている気がします。そんな人たちをどうにかしてほしいです。
40～49 歳	将来、ボランティアをしたいと思っています。気軽にできるようにすれば皆が手伝ってくれると思います。時代が難しいかもしれませんが…。
50～59 歳	近所の人はまったく知りません。正直不安です。あいさつもなければ何もありません。ひとり暮らしなので本当に家に帰って来ても誰とも話す相手はいません。もっとよい町だと思っていました。素敵な岡崎市にしてください。市役所の人ももう少し丁寧に話をして下さい。いつも何か偉そうで話しにくいです。本当に困っていても何も取り合ってくれませんでした。金のこと、コロナの時のことなど相談してもダメでした。結局自分で解決をしました。
50～59 歳	市の各窓口（福祉にかかわらず）は 24 時間 365 日体制にしていだきたい。それが市民に対する市の義務であると考えます。それに伴い職員の教育をしっかりしてほしい。
50～59 歳	息子二人が巣立ち、姑も今年亡くなり、50 代で夫婦のみになりました。近所も高齢のひとり暮らしの方も多く、空き家もだんだん増えています。顔を見ればあいさつして、気を付けてくださいねと声掛けするようにしていますが…。
50～59 歳	ダンスサークルに趣味で入っています。気軽に老人ホーム慰問など参加できればお互いの交流になると思われます。
50～59 歳	「誰もが一生安心して暮らすことができる」町や人や環境づくりは無理なテーマです。大それています。あなたは安心していらっしゃる人ですか。毎日苦しい思いをすることがあたりまえと思わなければ（人生皆苦）幸せを感じることはできない。幸せはなるものではなく感じるもの。安心も同じです。まずは大きなチャレンジよりも小さいもの本当に困っている人を探して助ける。それを啓蒙、発信する力を行政が導き、確保する。役につけばしかたなく犠牲心でやる。働けるうちは働かなければそれこそお世話になってしまう。生活できるだけの支援ができるなら安心して暮らしたいのでは。地域住民が共に助け合うのは無理。それよりも困っている人がよりつきやすい環境づくりを。できますか。主体的にまた人格者を行政に携わる人が持つべき条件です。アンケートよりもこうすべきこうあるべきと進めてください。岡崎市役所に人格者は何人いますか。その答えを広報にあげてください。
50～59 歳	近隣であっても、助け合いが必要かどうかかわからないです。例えば、ひとり暮らしの方で声をかけて「何かない？大丈夫？何かあったら助けるよ」と言ったことも声を掛けづらいので、その方から「何かあったら助けてね」と表示をする等、町中でヘルプマークをつけた人を見かけるように、ヘルプを希望するというのがわかるとよいと思います。下手に声かけて「いらんお世話だ！」等とトラブルに成りたくありません。町内で、または、町内の中組でわかり合えていたらいいと思います。
50～59 歳	高齢者が安心して免許を返納できる公共バス等の充実を希望します。数年前まで同居していた母（今は亡くなりました）の説得に、バスの利用方法を教えようと同乗して出かけましたが、高齢者にはとても難しいと感じました。路線、時刻、運賃…これらには工夫が必要だと思います。幸い、近所のお友達が、よくバスを利用する方で、運転をやめるきっかけをくださいました。（しかし母がひとりでバスに乗ることはほとんどありませんでした。）あわせて歩道の整備も必要だと思います。岡崎工業高校前の歩道…ベビーカーと自転車がすれ違うには、どちらかが歩道を出ねばなりません。すてきな街づくりの前に、なんとかすべきでは。と日々感じています。
50～59 歳	他人の生活等に入り込んでいくのは、現代は難しいと思う。やはり、行政が入っていくしかないと思います。

年代	自由意見
50～59 歳	高齢化対策。町内会等の活動への補助金の支援。
50～59 歳	平日は特に仕事と家事に追われて地域とのつながりもなく、夫婦二人生活なので子どもを通したつながりもなく、近所とのつながりが希薄であると感じています。将来、ひとり暮らしになった時のことがとても不安です。漠然とした不安ではありますが、将来、家族がいなくなった時の頼れるよりどころが明確になる仕組みが（説明会など）あるとよいのにと 생각합니다。
50～59 歳	地域包括支援センターの方々を増やし、各問題のある家庭、または医療機関からこの家を見てほしい。直接の窓口となり話を聞き、そこから関係部署へつなぐというシステムがよい。1 人、障がい、虐待 etc、家庭→（頼まれなくても訪問）→←（相談）←地域包括支援センター→（報告）→←（問題ありそう、家庭を見てほしい）←医療機関、病院、薬局、保育園。地域包括支援センター→後見人必要、介護 etc 手伝いできるものの手伝い、関係各署との橋渡し。こういう流れの中で各部署としてご近所がある…。
50～59 歳	昭和から平成、令和へと時代が移り変わり、昔のようにご近所同士の話し合いやつながりの縁も薄くなっている。インターネットが普及してきて若者の世帯は情報源のほとんどはネットから得るため、人間関係（ご近所間）も無理に活性化せず、スマホ 1 つであらゆる情報やつながりを得る内容を充実させてほしい。逆にというか、同時に高齢者はらくらくスマホ等を所有していても、そこまでの充実した情報をネットで得ることは無理。やはり市政だより、回覧板、ご近所の声掛けが重要であるため、70 歳以上または、1 人暮らしの高齢者に対してはできるだけわかりやすく大きな文字で書面でお知らせしてほしい。
60～64 歳	なんでも気軽に相談できる施設が各町にあればいいと思います。
60～64 歳	楽しそう。行ってみよう。と思うイベントをやって、近所の人と仲良くなると、助け合い、支え合いがしやすくなるのでは、と思う。
60～64 歳	県外からこちらに就職し、リタイアした人たちの交流の場があればよいなと思います。関東に住んでいたころは、社宅は横浜にありましたが、県外出身の人が多く、実家の遠い人が多かったので自然と助け合いの気持ちがあったように思いますが、岡崎は地元や県内出身の人が多く閉鎖的な印象を受けることがままあります。それは、県民性なのか市民性なのかよくわかりませんが、同県出身、または大きなエリアで分けて九州出身の集う場所、関西出身の集う場所等があれば、そこから何かが生まれ化学反応で、面白い何かが起こるかもしれない。東京やニューヨークのように。
60～64 歳	地域隣近所は大切だと思っています。何かことが起きた時にはお互いに助け合わなくてはいいと感じていますが、思うだけです。今回このようなアンケートを記入していて、福祉に対して勉強になりました。このようなことを知っておくだけでもよいかなと思いました。
60～64 歳	以前住んでいた所（同じ岡崎市内）では、お隣り同志声を掛けあったりすることも出来、地域の情報も自然と入ってきましたが、今の所では誰が住んでいるかも知りません。まったくの孤立無援。仕事仲間や古くからの友人、知人がいるのが救いですが、市外の人。年も取り年々福祉に関心ありますが、何処でどう情報を入手すればよいかも、岡崎市に住むようになり長いですが、何もわからない、知らないという状況に自分でも驚いている次第です。災害時の避難場所さえ、最近知ったところです。岡崎市のことを知って理解しているのは、一部の人だけではないのでしょうか。私だけか。また賃貸アパートに住んでいる人は、その地域では、住民として扱っていただけていないようです。これは前住んでいた所でも酷かったです。取る物だけ取って（町費等々）あとは関係ない、町内会にも出る必要なし、これが現実です。ひとり暮らしには優しくない岡崎市です。こういったアンケートも初めてで、自分の感じてることを言える場もなかったので、もっと言える場があれば一部の人の独裁に成らないのではないのでしょうか。
60～64 歳	まず「誰もが一生安心して暮らすことができる」なんてあり得ない。市、保健所、医師会、社協、事業団等の連携という狭い範囲ではなく、官民一体となった広いネットワーク

年代	自由意見
	クづくりを進める必要があると思う。
60～64 歳	不意の用事や急用等が出来た時に、気兼ねなく近隣の住民に留守番役を頼めるような協力体制づくりが必要と感じる。(昔の日本はこういう関係だった)。そのためには、日ごろから地域住民が気軽に参加できる行事、イベント等、交流の場の充実が必要であり、市としての活動リーダーの養成、派遣、補助金交付等バックアップを望む。
60～64 歳	誰がどこに住んでいるのかもわからない状況での解決策は難しい。個人情報保護法による他人への介入がわずらわしい。どこまでのラインがOKかみえない。
65～69 歳	私の場合は、近所に友人がいるので助けてもらっています。町内には、民生委員の方が訪問して(ひとり住まい、高齢者)見守っているからいいと思います。
65～69 歳	民生委員等の役員さんがわからない。4月1日で書面にて配布してもらいたい。
65～69 歳	高齢化が進んでますが、岡崎市には車がないと不自由な地域が多くあり、車に乗れなくなった時の生活の足の確保が課題となります。名鉄バスを利用すればよいとの声もありますが、路線が十分とは言えません。まちバスの試行がスタートすると聞きますが、検討のスピードを早め、早期に実現させるか、買い物バスを導入する等、市としての支援の確立を期待しております。
65～69 歳	知らないことばかりで勉強になりました。市民のために働いている方々に感謝します。
65～69 歳	これからはひとり暮らし世帯が増えていきます。最後の始末また財産どうすればよいかと思っている人も多いと思います。福祉部の皆様も考えて下さい。
70～74 歳	本年8月に認知症要介護3の認定を受けデイサービスを週5日間利用しています。近隣の人の中には「困ったことがあったら言ってね」と言う人もあれば、すぐ近くにいてもまったく知らない素振りに関係ない様子の人もあり、人それぞれで人間性が問われそうな人もいます。
70～74 歳	私の感じた問題。地域福祉計画の存在知らなかった。現状、現在不自由を感じていない人は地域福祉といっても関心が持てないと思う→不自由を感じていない人に対し何をする必要はない。不自由を感じている人に対しては重点志向すべき。8頁の1～16項目が福祉計画なら総花的すぎると感じます。
70～74 歳	核家族化がすすみ、転入してきた家族とも最初のあいさつだけで終わってしまい、道で会ってもわかりません。今の場所に暮らし始めて50余年が過ぎようとしています。地域福祉に関して、これをすれば「万全」というものはないと思います。人が集まれば考えも人それぞれで、昔のようにおせっかいも人によっては迷惑になりつつあり、個人情報の保護の下、人々は自分を守るため閉じこもりがちです。世代が違えば福祉に関する考え方も明らかに異なり、手助けするのかそれとも放っておくのか悩ましいところです。私自身、生活保護家庭に育ち進学もあきらめくやしい思いをしてきました。人のせいにして道を踏み外したこともあり、今思えば何と身勝手な青春時代だったことか…。人を助ける、人様に助けてもらう、どちらにしても人間性が問われる問題です。一つ言えること、今の子どもたちは恵まれています。子どもは未来の宝とはいえ過保護だと思います。子どもって意外とたくましいもの、その芽を摘んでいるような気がするのは私のひがみでしょうか。
70～74 歳	中心となる市役所職員が現場に出て活動する。職員は業務をアルバイトを主に働いているように感じる。
70～74 歳	私には難しかったです。
75 歳以上	最近まで飲食業に勤めていましたが、コロナのため店が閉店してしまいました。これからは、地域福祉についてまた、近所の人達とも顔を合わす機会が多くなると思いますので、このアンケートを機に、もっと福祉について考えていこうと思っています。
75 歳以上	高齢になると自分の健康、生活などが不安になってきますので地域の福祉の方のアドバイスが必要になります。
75 歳以上	岡崎全体でお祭り、町内行事、スポーツ、レクリエーション、団体活動で皆親しくなり、そして災害にあった時にお互いにしなくなり、何かあった時相談しやすくなる。岡崎全

年代	自由意見
	体がもっとよくなる。岡崎市地域福祉課の皆さん、ありがとうございます。よい市民アンケート調査してよりよい岡崎市にしてください。
75 歳以上	問 22、どの設題も何を問いたいのかわからない。どう答えたらよいかわからないので、この項目に関しては回答を中断します。
75 歳以上	地域福祉についての知識がほとんどなくアンケートに答えはしたものの、主旨を理解しているわけではありません。悪しからず。そのような理由で市民の皆さんが福祉に対する関心を高め、知識を増やし加える必要があると感じました。福祉全般に関する初歩的な小冊子でもあればと思いますが、知らないのは私だけでしょうか。地域福祉についての現実、実際をより多くの市民の皆様が熟知できる方策を取っていただきたいと思います。
不明・無回答	私の感じたこととしてお話をさせていただきます。昔の人たちは皆優しくて人情があり、暮らしは大変だけど皆助け合って生きてきたけど、今の人たちは自分勝手に人のことなど何も思っていない。特に年寄りには邪魔な人と思っているように思います。今はつくづく感じています。私はこの年になるまでいろいろな苦勞をしてきました。まず、大東亜戦争や伊勢湾台風でえらい被害にあってきたのですが、そんなことは今の人は知らんから、私から見たら情けないことです。
大平圏域	
20 歳未満	今、私は高校 3 年生なのだが、岡崎のことを何も知らないことがわかった。18 年間住んでいるのに、もっと自分から地域などの情報に関心を持ち協力していきたい。近くに 75 歳以上の高齢者だけで住んでいる家があるので、もっと気にかけていきたいが、具体的に何をすればよいのかわからない。市の方で、高齢者と若者が交流できる日などを設けてもらいたい。
20～29 歳	高齢者も在宅生活が続けられるようにサービスを充実させてほしい。お金も安く、または無料。年金だけでは大変そう。
20～29 歳	地域住民が共に助け合う必要があるのかわかりません。ボランティアという聞こえのよい言葉でただ働きし、やりがい搾取しているだけではないでしょうか。低賃金で働かせるブラック企業と変わらない気がします。自分の生活で生きるのが精一杯です。地域へ目を向ける余裕はありません。社会人として多くの税金を納めています。もっと税金の使い方を考えて欲しいです。働いている世代と言えるのは、その税金をボランティアの人に、もっと言うなら退職された方が、有償のボランティアをすることで、年金だけでなく、生活の足しになるような、そういう税金の使い方をして欲しいと思います。最低賃金で働いて、生活が苦しい世の中なんて間違っていると思います。もっと社会の仕組みそのものを変えて欲しいです。貯金残高は心の余裕です。もっと豊かになればもっと周りを見ることができると思います。
30～39 歳	誰もが同じように安心して暮らすことは難しい。同じ水準では誰ひとり取り残さないようなきめ細かい相談・支援を市役所に望みます。
30～39 歳	仕事をしながら育児をしています。病気の時（子どもが）の保育園での預かりが、もっと充実したらうれしいなと思います。子どもが病気になると、謝って謝って…という感じで休みながら仕事をするのがすごくきつかった時があったので、子育て支援に病児への対応を充実させる取組があってもよいかなと思います。元気な時は東公園や南公園など、子連れが楽しめる場所がたくさんあるので子育て中は本当に助けられました。
40～49 歳	ひとり暮らしの高齢者への生活面の支援。敷地内の、他人からはゴミと思われるものを、行政の指導と力添えで、早くきれいにできるようにしてほしい。もし、火事とか放火などがあつたらすごく心配です。
40～49 歳	程よい距離感での交流を模索して、その機会を後押しする仕組みの構築が必要。
40～49 歳	近年の福祉を見ていると、形骸化している気がします。福祉をする側もやってやってる、受ける側もしてもらって当然といった雰囲気があります。人と人とのつながりが、損得勘定や他人への優越感劣等感、そんなもので汚されている気がして残念な気持ちになり

年代	自由意見
	ます。このアンケートもそう使われるかわかりませんが、結論ありきにならないようお願いします。最後に、ここ近年岡崎市に対して最も腹を立てたものは、東海オンエアの起用です。モラルとは程遠い彼らに、岡崎市を汚された気がして悲しかったです。
40～49 歳	少子高齢化の時代、30 代 40 代の人達は仕事をしないと生活できない。その収入は自分たちの生活をするだけでいっぱいだと思います。障がい者の親が高齢になった場合、その障がい者の居場所や生活の場所、世話をする人はどうするのか。施設が十分にあるのか。誰が入所の費用を払うのか。また高齢者を支える側も入所費用を支払う余裕があるのか。病院も退院させられ施設にも入所できない人たちはどうしたらよいのか。仕事しながらの介護は無理。子ども達はそれをわかっているのか。小中高生はその現実をどこで知るのか。しっかりとした現実を子ども達は学ぶ必要があり社会は行き場のない人達の支援をどうするのか。病院に任せきりにしていないか。家族に頼っていないか。その家族は幸せなのか。安心して暮らせている人がいるのだろうかと思う。支え合うのが当たり前になるため子ども達に実を教える教育は必要だと思う。
50～59 歳	仕事で一年間人権について関わる仕事をしました。生まれてからずっと岡崎市に住んでいます。岡崎市に被差別部落（地域）があるのを知りました。現代でも「同和地区」「被差別部落」の出身、住んでいるだけで差別を受けていることも知り驚きました。また、今はコロナ禍によるコロナでの差別が発生しています。インターネット社会になり、インターネットによる差別が多発している中、小学校から人権に対する教育が必要だと思います。この人権教育を強化しない限り、地域福祉活動を強化、充実することはできないと思います。
50～59 歳	定期的に独り暮らし高齢者が住んでいる家に訪問する制度の充実を図り、隣近所に関心を持つための活動。例えば3か月に一回程度集会を行うなどする。
50～59 歳	町内会である程度把握して、町内会の代表に聞けば対応できる環境。
60～64 歳	1. 定期的な住民の集まり。町内清掃など。2. 声かけ運動、あいさつ。3. 小グループ化（3～5軒）による交流。「最近どうですか。」など病気やデイサービスの情報把握。4. 町内会役員のリーダーシップも必要。
60～64 歳	75 歳以上の独居老人に血圧、体温等のバイタル情報のオンラインでの収集を無料で行い、異常がある場合は訪問して確認するようなシステムの構築。地域のリーダーと仲が悪く積極的に地域交流に参加したくないような人ももれなく福祉の網にかかるようにしてほしい。経費節約のためにボランティアの拡充を図ることには賛同しない。地域格差もある地域ボランティアなしでも憲法第 25 条が保たれることを切望する。
60～64 歳	無関心→興味を持つ。地域の活動になるべく参加する。障がいをもっていることを隠さず、他人にも知ってもらふ。やってほしいと要求ばかりするのではなく、自分自身も出来ることをやってみる。
65～69 歳	誰もが一生安心して暮らせる町を目指して。今から 20 年も経れば、日本は死のピークを迎えると言います。この美しい自然の山々をお墓のために次々と壊さないでほしい。（やすらぎこうえん）現在ある動物のお墓があるように岡崎にも人間のお墓が必要と切に要望します。そこには墓だけではなく、桜、梅…四季をめぐる景色、子ども、孫たちとお参りして、2、3分で帰るのではなくちょっとした遊具で遊んだり先祖様が眠る所でゆっくり語らい遊ぶ場所であってほしいのです。皆生きている間は個々の人間、亡くなれば皆仏様になるのです。もちろん、今あるお墓をしっかり守っていける人はそれでよし、昨今結婚しない若者も増え、当然後継ぎもなくお墓を建てても代々守っていく人もいない人が増えるでしょう。そういう人たちも歳を重ねれば自分の将来に不安を感じる人もいます。石の町岡崎には暗く思えるかもしれませんが、それこそそういう人たちのお力を借りて大きなピラミッド、古墳型で作ったり、樹木葬だったり…あくまでも想像ですが。とにかく誰もが自由にお墓に眠ることができ、誰もが自由にお参りできるお墓があってもいいのではないかと切に思います。お墓にも多様性があってもいいのでは。そうなれば今を自由に生き生きと生きられると思うのは私だけではないと

年代	自由意見
	思います。誰もが一生安心して暮らせる町岡崎、ぜひご検討をよろしくお願いいたします。
70～74 歳	子ども会、町内会、お祭り、ぼんおどりなどの行事や清掃等協力して活動することのできる限り参加して、町内、近隣の人々が顔を合わせたり、話したりする機会を多くできれば、互いに助け合え、助け合おうという基盤ができる。そのような活動が多く行われるような町づくりをしていくことと福祉を結びつけていけるとよいと思います。
75 歳以上	自分、当年 85 歳でよくわからない。
75 歳以上	1. 高齢者が自動車免許を返納した場合に足がなくなります。その代わりになる乗り物を考えてください。2. 今は隣近所のつきあいも希薄になり話し合いも難しくなっています。公民館を利用して折り紙、詩吟などの集いを行い仲間を作って明るく楽しく過ごせれば。
75 歳以上	1. コロナや災害で職を失った人の援助をしっかりとやること。2. コロナや災害で住む場所を失った人の援助をしっかりとやること。
75 歳以上	私には1男3女の子どもがいます、孫6人それぞれの家庭で幸せに暮らしています。現在私と主人2人暮しでいますが、2人の娘は岡崎、1人の娘は蒲郡、息子は名古屋で生活しています。私と主人は買い物、医者通いは、自分達と長女が車に乗せて行ってくれます。1年に1回は旅行に娘、息子と一家と行きます。孫が大学生に成り車の運転が出来るようになりましたので買い物等、時間が許す限りしてくれます。私がもう 80 歳主人が 82 歳になります、だんだんと身体の衰えを感じます。福祉もいろいろあってとてもよいように思われます。これを上手に利用出来るかにかかっているとおもいます。主人と私痴呆に成らないように注意して過ごしていきたいと思っています。息子や娘がこの点を一番心配してくれています。有難う御座いました。
東部圏域	
20～29 歳	顔見知りを増やすことが、安心につながると思います。
40～49 歳	コロナで難しいとは思いますが、市が主催のイベント等は中止せず、行ってほしいと思います。
50～59 歳	岡崎市は、公共交通機関が市街地から離れると不便になるので、市バスの充実。市街地から離れると、店（食品、日用品、生活必需品）が少ないので、移動販売やネットを使った販売、商品を届けるなど、岡崎市独自の販売活動をする。藤川町の旧国道の交通量が、生活道路（小学生の通学路など）にもかかわらず、交通量が多すぎて危険なので、安全に生活できるように改善を求めます。お祭りや地元の行事などを大切にする地域づくりをしたい。安心安全な街づくり。藤川町旧国道沿いの街灯が少ないため暗いので、街灯を増やしてほしい。暗くて交通量も多いため不安です。
70～74 歳	今はとりあえず健康に暮らせているので安心しているが、いずれ年を取り介護が必要な時が来ると思うので、その時が来たら安心して暮らしていけるようになるためにももう少し具体的に地域福祉について情報発信をお願いしたい。
70～74 歳	岡崎市の福祉政策は「自助」が基本になっていると感じます。箱物行政はもう古い政策だと思いますが、市長はそれにこだわっていると思います。益々高齢化が進む中、出産、子育て、医療など、市民生活に寄り添った行政を進めることが必要であり望みます。地域住民が気軽に集まることが出来る施設に（公民館、集会所、神社(村社)）など地域の活性化を促す施設に予算を回すべきです。高齢者がグランドゴルフに利用している場所が神社（村社）境内では寂しいです。地域性に合わせたきめ細かい行政に期待します。
75 歳以上	昨今、高齢者の免許の返納を推進していますが、田舎に住んでいたら、まず医者へ行くのが困難になります。交通の便の悪い田舎にこそコミュニティバスなどが必要です。障がい者に対しても、自立して生活できるような雇用、賃金の見直し等改善して欲しい。
岩津圏域	
20 歳未満	住みやすい町にしてください。

年代	自由意見
30～39 歳	30 代共働き、妻の実家のサポートがあるので、かなり余裕（金銭面、精神面）があります。今後、介護など自分たちの世帯だけで難しい場合、地域の方の手を借りたい時もあるかもしれません。今は、お手伝いできる立ち位置なので、何ができるのか、した方がいいのか、具体的に知りたいと思いました。
30～39 歳	岡崎市の北部に住んでいるが、利用できる施設が充実していないように感じるので、もっと力を入れて欲しい。例えば、なごみんのキッズスペースが小さくて利用しにくかったり、催し物が南部西部の方でばかり開かれている印象。
30～39 歳	私自身アパートの社宅のため、なかなか同じアパートでも、顔を合わせてあいさつすることもなく、同じアパートでも自分の子どもと同じ年の所もいらっしゃるのに、子育てについて、話したくても、この時代難しいです。何か地域のイベントや行事があれば、話しやすくなりそう。自分も他県から引っ越してきた時、1人でずっと子どもといるのに疲れた時期がありました。子育ては幸せなことだし楽しいですが、喋らない子どもとずっと2人というのは正直しんどかったですが、市政だよりで子育て支援センターの存在を知り、そのセンターに通って、大人のママ友、子どもも友だちができ、助かりました。岡崎は、転入者も多いと思うので、自分のような初めての場所、初めての子育てで、しんどくなることもあると思います。もっと、市政だよりに表面に子育て支援センターという文字があれば、そういう人たちの目につきやすいかな、と思いました。自分が数年前に感じたことです。
30～39 歳	1. 公園をキレイにして欲しい。(雑草やタバコが落ちている)。2. 交通渋滞を解消して欲しい。3. 公園の遊具が古いので新しくしてほしい。種類を増やしてほしい。
30～39 歳	地域の人達の関わりが軽薄になっていると感じているので、積極的に交流出来る機会を作って欲しい。お互いに理解できない相手は怖いと感じると思うので…。公園等人々が利用できる場所も少し寂しい感じがするので籠田公園みたいにキレイにしてほしい。
40～49 歳	今現在、自分の身近な環境に助けを必要としている人がいないため、地域の福祉にほとんど関心がない。ボランティアなどしたい気持ちもあるが、自分も持病があり、しっかり活動できる自信もないので特に行動に移したこともない。困っている方がどんな手助けが必要なのか、こちらがしっかり情報収集する気がなければ情報が入ってこないのが現状だと思います。もっと若い人にもどんどんこんなことで困っている人がいてどんな手助けが必要だと情報が入ればもっと関心が向きやすいのでは。と思います。
40～49 歳	組織だけは多すぎて横の連携が感じられない。情報共有をしっかりと進め、安心して相談できる組織を作してほしい。
40～49 歳	今年度町内会の組長を務めていますが、町内会の総代さんをはじめ役員の皆様が町の住民のためにこんなにも尽力を尽くしているということを初めて知りました。近所に住んでいても顔も知らない人も多く、組長をやっていなかったら近所でも一生活さなかったと思われる方もいたと思います。知り合うきっかけがあればきっと同じ地域に住む人同士の助け合いも円滑にいくと思います。
40～49 歳	福祉に関心はあるが、何をしているのか、どういった物があるのか、ふれる機会がない。窓口など、気軽に参加出来るようになるとよい。
40～49 歳	時代とともに難しいでしょう。アプリへ。
40～49 歳	まちバスを走らせて欲しい、豊田市は¥100 でおいでんバスに乗れる、母が望んでいる。いずれ車の運転が出来なくなると家にこもることしか出来なくなる。まちバスがあれば、高齢者の足替わりとなり、アクティブに過ごすことが出来、日々充実した暮らしが可能になると考えます。特に交通網が弱い地域から整備していただけたらと切に願います。何とぞご検討下さいますようお願い致します。
40～49 歳	近隣とのおつきあいが少なくなってきた現在において、積極的な情報発信と意見交換は重要と考えます。皆に周知されやすく、気軽に立ち寄ることが出来るコミュニティスペースを作ることが必要かと思います。また、そのコミュニティペースも新たに作ったり、市民ホーム等に企業に協力いただいて設置するのはいかがでしょうか。就労支援

年代	自由意見
	にもつながるかと思います（すでに実施されている場合は周知をまず徹底する必要があります）。
50～59 歳	会社員です。地方から岡崎に来たので定年後の人脈は地域の方々になりますが 60 歳もしくは 65 歳までの人間関係はほとんどが会社であり、コミュニティのなかに自分の居場所を作らねばと今から考えています。基本自分で何とかしようと頑張りますが女性と違い、男性は市の制度を理解し、その中を広げないと孤立する人も多いと思います。人と人とのつながりが少なくなりました。新たな出会いの場は元気な老人のいる元気な岡崎につながると思います。まずは気軽に参加しやすい制度にふれてみようと思いました。恵田学区に住んでいますバスがないので子どもが巣立ったら引っ越そうと話している近所の方も多いです。まだこの先 10 年 20 年は大丈夫でも夫婦二人となった時に「本当に住みやすいか。」と考えると都市部に近い所が好ましいので岡崎から出る人も多くなるのではないのでしょうか。一市民として市制にしっかり参加して岡崎を元気にします。難題も多いと思いますが応援しますので共に頑張りましょう。
50～59 歳	声掛け、見守りが大切だと思う。誰でも出来ることだしお金もかからない。矢作の方では、高齢者がおそろいのジャンパーを着て子どもの通学時間帯に交通量の多い場所に立ち、見守っている。個人の自転車の前かごには見守りパトロールの札を付けて、防犯の意識啓発を図っている。とてもよいことだし岡崎市全体に広げてほしい。
50～59 歳	地域福祉に関して関心はある。しかし実際今共働き家庭でもあり、隣近所とのつきあいは祖父母がしてくれている間はそれなりに聞いたりしていたが、いざ祖父母が亡くなったり施設に入るなどしていなくなると希薄になるのは事実である。子どもたちも小中学校を卒業していくと地域とつながる機会が回覧板程度となってしまう。そうすると必然的に関わりは少なくなるのが現実です。防災訓練も近頃は足が遠のき難しいです。努力することに徹するとはいえ、いったい何に参加すると何につながるのか。それもよくわからないのが本当です。そして誰に聞けばいいのか。というのが現状です。
60～64 歳	税金を福祉に使うこと。自分の地域（組や横並び）にどんな方が住んでいるのか。知ること。民生委員さん、総代さんの協力を得て、地域での困りごとを相談する。ひと口に福祉といっても、幅広いと思います。日々の暮らしの中で不安なことや困りごとがあったときに、相談に乗っていただけると嬉しいです。やはり、様々な場面から、顔の見える関係、自分の暮らす地域での助け合いが必要ではないかと感じています。
60～64 歳	生活困窮者への支援制度の発信。
60～64 歳	スーパー、ショッピングセンターなどで車イスマーク、障がい者マークがついた車が車イス専用駐車場に停められないで困っている方を見かけたことがありました…。また、逆に健常者が停めているケースもあります。健常者だけ車イスマークを付けていれば車イスマークのところに停められる…悪用する人がいるのが現実です。目にするたびに腹立たしいです。そもそも、車イスマーク、障がい者マークはホームセンターやカー用品店で購入できるのですか。おかしくないですか。市役所または支所で認定を受けて購入するでもしなければ、悪用する人は減らないと思います。マナーだモラルの問題だと言っていては解決できないのでは。安心して暮らすことができるまちづくりを目指すことを進める…絵空事になってしまいます。私自身もいつ障がい者になるかわかりません。弱い立場の方が当たり前のことが当たり前にできる社会になってほしいですね。私の住んでいる地域では、最寄駅が遠いです。なので車を使う方が多いです。駅から遠い地域に住む所に、足代わりになるコミュニティバス、小さめのマイクロバスなどで車を使わなくてもよいようなアイデアがあるとよいです。私の住んでいる北斗台では名鉄バスが入っていますが、（本数は少ない）大きすぎます。利用者も少ないです。
65～69 歳	なかなか難しい問題です。公園の掃除も 4 回まわってきますが 75 歳も過ぎると身体がえらいという人が出て来て、シルバーさんに町費を倍にしてでもお願いしようという意見も出ています。災害をテレビで見ていると隣近所が大事だというのがわかります。行政だけではまかないきれない場面もあると思います。地域に意見を出させてそれを市が

年代	自由意見
	支援していく形もよいのではないかと思います。町によって高齢化の所もあると思うので。テレビを見て思うのですが、もう少し在宅者は少し散歩を心掛けるとか、車はいずれ乗れなくなるので自転車とか歩いて買い物に行くとか。車に乗っている内に少しでも足腰を使うとか。が、しかし私も5年後10年後のことは自信がありません。よろしくお願いします。
65～69 歳	まったく関心なく過ごしてきてしまったと反省しているところです。今後少しでも機会があれば行事等に参加していきたいと思います。
65～69 歳	1. 公民館など気軽に出入りできて、活動できるようになるといい。入って行ける人と行けない人がいて、行けない人はどのようにして行きやすくなるか。2. コミュニティバスが病院や買い物などにもっと利用できるようになってほしい。
65～69 歳	介護を必要とする家族がいる場合、リフォームでバリアフリーにしたいと思っても、保険適用で回数や金額に制限がありじゅうぶんにできない。高齢者が増えている時代なので、行政からの援助など考えていただけたらと思います。
70～74 歳	私は身体不自由者で現在体調もよくなく、地域社会にほとんど貢献できませんが、役員の皆様の活動に感謝しています。
70～74 歳	地域での活動資金の不足（すべての活動にはお金がかかる）。ボランティアだけでは活動には限界がある。若い人たちにボランティア活動を理解させるかが問題である。災害時の支援活動で実際助ける（支援）ことができるか不安。
70～74 歳	高齢者のひとり暮らしをしている方が増加しています。コロナ感染対策で高齢者への感染を防ぐため離れている子どもたちとか近所の友人とのつきあいが疎遠になっています。困った時、どうしてよいか相談したい時に優しく親切に対応してくれる連絡場所（電話番号）がほしいです。体調不良、詐欺、その他自分では判断できない事柄等、一つの電話番号を冷蔵庫のとびらに貼ってあれば心強いと思います（私も高齢者の仲間入りをしましたので）。
70～74 歳	地域福祉は、住人の助け合いが一番ですが、どうしてもこれが出来ない。自助でなく公助になるような市の施策をお願いします。
75 歳以上	福祉についてあれこれ申せません。お世話になってないので。不足している部分が見えません。私の身体がダメになりましたら、その時に感じたこと申し述べたく思います。宜しく。
75 歳以上	高齢者の多い地域では普段から近所つきあいや外出も少ない。そこで運動不足や意思の疎通を図るためのグラウンドゴルフや体操会などの運動行事に対し支援をお願いし、活動を活性化させてください。お願いします。
75 歳以上	入浴施設を利用したいのですが歩いて行くのに時間がかかり、バスで往復するのは経済的に無理です。1時間に1本くらいのまちバスを走らせてほしいです。高齢者にはインターネットやスマホでコードを読み込んでとよく言われていますが、スマホの機種代金が高いしインターネットもスマホも使いこなせません。
75 歳以上	1. 既に存在するかどうか知らないが、独居老人の支援システムの構築が必要。ひとりになった時（特に病気で動けなくなった時は）助けの連絡も不能になる。そんな時は病院で言う「ナースコール」のようなシステムが必要。各家庭と健康センター（医療機関）を継ぐ連絡手段があると命をつなげると思う。2. プライバシーが絡むので、人と人の助けには限度があるので、積極的に進められる策ではない。今の世では好まれることはない。3. 市で実施していることがほとんどわかっていない。つまり知らない。知らないのがいけないと思うが、発信の仕方にも問題があるかも知れないので、考慮していただきたい。
75 歳以上	ひとり暮らしの高齢者が自分の家で何とかひとり暮らしができるよう、応援していただきたい。買い物、清掃等（現状では時間が少ない）。病院等の通院等移動手段。買い物、通院に利用できる街バスの回路を多くお願いしたい。
75 歳以上	だんだん高齢社会になってくると車がないと買い物に出られなくなり、ミニバスのよう

年代	自由意見
	な物があると便利です。老人はだんだん病院とか買い物に行けなくなって不便です。
矢作圏域	
20～29 歳	当アンケートは福祉を知っている、地域福祉をわかっている前提で書かれており、知らない、知る気もない、関わる気もない人間には答えかねる設問が多い。岡崎市の人口(令和2年版)からも、世帯数が増加に対して、1世帯あたりの人口が減少と、少子高齢化、若年層の低賃金、不景気からも、単身者にとっては自分のことに精一杯であり、地域社会に興味もなく、関わる気もない人が今後増えてくるのではないだろうか。「地域住民が共に助け合う」という昔ながらの考え方は今後モデルとして成り立たないのではないか。アンケートをするにも「0」(興味なし)の母数も共に調査し、考察しなければ、「0」が多くを占めた途端、今までのモデルが通用しなくなる。福祉を市が積極的に進めるスタイル(障がい者手帳や高齢世帯から必要そうな人を探し、ケアマネ的な専門者による訪問)にしなければ、孤独死や老々介護等に人知れず苦しむ人たちは今後増え続けると思う(人件費削減により、人数が少なく、一般会社員並みの給料で、人が集らない市役所には難しい対応策だと思っている)。
20～29 歳	お恥ずかしい限りですが地域の社会福祉についてあまり考えたことはありませんでした。しかし今回のアンケートで社会福祉について考えられるいいきっかけになりました。これからも岡崎市民として地域に貢献していきたいです。
30～39 歳	地域住民に任せっきりでなく、緊急時、災害時等の連携フローを行政が作成し、支援が必要な人まで届くよう情報を提供する。
30～39 歳	地域住民同士が、共に助け合うためには、普段から信頼関係が築けていなければなりません。昨今では物騒になっているので、隣近所と仲良くすることすら希薄になり、そもそも信頼関係を築くことが難しい状況です。では、如何すればよいのか。ということに成りますが、「地域住民が助け合う」ことに、メリットを持たせればよいのです。具体的な施策は直ぐには思いつきませんが、現在の世の中では理想だけでは動かないと思います。「〇〇のイベントに参加したら、□□ポイントが付与される」と言ったようなシステムにすればよいと思います。補助金等も必要になるし、大変かと思いますが、より一層の努力を地域福祉には期待します。
30～39 歳	地域福祉の充実もちろん大切ですが、次世代を担う子どもを安心して育てられる環境づくりも大切です。岡崎は子どもが安心して遊べる公園や、児童センターが少なく感じます。学校教育も他市より古いように思います。子ども達が成人して、子育てをするようになった時、“岡崎で子育てしたい”と思えるような街づくりもしていったほしいです。
40～49 歳	岡崎市の職員が、もっとやる気を出せばよい。
40～49 歳	ボランティアなど無償の善意に頼らず、支援活動のできる人には給料を払い人材を確保してくれたほうが安心です。
40～49 歳	今私に一番身近なのは子育て支援ですが、子どもたちのために旗を持って見守ってくれている方や予防接種や健診などコロナが大変な中働いてくださっている方々、私たちに直接関わりがなくとも市や国をよくしていこうと働いてくださっている皆様にいつも感謝の日々です。まだ引っ越したばかりで今の場所では地域住民の方々と話す機会がなく何から手をつけていいのかわかっていませんが、徐々に自分たちが求められていることを行動に移していこうと思っています。特に主人が中高年の引きこもっている方の支援を充実させてほしいと言っておりましたので、今岡崎市ではどのような状況なのか把握していきたいなと思っています。とりあえず今は隣の方と話す機会があれば何か困りごとがないか聞いてみようと思いました。
40～49 歳	自宅までの道幅が非常に狭く、消防車、救急車が入れるか不安。家の周りの市が所有する土地の雑草をからなければいけないのが苦痛です。相談してもきつい言葉で帰されました。障がい者の私、そして障がい者と暮らす家族は苦勞しています。私ができないのであれば他の家族にと簡単に言いますが、家族も私を支えるために苦勞しています。日

年代	自由意見
	常が大変な思いです。どうしたらあんな冷たい態度がとれるのか、市役所の職員さんは理解できるよう心掛けてほしいと思います。相談なのですから、普通に話をさせていただきたかった。隣の家の人が機械で草をむしっているのならお宅も買えばいいじゃないですかと言われましたが、うちもその草をむしるためにわざわざ購入して草を刈りました。あまりの言いように、言い返すこともできませんでした。人はなりたくて障がいを持ったり、病気になったりしません。とても、くやしいです。
50～59 歳	近年、災害や痛ましい事件など、毎年毎日のように起こる時代となりました、幸い私達岡崎市は、本当にいつも平和に過ごせている地域だと心より思います。ですが、明日は我が身と思い、東北の震災、雨や台風で被害にあわれた方達の立ち直り方や、全部失ってしまった人から聞く貴重な体験談が聴ける時間なども受けていただくと、今、私達が何をし、何をすべきか、すぐくリアルに伝わるのではないのでしょうか。障がいの方や、介護問題についても当事者の人でなければわからない、体験談が私は何よりも人の心に、一番早く届くのではないかと思います。
50～59 歳	福祉に対しては、とにかく情報が少なすぎるので、その部分を利用している人々は知っていても、普通に暮らしていると、まったく何がどうなっているのか、わからない。ボランティアは如何したらよいのか。とか、障がい者の施設が何処にあるとか、もう少し岡崎市民がわかっているともよいと思います。私は手話を学んでいますが、手話の言語条例は、岡崎は、まだでしょうか。福祉に対しての講座や講義なども、もっといろいろあってもよいと思うし、市全体が最初に取り組んで欲しいと思う。これからの時代、もっと障がい者の人々と歩み寄って行ける岡崎市ですと、岡崎市に住んでいても自分の市に誇りに思えるとよいと思う。年寄りの免許返上のために、町にローカルバスが欲しい。岡崎市はもっと交通の便がよいと、年寄りも住み易くてよいと思う。
50～59 歳	60 歳定年後の雇用の確保。簡単にできるアルバイトの紹介。
50～59 歳	地域の民生委員が誰であるかもわかりません。地域の組長さんまでならわかります。誰がどのように選出され、選ばれているのか、情報開示がなされていないように感じます。例えば、70 歳以上の高齢者世帯に対し、地域の福祉関係の人が自己紹介等に来られる際、その子どもや親戚等が、同席出来たら、以後何を依頼したり相談する人が、スムーズに行えるようになるのではないかと思います。同席が困難であれば、電話でもよいと思うが、個人情報保護法のからみで難しいのでしょうか…。
50～59 歳	地域や学校を通してボランティア活動をしてきましたが、本当に困っている人に個人的に手を差し伸べることが出来るかと問われると情報も少なく、なかなか難しく感じます。特に福祉の手助けは頭で理解していても行動するには、自らが積極的に取り組まないといけないのが現状です。学区内で困っている人がどのくらいいるのか、どういう支援を必要としているのか具体的にわかると、個人的にも支援しやすいかと思います。あと、若い人のボランティア意識が低いと思います。自分の利益にならないことはやらない人が多い。コロナ禍の中、多少意識は変わってきているかと思いますが、自分の家族が感染したら、外出もできず、人の手助けを受けないと生活できないことになります。そういった危機感から、もっと他のために動くという意識に変えていくことができるかと思っています。
50～59 歳	市民病院に行かれる方の足としての「まちバス」の充実。自分でも何かできないかと、3 年ほど前より安全パトロールに入りました。父の介護をしながらなので、空き時間に手軽に参加できるからです。主に散歩見回りと下校時の子ども見回りなど。他の地域では、ボランティアグループが活動されている地域もあるようですが、人口の多い地域では、横のつながりが希薄になっているような気がします。このあたり、地域差があるようです。ボランティアグループには気軽に入れることから、ボランティアグループだけではなく、地域のコミュニティグループをうまく作ることが出来れば…とも思います。人の興味が多方面になっている時代なので、同地域の住人のつながりを強くするのは、以前より難しいのかとも思います。しかし、スマホなどのアイテムもこれらには有効な道具にもなりえると思っています。

年代	自由意見
60～64 歳	環境の充実化。大雨時、道路が冠水しないように道路の整備。
60～64 歳	私たちが支援を受ける立場だと思うのでわからないことがわからないです。
60～64 歳	私は矢作地区に住んでいます。ウォーキングが趣味で毎日朝等に散歩に行くのですが、それ以外にも天気のよい日等は車に乗りちょっと離れた岡崎市内の地区にもよく歩きに行くのですが、矢作橋西岸地区等の道路等のインフラ等は他地区に比べあまりにも貧弱であると思います。新興住宅地、康生等の中心地区に比してあまりにも差がありすぎるように感じます。福祉についても同様にならないようお願いします。
60～64 歳	まず知ること。趣味や興味を知ること。
65～69 歳	地域住民一人ひとりが心を開きまずあいさつです。ウォーキングをしていると校区外の土地の小中学生が「こんにちは」と声かけしてくれます。気持ちのよいものです。親近感が持てます。岡崎市民であいさつ運動を始めましょう。
65～69 歳	地域コミュニケーションとしてのお祭りや町役などでの町民との話し合いがあることが重要だと思います。学区の活動も大事で市の広報を周知することが大事だと思います。
65～69 歳	学区福祉委員の方ががんばっていますが、民生委員のなり手がなかなかいないのが現状です。総代は市がバックアップして市に貢献していると見えますが、福祉委員の方も頑張っているのに目立たなく感じます。民生委員に力を与えてほしい…。
65～69 歳	地区の役員（副総代を1年）を担当して思ったことは、毎年決められた行事（町の福祉サロン、区のミニサロンで60歳以上を招待し催し物をする、80歳以上の夫婦、75歳以上のひとりの定期的訪問、友愛訪問等）は実施できるし改善できると思います。しかし、新しい視点、新しい催し物の企画、立案は市でそれなりの組織（人、物、金）でプロジェクトとして運営していく必要があると思います。例えば、岡崎市でしたら愛知県内の他市とベンチマークして地域が活性化している事例の導入を検討するとか…。また、風呂敷を拡げれば、日本国内の他都市のベンチマーク、海外都市のベンチマークのよいこと例を検討し、トライする。以上のことは、エネルギーのある中堅、若い世代が企画、立案そして実行しないと年寄りだけではできないと思います。是非、今後ますますの高齢化に備えて、地域福祉は重要だと思います。従来の活動に加えて、新しい視点の活動を是非お願いします。市役所で新しい組織を立ち上げて、企画、立案、実行をお願いします。その時は進んで協力します。
65～69 歳	気軽に outward 施設、娯楽場での使用料の無料化。現状、何もかも値上がり傾向、福祉に寄り添い心の“ゆとり”が欲しい。
70～74 歳	高齢者に対する交通手段支援策の一層の充実を図る。高齢者運転免許自主返納に対する、1. コミュニティバス路線の拡大と充実、2. 交通運賃の支援。病院、買い物、市役所 etc への移動手段に困る人たちが増大する超高齢化社会への対応策を、市民一人ひとりの気持ちになって考えていただけるような項目を、計画のひとつに加えていただきたい。
70～74 歳	市の福祉政策全般を通して次のことを要望します。地域福祉に対し岡崎市として十分な対応策を進めてきたとは到底思えない。地域福祉には多額な予算を必要としており桜城橋の建設資金の一部を福祉予算として活用してほしい。特に特別養護老人ホームについては待機老人が多く早急に需要を満たす施策を強力に推進してほしい。地域の老人クラブの活動支援に積極的な財政の活用を行い元気な高齢者の育成に寄与してほしい。
70～74 歳	各家庭の様子を知って、高齢者、子どもの様子を誰からでもわかる範囲で困った人には、その様子を1人でも多く伝えて、災害や虐待による死をまねかない、自分の子どもから不審な家庭の子いたら、よく気を付けて虐待など絶対に起こさない努力を国全体でして、そういう家庭の子どもには、絶対注意して、警察、民生委員等、また、隣近所で協力して子ども、高齢者をまもるよう心掛けて欲しい、心掛けて行きたいと思います。
70～74 歳	共に助け合い支え合いは無理だと思います。自分のことで精一杯の人が多く、また、他の人の世話、迷惑をかけたくない、私はそう思います。一生安心して暮らす、そんな夢み

年代	自由意見
	たいなことは絶対にできません。一人ひとりができないのにまちづくりなんて無理。昔みたいに近所のつきあいがなく、顔を合わせることが極端に減った。日本を変えないと…。地域福祉は知らないの、意見等書けません。
70～74 歳	経済的援助（金銭）。
70～74 歳	地域福祉について無関心でいたことを反省しています。
70～74 歳	住民が共に助け合い、支え合えるようになるためには、住民が心のゆとり、時間のゆとりを今以上に持てるようになることが大切だと思います。福祉全般について理解していませんので、正確な判断や答えができていません。（地域福祉に関する取組について）
70～74 歳	問 22 に関しての満足度に関してのアンケートは答えられない所もありすみません。
70～74 歳	1. 名鉄バスの走っていない（本数の少ない）地域でのコミュニティバス「まちバス」が絶対必要です。岡崎市内のどこに住んでいても、安心、安全、便利な生活をしたい。買い物難民、通院難民にならないようにしてほしい。私の住んでいる所は住宅密集地ですが、市役所に行くバスは、朝 8 時、次は 11 時です。これでは高齢になっても免許証の返納はできません。西三河の他市では、無料または安価でコミュニティバスを走らせています。2. 特別養護老人ホームを作ってください。義母は 7 年前に順番を待っているうちに亡くなりました。要介護 4 でした。3. 高齢者や障がい者も含め、市民が使いやすい無料の施設を作してほしい。地域密着のものはありますが、全市的に交流できる場がほしいです。4. 介護職員の労働条件が悪いと聞いています。市として援助して、早期退職しないようにしてください。就職する人も少ないのではないのでしょうか。
75 歳以上	高齢者が増えているので自転車の運転事故を防ぐ活動を考えてほしい。高齢者が運転して若い命、生活を奪われる事故をなくしてほしい。
75 歳以上	私は 83 歳になった女です。今月は娘たちは外国に行っており、孫たちも県外に暮らしております。誰も頼る人がありませんので地域の人達や友人と相談したり地域の福祉の人に相談しております。私はまだ元気ですので福祉に対してしようと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。
75 歳以上	私たちの町内、孤立しています。年齢も高く自動車がなくてはなりません。足腰が痛み買い物病院もままなりません。福祉と聞いても何も感じません。足になるバスとか。タクシーとかもう少し細かく心を…お願いします。
75 歳以上	困ったことがあれば、いつでも相談の出来るような体制を今より是非是非お願いします、お願いします。私は高齢者ですいろいろな知識もないです、宜しくお願いします。雑な回答ですすみません。
75 歳以上	近所の人があいさつする時、暑いから気をつけてねと気にかけてくれます。ありがたいです。このような見守りのできる町であれば嬉しいです。岡崎に生まれ育ち岡崎が大好きです。子ども、老人に優しく住みやすく楽しい岡崎の町にして行ってください。ご苦労様です。
75 歳以上	人はひとりでは生きてはいけないので、皆で助け合い近所仲良く暮らすことだと思う。何かアンケートが多くてとてもつかれました。
75 歳以上	地域巡回の交通手段を考えてもらいたい。
六ツ美圏域	
20～29 歳	地域の人づきあい等、ある程度は必要だと思う。しかし、働いている中で地域の行事や役が負担になってしまうと、どんどん希薄になってしまったり、形骸化してしまう可能性があるの、内容を精選し、充実したものにする方が幅広い年齢層が地域のために動くことができると思う。よろしくお願いします。
30～39 歳	返信用封筒に糊付けすらないのに、助け合いとか言われても説得力がない。
30～39 歳	子育て世代や妊婦に対する福祉サービスの情報発信をもっと積極的に行ってほしい。ママ同士が交流できる場がもっと欲しい。
30～39 歳	低所得の家族が要介護者を支えるため（両親共に要介護など）自分の時間を削って介護

年代	自由意見
	し、働きたいのに働くことも出来ず、益々貧困になってしまわないように、福祉の支援も拡充して欲しいと、切に願います。50、80 問題も益々深刻になり、親が死んでも年金に頼るため、そのまま申告せずに事件にならないように、市や自治体から十分な葬式代と、残った子どもにあたる人にも支援を受けられるような制度が必要と考えます。問題をそのままにして騒がず、取り組んで欲しいです。広報活動も大事ですが、市民の親の家庭や、ひとり暮らしの高齢者の家へ実際に足を運ぶ人を増やして欲しいです。そこから意見や要望がもっとみえてくると思います。公報雑誌も毎月じゃなくてもいいので、地域の人が笑顔で住める岡崎市になっていくことを願っています。
30～39 歳	地区の役員になって、これは必要なのか。と思うことが多くありました。自治会費を集めているのは全員なのに、参加する行事はいつも同じ人。やりたい人はやりたい人だけでやるべきです。スポーツ大会の練習の見守りなど必要ですか。大人なら自分たちでお願いしたいです。子どもの練習なら、見守りや差し入れは必要だと思いますが…。そういった費用を福祉にまわせばよいと思います。今の時代は子どもの習い事など送り迎えに親は忙しいです。朝練のある時は草むしりなど参加できません。やらないと不公平なので、そういうことにお金を使って皆が楽できるようになるとよいと思っています。住んでいる所をきれいにすることも福祉だと思います。
30～39 歳	私の家族には、現在小学生のADHDの診断を受けた子がおります。市内の愛知県三河青い鳥医療療育センターに通っているのですが、市民病院のような発達小児科、心療精神科、リハビリテーション科が連携した支援はなく、残念に思っています。私が知らないだけで親に対する勉強会や交流できる場はあるのでしょうか。もしあるのであればわかりやすい情報提供をお願いします。(未就学児への支援は充実していると思います。うちの子の場合は小学校に通うようになってから発達の遅れや心配事が増えたので、相談する、療育についての知識を得たいと思ったときに支援場所がないと感じました。)
40～49 歳	こんな時代なのでむしろ助け合い、支え合いという文句で子ども達に危険な目に合わせるんじゃないかという方が怖い。そこを付け狙う人たちも少なからずいると思う。
40～49 歳	引っ越しをしてきて地域の方とのコミュニケーションを取りたいと思うこともあるが、不必要に干渉したくない・されたくないという思いもある。地域の清掃活動やイベントにおいても土日休みの職種ではないので参加できない場合が多く、近所の方と話をする機会はまったくと言っていいほどない。どんな年代のどんな職種または無職の方でも気軽に気が向いた時に自由に交流できるような居場所があればよいと思います。また身体的・精神的に問題があったり、もしくは病名を診断されるほどではないとしても不安があって働きたくてもなかなか働けないという方のために少しずつでも簡単で無理のない作業(前ページにあった高齢者への声かけ、手伝い、ついでの買い物等)を通して賃金を得られるような仕組みがあればいいと思います。市民同士のコミュニティーネットワーク(スポーツ、グルメ、カルチャー等)が充実すると話し相手が増えてより楽しく生活を送れると思います。
40～49 歳	岡崎市内を無料で使えるバスで移動できる環境にしてほしい。病院、駅、スーパー等。
40～49 歳	福祉関係は自分事にならないとなかなか関心が持たれないことなので難しいと思います。それぞれを分けて充実することは予算的にも大変で分けると関心がそれぞれのことにしか向かないので。例えば高齢者施設の中に児童センターがあるなど両立することはできないか。これから先働く女性が増えることを考えると大人の目のあるところで子どもが遊ぶことができる場所が必要となってくると思う。学区に1つ、できれば学校の近くなどに上記のもののような場所ができるとよいと思う。生活支援については各個人の状況で対応が変わってしまうので対応できる人を増やすことができればよいと思います。ただボランティアや職員が続けるためにはある程度ちゃんとした評価(報酬)がないと長く続かないのでそのところの予算はしっかりととらないといけないと思います。
40～49 歳	コロナ禍において迅速なご対応、市民への配慮に心よりお礼申し上げます。「働く人も

年代	自由意見
	誰かの子、親、大切な友人である」と日ごろから子どもたちには話しており、家庭の中で、できるだけ「他者を思いやる気持ち」やできる具体的な行動について親と子とともに学びあっています。肩書や専門職といわれる人に問題解決を最初から委ねるばかりでなく、日ごろから小さなこと（ゴミを拾う、困っている人にあいさつをしてみる）をしてみる人を多く育てることが重要であり、その関わりの中から、互いに小さな困りごとを解決しあっていくことが可能な社会になることを願っています。岡崎市の福祉計画が未来につながる、より素晴らしい実現可能なものであることを期待しております。さらなる発展を心よりお祈りしております。
40～49 歳	シルバー人材を活用し、町のために活動してもらえれば、雇用も生み出せてよいと思う。
40～49 歳	地域で福祉を進めようとなると、近所の人家族構成などを知る必要があるが、プライバシーの面もあるので難しいと思う。支援を受けたい人もいると思うが、ほっといてほしいと思う人もいる。一律の支援だと限られたことしかできない。
40～49 歳	ボランティアでは、責任が取れない場合が出てきてしまうこともあるので、地域で有料で活動してくれる人を登録する。草むしり 1 時間…¥〇〇〇（マッチングアプリがあると便利かも）。買い物 1 回…¥〇〇〇etc. 送迎や入浴の手伝いなど、もし事故があると怖いので、市側や地域で保険が必要な気がします。
40～49 歳	親も子も健康に生活できている中で、地域福祉に関する情報にふれる機会はあまりないと言えます。いざ、自分がそのような情報を（必要な時期に）手に入れることができるか不安と思えます。地域住民が共に助け合うというならば、地域ごとに自由に計画をつくり、まちづくりができる補助などがあるとよいと思います。
40～49 歳	8 頁のアンケートは内容をよく知らないので、満足度の回答が正しくできたか自信がありません。もう少し工夫されるとよかったのではないのでしょうか。
40～49 歳	地域福祉はよく知りませんが明るい町づくり期待しています。安心して暮らしていける町づくりをお願いします。
50～59 歳	ひとり暮らしの高齢者の見守り、助けが必要な人が、どうしてほしいのか知ることが出来れば、協力していきたい。町内での話し合いも必要だと思う。
50～59 歳	老後安心して暮らせるように年金の確保。老健施設（老人ホーム等）の低価格化。医療費の補助。何せお金がないと何もできないので低所得者への配慮をお願いします。
50～59 歳	ここ数年、地域の民生委員の活動や、支援状況が事務的になりつつあり、その役割をされないと感じます。人によっては名誉職と勘違いされている民生委員も見られます。困りごと（生活困窮者）の世帯の方の相談や、ひとり暮らしの方の相談や、連絡しても、民生委員はプライバシーには立ち入らないとか、そんなややこしいことの相談はしないなどと言われます。市の福祉課へ連絡するだけですと、言われます。何のための民生委員なのかと思います。当事者能力があり使命感を持って民生委員の職務をして下さる方に依頼して欲しいと思います。また、世帯数の多い集合住宅の場合、その集合住宅より 1 名選任できるように制度を改めていただけるとよいと思います。
50～59 歳	1. 町の総代さんのマメな町の巡回、見守り（負担が大きければ分担で）。2. 心安く相談できるようなオープンなスペースづくり（相談を受ける側が主催するお茶会的なもの。ざくばらんな話ができるような。できない日があってもいいが週 2 回くらいの開催で）。堅苦しい目的でなくお茶会の中から相談事や噂話等でもよい場所（お寺の利用、町内の喫茶）。3. 仕事をしてくれる議員の応援（相互に）（学区内の候補者）。4. 台風や水害の前触れには放送機で、避難場所の案内、持ち物の呼びかけ。町同士の連絡。被害後は共済窓口等の案内や支援窓口の案内を放送したりする。
50～59 歳	自分たちはマンション暮らしのせいか、近隣住民との関わりが少なく、また回覧板等もなく、情報はエントランスでの貼り紙によるところが多いです。周りの住民も煩わしい、面倒といった理由で、深い関わりを持とうとする人が少ないように思われます。本来は、昔ながらのご近所づきあいというものが必要だと思うのですが、なかなか一步を踏み出せないといった人たちが増えているのではないかと感じます。マンション内での高齢化

年代	自由意見
	が進んでいる現在、近隣住民同士支え合っているのか不安を覚えます。
60～64 歳	今のところ困ったことがないので助は必要ないのですが、実家の親がボケてきて暴れたり飛び出したりするのですが、介護認定を受けても要支援1でデイサービスも週1回。施設も要介護にならないと入れないので手を焼いています。地域包括支援センターにも相談に行きましたが、要支援1ではどうすることもできない状態です。要支援1でも利用できる「場」はないでしょうか。
60～64 歳	今のところ困ったことがないので助は必要ないのですが、実家の親がボケてきて暴れたり飛び出したりするのですが、介護認定を受けても要支援1でデイサービスも週1回。施設も要介護にならないと入れないので手を焼いています。地域包括支援センターにも相談に行きましたが、要支援1ではどうすることもできない状態です。要支援1でも利用できる「場」はないでしょうか。
60～64 歳	間 21,24,27,28,30,35,36,38 の制度、〇〇委員など、福祉事業にどんなものがあり、目的、内容、誰がやっているか、まったく聞いたことがない。これでは市地域福祉計画は進まない。まずやるべきことは住民に福祉事業にどんなものがあるか目的（何のため）、内容、誰がやっているか説明し、理解してもらうことが一番（1回だけではダメ）。上記内容の資料を作成し配布。特に、民主委員は誰か…などわかるようにする。時間をかけて住民に福祉事業が重要だとわかってもらうことが重要です。よろしくお願い致します。
65～69 歳	「地域福祉」正直申しまして、ほとんど意識がないです。でも常日頃は近隣と仲良くしていなくては…と思い生活しています。共に助け合い支え合いの精神は、大事だと思います。
65～69 歳	今プライバシーの問題もあり、人とあまり関係を持ちたくない人が増えている。私の住んでいる地区は、田舎であるが現在はあまり関係を持ちたくない若い人が増えている。安否確認も、顔を合わせずスマートフォンであるとか、専用の機器を介してできればと思っている人が多くなったように思う。また、市から住民への依頼事項について指定（選任）された人を使っていることに、次に自分にその役割が回ってきたらしたくないと思っている人も多い。ここは難しいが、必要以上に市が入り込むのも考えるべき時かもしれないと思う。
65～69 歳	今は昔と違って周りの人とのつきあい方が変わってきています。考え方も人それぞれだし、世の中が変わりすぎていろいろ難しいと感じています。
65～69 歳	昔はこのあたりは田舎でいろいろなつきあいもあり、助け合っていたが、新しく入ってきた核家族は町内のことを教えてもウザいくらいにしか思っていない。組の葬式も絶対出席しなくてはいけないがそんなの出るわけないと皆の前で言っていた。今の若い核家族の意識が変わらない限り近所の助け合いなどできないと思う。右を見ても左を見てもそんな人が増えてきたように思う。たぶんその人たちが年を取ってひとりになったら孤独死するんだろうなと思う。どうしようもない。
70～74 歳	私も高齢となりそろそろ運転免許証も返納しようかな、と考えるこの頃ですが、返納となるとちょっと買い物に行くにもバスの本数も少なくそうそうタクシーというわけにもいきません。そこで学区内の市役所関係及びスーパー、医院そうした場所を巡回できるコミュニティバス等があればこれから高齢者社会世帯での生活者にとっては大変ありがたいと考えて提案させていただきます。
70～74 歳	老人のための福祉に力を入れてもらいたいです。例えば、ひとり暮らしの老人に対して運転免許証をとりあげられ、私の住む地域のように交通手段も不便だったら、とても困ります、交通の便をよくしていただきたいです。先のことを考えると介護施設も増やして欲しいです。
70～74 歳	1週間1度ボランティアで手作業（布作品、折り紙）の集まりに参加しております。なかには1週間のほとんど人と話していないという人もいます。高齢で独居生活が多くなる中、1人でも多く外出が出来るとよいと思うのですが、会社まで来るのに足が悪い、

年代	自由意見
	暑い、寒い。なかなか難しいです。会話したりして1～2時間でも帰りの皆の顔はともよいですが、まずは全員がすぐ老人ホームなどを利用できるわけでもないことをよく知り、独居生活になっても地域の中で自分の生活が出来るよう早くから考えて行動できるよう老人も1人で生活できなくなればなんとかしてもらえると考えることを止めなければ頑張れるだけ地域の人の中で生活したいです。福祉委員の男子の方は名前だけではなくもっと顔を出し委員会だけではなく会話に参加してもらいたい。
75 歳以上	福祉と言っても幅が広いと思う。私個人としては何をどうすればよいか、ほとんどわかっていない。情報提供や情報発信方法も何もわからない。情報としては、町内での福祉委員の方、公民館での集まりくらいでどうすればよいかほとんどわからない。
75 歳以上	バス等、交通手段の選択が出来るようになってほしい。市内はバスが少ないため。
75 歳以上	今の生活に満足していますが、今後歳を取って来ますと健康が心配になります。どういう所に生活などの相談をしたらよいか明確に教えていただきたい。
額田圏域	
20 歳未満	近隣住民との協力や対話を必要とする活動。スポーツ活動（地域大会）。総合公園の多様化と、もっと親しみやすく簡単に利用できるよう。ラグビー文化の推進。
20～29 歳	引っ越してきたばかりで近所にどのような方が住んでいるか十分にわかりませんが、高齢者が多く住まれているところです。しかし、バスの本数は少なく病院への通院もタクシーを使われている方をみたことがあります。また、移動販売も週に一度でありなかなか買い物ができないと聞いたことがあります。山ばかりで車の運転ができない方にとっては住みにくいところだなあと感じました。どうか高齢者の暮らしやすいよう考えてください。
30～39 歳	30、40 歳代の方は生活にいっぱいいっぱい近所や地域の方と助け合いたいができない現実ではあると思う。近所に心配な高齢者や子ども達がいたとしてもそれをどこに相談、問い合わせればいいのかわからないこともあると思う。広報などで窓口を案内したり交流の場を設けてもなかなか一歩踏み出すこともできないと思うので、もう少し普段から近所間の交流、市の職員との交流を密にした方がよい気がする。正直「いつでも相談してね」「何かあったら来てね」など言われても、市の職員さんに相談していいのか。ちょっと近寄りにくいかなという印象はあると思うので、もう少し第三者から動いてあげるとよいと思う。例えばどんなケースが救助が必要なケースかを明確にし、対象となる家庭があれば市に連絡下さいなどしておくとうわりやすい気がする。
40～49 歳	代筆として母親の私がチェックしたのですが、息子の名前で届いていたため、息子は身体障がい者1級のため、記入することはできません。そのため、中途半端な意見になってしまいました。すみません。民生委員の方がいらっしゃいましたが、今は交代されてほとんど交流がありません。災害時にどのようにしたらよいか現実としてはわからないけれど、障がい者としての立場上理解していただいているのか不明です。
50～59 歳	地域の高齢化が著しい。将来には（どんな形になるのかかわからないが）より充実した「みまわり」のシステムが必要になると思う。
60～64 歳	コロナのせいで活動が低下している。ワクチン等ができて、活動が再開できるようになった時に、すぐに元通りの活動ができるよう、下準備を怠らないでほしい。
60～64 歳	私の住んでいる所は、公共交通機関がほとんどありません。近所の人を買い物等に連れて行ってあげることは、別段苦でもないのですが、乗せてもらう人は申し訳ないという気持ちを感じたり、言い出せなかったり、あるいは過分なお礼をしようとしたり…と、心に負い目を感じてしまう人もいます。遠慮なく使える交通システムがあればと思います。
65～69 歳	私は子どもの頃から近所の人間・学校などで身体的・精神的ないじめを受けており、現在ひきこもりの状態を高校卒業の後、66歳の現在に至るまで続けているものです。4年前に重い病気になり、これもいじめの原因となっています。心療内科の先生の勧めで障がい者年金を受給し少し金銭的に楽になりました。家庭内でも孤立しています。私にはどのような福祉が受けられるのでしょうか。

年代	自由意見
65～69 歳	福祉予算の使われ方が身体障がい者、高齢者にと使用され、知的・精神障がい者の予算が冷遇されているように思われる。
70～74 歳	「災害時避難行動要支援者制度」について。要支援者と指定された人、つまりひとり暮らしの高齢者等を一律画一的に指定しているが、まったく実態をかけ離れています。要支援者として指定された人の中には未だ現役で働いている人もいます。指定された本人も「私が要支援者。むしろ支援する側だよ」と言っています。昔と違って 70～80 代でも元気な人が多くいます。もっと絞って本当に支援が必要と思われる人を指定した方がよいと思われます。私も以前自治会長をやっていましたが、要支援者の名簿を見てあまり実態とかけ離れており、市のやっつけ仕事のような気がして熱意がわきませんでした。市ファーストではなく地元ファーストです。市の方で一方的に指定するのではなく、自治会長等と協議の上指定するようにしてください。
70～74 歳	私はひとり住まい。健康が一番心配。これからも元気でいたい。見守りしていただきたい。
70～74 歳	田舎のため、転入者をよそ者とみなし広報を回す以外のつきあいはほとんどない。広報がくるのも先月は 8 日でしたが不満も言えない雰囲気がある。
75 歳以上	若い人たちにもっと農業に興味を持ってもらいたい。山の手入れとか、荒れていく農地とかをなくし、農業や林業をもっと若者たちでやれるようにしてほしい。
75 歳以上	質問が難しくてよくわかりません（77 歳の男）。
75 歳以上	「誰もが一生安心して暮らすことができる」と答えるのは少々無理があると思う。（もちろん目指すことは大切であるが…）生きていくことをもっと真剣に考えるような指導とか導き方が必要かもしれないと思う。
75 歳以上	社協、学区福祉、について、一部の人がやっている感じがあり、もう少し透明性を持たせる必要があるのかな。と思ったことがありました。一生懸命ボランティア精神でやっていたと思うが、1 人暮らしである私はもう 7 年になり、今年始めて声掛けをしていただきました。有難い！と思いました。嬉しい気持ちでした。昨年迄は、はっきり言って、あ、“そんなのあるんだ”位で他人事に考えていました。役員の方が悪い訳ではありませんが、1 人暮らしの方をローラー方式でおとさないようにしていただけたら幸いです。でも、役員の方が悪いわけではないことは明記しておきます。皆さん、役員さん、御苦勞様ですね。岡崎市は福祉には充実している感があります。住みやすさも抜群です。左にも書きましたが、もうちょっと気軽に集える場を年寄りに（年寄りにかかわらず）与えてもらえると有難いのでは…。
75 歳以上	自分で生きがいを作る。例、好きな趣味でひとりでも楽しめるもの。早起き、散歩、テレビ体操、編物、手工芸、裁縫、絵画、GG、GB、花壇、生け花、掃除、草取り、野菜づくり、料理。補聴器あっても人の声が聞きづらいので、ひとりが好きです。
75 歳以上	年々増加するイノシシが、農作物を次から次へと食い荒らすことで、生活の楽しみ、生活の安定、生活の夢、すべてを一夜にして破壊してしまいます。稲作田等は、特に農業経営に大きな痛手となっております。減収だけでなく、臭いが付いて商品ととならなくなる生死の問題です。県の指導で柵を設備しましたが、イノシシの強力な力で侵入され、いくら修理をしても次から次へと侵入され、手の打ちどころがない現状です。この問題を解決しなければ、地域は滅亡してしまいます。生きる希望も夢もない生活となります。市、国の強力なご支援を切に切にお願い申し上げます。
75 歳以上	今後の生活について。後期高齢者です。今夫婦だけの生活をしていますが、とにかく田舎ですので困ります。現在は岡崎市内に行くためのバスが、週に 3 回くらいあります。病院に行ける足もありますが、その足がなくなるようなことを聞いております。そうするとどこにも出ることが出来なくなります。今は自動車の免許がありますが、免許証の返納の年齢にもなってきております。今後のことが心配です。今の現状が少しでも長く続くことを願っております。老人ホームに行くことも願っておりますが、それもいろいろと難しくなっているようです。介護、養老園などのことを進めたいと思いますが、

年代	自由意見
	一度説明を聞きたいです。よろしくお願いします。
75 歳以上	お互い会って話ができる場所、喫茶店等田舎は少ない。町へ出かけてもよいが交通手段、バス回数が少ない。高齢者への無料・割引パス等あれば有難い。岡崎市は年寄りへの特典少ない。若い頃はボランティア、地元の活動団体に入り話し合いが出来たが高齢になり体が思うように動かないと出不精になる。市福祉課へたまに出かけますが手続きで窓口の担当者の方、大方は親切丁寧に指導してくれますが、たまにきつい担当者の方がいます。年寄りは理解力衰え、動作がのろいので根気よくお願いしたいです。
圏域不明	
20～29 歳	渋滞が多すぎるので、道を増やしてください。あと、子育て支援や高齢者支援の政策をもっと増やしてください。
30～39 歳	税金を使う場所（事業）をもっとしっかり考えるべき。新しい歩道橋なんて不要で、これからの世代に手厚い支援をしないと、現役世代の生活が豊かにならず、税収は減る。
75 歳以上	地域における出入り自由は公民館。格式張らずに話し合う場所。
75 歳以上	姿を見ると声をかけてくれます。ありがとうございました。
不明・無回答	独り暮らしの高齢者の定期的な訪問で、困っていることを相談できるようにしてほしい。相手が頼みやすくていい。
不明・無回答	新型コロナウイルスが蔓延している中、自由を失う人々が減っていると思います。その人たちのメンタルケアが大切なのではないかと思っています。ひとりでは解決できないことがあったとして、それを多くの人が救えるのではないのでしょうか。ひとまず、人々の交流が出来る場が欲しいです。私は今年の4月に引っ越してきた者なので、岡崎市について詳しくありません。
不明・無回答	岡崎市には働くために来られたひとり暮らしの方や、子どもがなく地域とのコミュニケーションが取れていない方が多く住んでると思います。市からの情報は特にアパート、マンション等ではポスト投函されることが多く、関心のない方はそのままゴミ箱へ行き、大切な情報が共有されていない可能性が高いと思います。アパート、マンション等の掲示板や入口付近、エレベーター等に災害時の避難場所や何かあった時どこに連絡すればいいのか等、貼りだしてもらえると助かると思いますし、少しは関心を持ってもらえるのでは…と思います。

**岡崎市地域福祉策定のための
市民アンケート調査
【調査結果報告書】**

発 行 : 岡崎市
編 集 : 岡崎市 福祉部 地域福祉課 福祉総合相談体制準備室
住 所 : 〒444-8601
愛知県岡崎市十王町2丁目9番地
電話 0564-23-7584
発行年月 : 令和3年3月
